

UFO・超能力・宇宙哲学

UFO contactee

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO・ESP・Cosmic Philosophy
コンタクティー

別な惑星の文明と創造性

イエスの時代を透視する
奇跡を起こすイメージ療法
宇宙船の形態に関する一考察

アダムスキーの思い出と彼の宇宙哲学

SPRING
1996

132



CONTENTS <Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness>

〈巻頭言〉 科学と人間	1
別な惑星の文明と創造性	秋山 真人 2
イエスの時代を透視する	遠藤 昭則 18
科学——SCIENCE	30
GAP短信	32
奇跡を起こすイメージ療法	原 永倉 33
宇宙船の形態に関する一考察	遠藤 昭則 34
アダムスキーの思い出と彼の宇宙哲学	アリス・ボマロイ 36
UFO contactee バックナンバー主要記事	44
好評、名古屋市の講演	46
東京造形大学で講演	47
〈投稿欄〉ユーコン広場	48
〈広告〉新アダムスキー全集	50
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52



金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の女性原理(陽)、右側は男性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基いて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

〈表紙写真〉

1966年5月8日午後1時半頃、ブラジルの首都ブラジリアの南のイパメリで、ジェームズ・ファイアー氏が撮影したUFO。物体は長時間静止した後急に上昇した。

日本GAPへはいいませんか

- 日本GAPはわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究団体です。会員は約1700名、世界でもトップクラスの研究集団として、世界の多くの研究団体や個人研究者と交流を保っています。
- 東京本部と地方の17支部は毎月、月例セミナーを開催し、UFO問題や宇宙哲学の研鑽について研究討議を行なっており、UFO観測会その他の会合を開催して活動しています。
- 東京では毎月第一日曜日に港区東京タワー前の機械振興会館で月例セミナーを開催。わが国のUFO研究と宇宙哲学の大先駆者・久保田八郎会長の解説講義、超能力開発練習その他のプログラムを実施、会員が宇宙的な波動下に研鑽します。品格のある楽しい雰囲気にかけています。
- 入会は中学生以上なら誰でもできます。下記へ入会案内書をハガキでお申し込み下されば、お送りいたします。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP ☎03-3651-0958

《巻頭言》
科学と人間



一九五二年一月二〇日、アダムスキーがカリフォルニア州デザートセンター砂漠で金星人と劇的な会見をしてから早くも四三年が経過した。そして彼の宇宙的体験なるものは風化し、特にアメリカでは偽説の部類に入れられ、顧みる人はほとんどいない状態になった。これはアダムスキーの体験記が一般に出回らないことも一因だが、コンピュータでUFO写真の真偽を分析可能と称するグループが、アダムスキーのUFO写真類を、模型を吊り下げて撮影したトリック写真だと断定

したために、科学という言葉に弱い一般アメリカ人が信じなくなつたせいもあるらしい。しかし編者があるコンピュータの大メーカーに勤める専門家に聞いた限りでは、「いかにコンピュータが発達したとはいえ、UFOのプリント写真を検査して糸を発見することなどが出来るはずはない。その場合は、ネガをタタミ〜二畳程度の巨大な印画紙に伸ばして顕微鏡で精密に検査する以外に方法はないだろう」と語っていた。たぶんアダムスキーを消すために何か

の意図的な操作を施したのではないかと。コンピュータは科学の申し子であろうが、万能でないことはこれに精通している人達が熟知しているところだ。

ところがコンピュータと聞けば科学の神様が放つた魔法の武器のように思い込み、UFO写真の「科学的」分析だから絶対に間違いないと思ひ込んでしまふのが現代の一般の風潮である。機械文明に毒されて「科学」という言葉のワナに取り込まれた現代人は思考を喪失する一方だ。

編者は科学そのものを否定するのではない。むしろ地球人の未来は科学の大発展にかかっているというのが持論である。というのは、地球人がペイロイドの大なる宇宙船を建造して近隣の惑星に到達したときこそ、別な惑星の大文明を発見する最初の幕開きなのであつて、それまでは太陽系文明について特殊な知識を有する人が如何に声高く叫んでも誰も見向きもしないからだ。

そして必ず金星の温度は摂氏五〇〇度近い高温なのでウィルスさえ生存できるはずはないと言ひ出す。この高温説は米政府の宇宙開発機関であるNASA(米航空宇宙局)が、一九六二年の秋から金星探査機を打ち上げた一連の実験の内、一月一四日、マリナー二号が金星を約三万五千キロで近傍通過するのに初めて成功し、そのときに金星表面を走査した一对の熱検知放射

計によつて、その惑星の表面温度は大体に平均摂氏四二五度のデータを得たというのが最初の発表である。その後一九六七年のマリナー五号と一九七三年の同一〇号によつても一様に金星の高温説が流された。一方、ソ連の金星探査機ベネラ七号はついに金星に着陸して、表面温度を摂氏四七五度と報告してきたという。実はこの時期に大きな謎と隠蔽が発生したのである。

一体、米政府や大國政府が宇宙開発による新発見を「はい、このとおりでした」とともに発表するだろうか。NASAは科学者の集団だが、実は米政府の息のかかつた秘密機関が内部に入つてくる信号は数名の最高幹部の秘密の部屋で受信されて、それを改ざんしたデータが別なセクションに送られ、さらに一般に流されているのだと、アメリカのUFO研究者ダニエル・ロス氏が編者に語つてくれたことがある。その内容は驚倒すべきものであつた。

これに関してはロス氏の著書「UFO宇宙からの完全な証拠」(中央アート出版社)にも述べられている。政府というのは政治家と官僚の集団であり、その内部には陰謀、策略、隠蔽が渦巻いているのである。「私達の太陽系の別な惑星に驚異的な文明が存在する」とが惑星探査機によつて発見されました」と、たとえ発見しても、どこの政府がまぬけ顔で発表するだろう。それ

は地球を大混乱に陥れるだけなのだ。編者は科学者のすべてを「純情」だとは思わないが、米航空宇宙局の惑星探査機による発表を「科学」の二文字のもとに二も二もなく信じ込んで、アダムスキーという大先駆者の体験を葬り去ろうとする本などを出している人があるのを見ると(そんな本を読んだことはない。聞いただけだ)、真実科学を理解している人ではないと思う。

ドイツのロケット工学の大先駆者であつたヘルマン・オーベルト博士は、「自分達の研究は別な惑星から来た人達によつて援助されている」と語つていたし、一九六〇年代の初期に編者が京都で会つたアメリカ東部の大会社の社長でアダムスキーの親友であつたアグニュー・パンソン氏は、ある驚くべき情報を伝えてくれた。それは米政府の内部とアダムスキーに関する秘密情報である。実は日本でも世界的な凄惨な科学者がアダムスキーの伝えた別な惑星の重力場機関による推進法をひそかに研究している事実があるのだ。これでもアダムスキーを「世間をだました山師」呼ばわりする者がいれば、一種の盲目としか言ひようはない。編者は他人をけなしたくはないが、あまりにも社会の裏面にうとい人間が科学の名のもとに不遜な言辞を弄するので一言述べた。この論説は攻撃ではなくて直言である。心ある人には理解してもらえらると思う。(久)

別な惑星の文明と創造性

秋山真人 — 哲学博士



○秋山博士はわが国の代表的な超能力者でUFO関係の凄
体験を有する人として有名な方。以下は昨年九月二三日、都
内港区東京タワー前の機械振興会館で開催された一九九五年
度日本GAP総会で行なわれた博士の講演全文。二七〇名の
参会者に多大の感銘を与えた。



▲講演中の秋山博士。 撮影/松村芳之
(1995年9月23日、東京港区の機会振興会館にて)

超能力は創造性

本日は有難うございます。久しぶりにこれだけの方の前でお話をするものですから、珍しく今日はドキドキしております。

いま私どものかかわっている心の問題は、いろんな意味で注目されている時期にはいりました。私がこの人間の能力やUFOの問題や、その手前にかかります超能力や創造性の問題などにかわりをもちました当時は、私が一五歳ぐらいのときでした。今から二〇年ほど前になります。

その当時はまだ本当にまだこういう物(UFO)が存在するのかどうかという論争が、さかんにやりとりされていた頃でございました。そしてこの問題全体に関心を寄せる人の数がまだ圧倒的に少ない時代だったんですね。その当時私はそういった心の力というものに触れる原体験を致しました。それからこの二〇年間、私自身は人

間の超能力、内在する潜在的な力——この超能力という言葉は非常に問題があると言われながらも、いまだに変えることができません。ここで「超」という言葉にたわけなんです。「超」という言葉にはやや語弊があると思うんですがね。人間の内的な創造性と言ったほうが私は正しいと思います。

創造性というのは、ゼロから何かを生み出すことなんです。ゼロから何かを生み出すなどと言いますと、それこそ某教授あたりにはだいたいぶるさく言われそうなんです。

でも人間の心にはそれが出来る力があるんです。私達は原始の時代から沢山の物を生み出してきました。または沢山のシステムを生み出してきました。そういった生み出された物の手前に、私達がそれを作るといふイメージ、意思、集中力、などがなかったら今のこの地球の文明はないわけですね。ここにひとつ私達は地球の文明というものを、私達の先祖の力と共有しながら生み出してきたわけです。

その原動力になるのが、私は今相変わらず超能力と言われているような力ではないかなと思います。

ソニーは超能力を研究してきた

私はGAPでお話をするときには非常にホッとします。テレビとか雑誌等で、またビジネスの先端分野でこういった能力を活用しようという動きが盛んに出てきておりまして、つい先頃の記事でしたでしょうか、週間新潮誌の中で、とうとうソニーグループが超能力の研究をやっていることを公開したという記事が出ておりました。

実はそのソニーグループの超能力を研究する部署というのは、だいぶ以前から設立されていたんです。私もその設立の当初からいろんな意味でかかわっております。いつかこういつかことをおおやけに言える日がくるといいね、ということ、その研究スタッフの人達と一緒にだいぶ前に話をした覚えがあります。その時代がとうとう来たわけですね。

超能力は認められてきた

そういった分野でいろいろと研究はされていますけれども、おおやけの世界になりますと、どうしても超能力の話までは、そういった意味ではなんと認められたといえますか、認めて下

さるようになってきたですね。本当に社会を動かす企業や財界や政治や文化人のトップクラスでも、実はもうこういった能力を認める人の数のほうが多いんです。今、現在は――。

メディアの中でもそういったことを（超能力を）認める人がほんとうに多くなってきました。そこで私が、実は私はUFOと遭遇した経験があるんですと言うと、エーッと言われるんです。ですからなかなかそういった話をオープンに出来ないままここまできている現状があります。しかし、ここでは結構そういう裏話も自由にお話が出るので、今日はしゃべれるだけしゃべって帰ろうというふうに思っております（笑）。

▲東京都千代田区公会堂で超能力実演中のユリ・ゲラー（一九八九年九月二三日）

撮影／松村芳之



超能力者は異星人とコンタクトする

私の非常に親しい超能力仲間で、例のユリ・ゲラー、正確にはウリ・ゲラーというんですが、そういう方がおられます。彼もそういった意味では超能力の使い手の一人です。実は彼も、もともと超能力が発現したときから、UFOとのおつきあいがあったんです。彼は確か三歳から六歳ぐらいにかけて、最初にコンタクトがあつて、自宅の庭の近くにUFOが降りてきて、グリインのライトをパッとUFOから当てられたことが、実際に超能力が発揮されるきっかけだったと言っております。

ただユリ・ゲラーの場合も最近ではUFOの話をする、「またユリがUFOの話をしているのか。あの人があんな話さえないなければなあ」と言われちゃうというので、あまり表に出さないんです。

でも私が今まで世界中でお会いしたさまざまな超能力を持たれている方、創造的な能力を発揮する秘訣をつかんだ方、こういった方々は誰一人漏らすことなしに、間違いなくブラザーズ、つまり宇宙人とかかわりあいがあるという事実があります。これは本当にまぎれもない事実です。

そういう意味ではブラザーズは非常に、ある意味ではシステムの私たち

の文明に援助の手を差し伸べてきていると言えます。

まず、何を援助しているかと言いますと、叡知を与えること、きっかけを与えることで援助しているわけです。よくUFO論争の中では、もし友好的な宇宙人がいるんだつたら、なんでおおやけに出て来ないんだ、国会議事堂の前に（宇宙船で）降りて来ないんだ、瀕死の地球を助けてくれないんだ、という話があります。

または、いつかUFOが大挙して飛来して、地球から私達人類を救って宇宙へつれて行ってくれるということ、宗教的に信じている人達も沢山おられるようです。しかし実際にブラザーズ（友好的な異星人）の私達に対する援助の仕方というのは、そういうやり方ではないということは私は間違いないと思います。

まず私達の心の中に、正確に言えば心の非常に奥深くにある、本当の非常にバイブレーションの高い、非常に高度な、誰もが共有しているその部分にですね、ブラザーズは沢山のヒントを、恵みを分け与えています。また、沢山の力を分け与えているというふうに思っています。

少しおさらいになるかもしれませんが、私が最初にブラザーズに出会ってから、どういう経験をしたか、そしてその中で何を学んだかということ、少しこまかくお話をしてみたいと思

ます。

初め「UFO」遭遇

皆さんもそういった意味では私ども

と同じような経験をされることがある
 かもしれません。また別な意味でブラ
 ザーズからの支援を受けていらつしや
 る方が、この中で沢山いると思うんで
 す。そういう意味ではブラZZの私
 達に対する手の差し伸べ方、援助の仕
 方というのは、心の中にダイレクトに

——といっても最近はやりの変なマイ
 ンドコントロールという意味ではない
 ですよ——あの、非常に愛を注ぐ形で
 私達の自由を守る形で、またそれをう
 ながし、より発展的に創造的にする形
 で、宇宙人は私達の心と握手をしよう
 としているんです。それを非常に感じ
 るんですね。

私は一五歳のときに——最近ではマ
 スメディアでは私は非常にシヨックな
 経験をして超能力が出たんですと話し
 ているんですが——本当のことを言っ
 ちゃうと皆さんはご存じかもしれませ
 んが、要するに大きなUFOを見たとい
 うことなんです。

ソロバン玉のような形をしていまし
 て、フォースフィールドが取り巻いて
 いたのかもしれない。そのような形
 に見えました。オレンジ色で、非常に
 ゆつたりと飛んでいました。

私の視線にそれが捕捉されて、アツ

と思った瞬間に、まるで私の心と連動
 するように、ピシッとこう私の驚きに
 連動するように色を変えながら、赤か
 ら青に色を変えながらサインカーブを
 描くように飛び去りました。

その経験から私はこの世界に足を踏
 み入れてしまいました。そのときに学
 んだことは、まずUFOを見るという
 ことは非常に重要な意味があるとい
 うことでした。UFOの目撃です。

よくUFOと接触された方の話の中
 で、皆さんもお聞きになると思います
 UFOが出た、目撃したと。一〇人で
 見たんだけど、あとでいろいろ話し
 あつてみると、それぞれ見た色が違
 とか、同じUFOを見てるのに、そ
 れぞれ見た目撃の報告の色が違うと
 か、また写真に撮ろうとしたら写らなかつ
 たという話があります。

目撃には意味がある

これは非常に一見不思議なことのよ
 うに見えましてね、またそれがUFO
 は非常に心霊的なものではないかとい
 う考え方の発端にもなったんですけ
 れども、実際にはそういうことではなし
 に、彼らは（異星人は）ある意味があ
 つて必ずUFOそのものを——UFO
 という言い方は正しいかどうか知り
 ませんが——彼らのエアークラフト、

つまりスカウトシップなり、そういう
 たものを彼らは必ずその目撃者にとつ

て意味のある形で見せているというこ
 となんです。

私はそのUFOを目撃したときに、
 そのイメージが鮮明に頭の中に残りま
 した。何度目を閉じても、寝ても覚め
 ても、そのイメージが消えないという
 状態でした。それから数日間はそのこ
 とばかり考えていました。そのことば
 かり描いていました。

そうすると、そのイメージを描いて
 ポーツとしているときに、突然また空
 が気になるんです。で、見ると、見た
 視線の方向にUFOがいるという体験
 を何度かしました。これはその次のフ
 アーストコンタクトの次の驚きだつた
 んですね。なぜ自分の視点のところに
 UFOが来てくれるの？

あちらさんにも都合があると思うん
 です。本当に忙しいと思うんですね、
 ブラZZは。でも、なぜ来てくれる
 のか？ 不思議に思いました。きつと
 何らかのかわりを彼らは考慮してく
 れているんだろうなと思いました。

それが実は最初にブラZZにおつ
 つけた疑問だったんです。その次も何
 度かひんばんに見るようになって、飛
 んで来たUFOに対して今度は自分が
 想念の中で「直角に曲がれ！」と思
 うとパツと曲がつたりするんです。形
 違うUFOが見たいなと思うと飛ん
 来たりするんです。

この前ある研究者の方にお話ししま
 したら、UFOはタクシージャないん

だからと言われましたがね（笑い）。
 でも非常に楽しかったですね。その当
 時はね。

最初は自分一人かまたは自分のすこ
 く気心の知れた知り合いがいないと見
 れなかつたんです。ということは自分
 の心が平穩裏に豊かなバイブレイショ
 ンに満たされて落ち着いていないと現
 われてこないということがわかつたん
 です。私の心理にとっては、夕方の山
 並みにゆつくりと日が沈んでゆくあの
 夕暮れの時間というのは、非常に心が
 落ち着くんです。その時間にUFOを
 見ることが多くなりました。

そのうち、その時間帯であれば、あ
 る程度人数がふえてもよい、つまりど
 んな共有の目撃者がいても、ある程度
 UFOが目撃できるようになりました。
 でも、そのときにも私の最初の疑問、
 つまり「なぜUFOはこんな形で飛ん
 でくるのか」とか、そのときでも沢山
 の人がならんで見えていても、実際に目
 の前で金属的な物体が飛んでいるのに
 「あれだよ、あれ」と言っても、「エー
 ツ」と言つて全然その世界が見えない
 人がいますね。これもすごく不思議で
 した。

でも本当にここで重要なのは、UFO
 は心霊的な存在ではないということ
 です。それは「意味がある」というこ
 となんです。そういう見え方がする
 ということですね。それは彼らのそ
 こからが援助のシステムの一つなんで

す。または写真に撮っても写らないというの也非常に深い意味があります。または写真に撮って写ったということにも当然逆説的に意味があるということなんです。

テレパシーのメッセージがくる

それからしばらく時間がたってから、実際に今度は直接のコンタクトの前に、ブラザーズ側からいろんな意味でテレパシーのメッセージが届き始めました。最初は簡単な幾何学図形でした。私の場合には最初は映像として見えたんです。夜、床に入って目をつぶったり、ボートと目をつぶって瞑想をしたりしますと、まぶたの裏のちよつと上の方目と目の間隔からいくと少し上の額の少し上あたり、またはたまに端の方から出てくる場合もあります。必ず最初の映像は端の方から出てくるんです。それで全体にフワッと広がって映像が全体的に見えるんです。

そのテレパシーメッセージが入っているあいだは、そのメッセージを記録にとるまで、または明確に何か形に残すか、自分の忘れないようになるまでくりかえしくりかえし、私の心理を阻害しない程度に、感情を阻害しない程度に、くりかえしくりかえし、その映像が出てくるんです。

最初はとにかく記録に取るだけなんです。意味がわからないから。でも簡

単な図形から始まって、だんだんと複雑な図形やカラーやムービーになってゆくその過程において、私は彼らの愛情をすごく感じました。「ああ、そうか。最初から複雑なものをテレパシーで映像として送ったならば、ほくは混乱しちゃうだろうな。彼らはそれを配慮しているんだろうな」ということは、幼い心にも僕自身にも非常に理解できて、嬉しいなあと思いました。

ようやく、そのテレパシーメッセージの中で、相互通行が出来るようになる

▲ステージ上で背後から気を送って人体を動かす実験を行なう秋山氏。すべて成功した。

撮影／松村芳之



ったんです。こちら側からこういう疑問について答えてもらいたいんですけど、と思うと、答えのヒントになるような事がパツと映像で浮かぶ、ということが返ってくるようになったんです。それはそれは非常に感動的でした。何かアマチュア無線をやっている方が最初に海外の方と交信をしたような、そういう気持ちだったんです。

異星人の物凄いリサーチ能力

そのときに最初におつつけた質問が「なぜ私に見えたんでしょうね」ということです。また「なぜ特定の人のしか見えないんでしょうか」という質問です。それこそ本当に国会議事堂の前にドカーンと出てきたらいいのにとこういうようなことを私は質問にしておつてたんです。

そうしましたら、彼らは非常に面白いメカニズムを話してくれました。実は私達の意識というのは、本当に高性能のビデオカメラのように、意識しないで見た映像でも、とにかく目に映った物は全部ストックするだけの力を持つているというわけです。潜在意識といいますが、集合的無意識といいますが、心の奥底にある膨大なエリアにスーパーコンピュータ以上の、とんでもないデータ処理の機能があつて、そこに見た映像、つまり映像として知覚したものは全部記録する回路がある

というのです。

要するにブラザーズは、そういう映像をこの人に与えた場合に、この人の心理に対してどういう影響がゆくか、それを明確に科学的に計算できる能力があるというわけです。リサーチできる能力があるというのです。

すると、たとえばこの人が一四歳のときにUFOを見たといいます。そうするとその人はその映像と思い出を持つまま大人になって、そして宇宙的なものに興味を持ったとします。そうすると、その人の息子にはどういう影響がゆくか、どういう教育がなされるか、そしてその人の孫にはどういう影響がのこるか。

そうすると、この遺伝的な気質の流れの中で、UFOを見たという現象自体が、この血管にどういう影響をおよぼし、どういう人間を輩出してゆくか、ある程度そこらへんがブラザーズ側はリサーチが出来るというんです。

ですから、この人の場合には(UFOを)見せたほうがよいと、または見せるのはいいけれども、写真には残さないほうがいいとか、そういうことを考えながら、セレモニー的に、つまり儀式的に、そこに現われたり記録を残したりするわけです。

ですからUFOが証拠を残すということにもすごい意味があるんです。心理的にいいますとね。見せる、映像を残す、音を残す。これはそこからがも

う一種の我々が宇宙的なセンスに近づくためのメンタルトレーニングであると考えてもいいと思います。

要するに彼らは（スペースビープルは）、たぶん私が感じる限りでは、私達の子孫、それも百代近くに至るまでも、——今自分がこういう状態だと私達の子孫の百代がどういう状態で生きてゆくかというような概要まで——かなり明確に把握できるんです。それぐらいの技術力を持った人達です。

それぐらいに心というものの性質、心というものの可能性を大切に大切に大切に人達なのです。それはそれは本当に深い愛を感じました。まあ、愛がすべてではないと地球では言われますけれども、私はその愛が非常に私の人生にとって勇氣になりました。

当然、当時の私はここで将来的にこうやって話をしたりとか、おおよげのメディアにガンガン乗るとか、企業に行つて超能力のレクチャーをするとか、そんなことを将来的にするとか、そんなことは夢にも思っていなかったんです。本当にその当時は夢にも思っていないませんでした。

でもそれが出来る勇氣を与えてくれたわけですよ。当時私は非常に憶病な人間だったと思います。中学生でしたけれども町場の学校から田舎の学校へ転校して行きまして、非常に過敏になつていて、人とのコミュニケーションがうまくゆかなくて、ものすごく萎縮

していたんです。ですから人前に立つとポーツと顔が赤くなるんです。今日は多少昔の赤面症の影響が残っていて顔が赤くなっているかもしれないけれど——。非常にそれがフィードバックされて気になるんですね。よくそういうことはありますよね。自分の体型だとか外見だとか、そういうことがすごく神経質に気になるんです。まわりの評価だとかも気になります。

まあ、気にすることは気にすること、のちの心の肥やしになることは沢山あるんです。当時私はそれによつてもものすごく萎縮していました。気にしすぎて、バランスのとれていない気の使い方をしていたわけですよ。

スペースビープルとともに生きよう

そこに対して猛烈な勇氣を彼ら（スペースビープル）は注ぎ込んでくれました。そのとき私は決めたんです。

「とにかく彼ら（スペースビープル）とともに生きよう」と。そして彼らのなかで勉強した事を少しでも人のために役に立つことがあれば、僕は僕なりのやり方で、少しでも多くの人に話をしてゆこうと思いました。

当時、そのような事に興味を持つ人達が集まって、しだいに人の縁が広がって嬉しかったですね。また、自分と共有して一番嬉しかったことは、自分と同じような体験をしている人がいる

ということに、気がつき始めたときです。そのときの醍醐味たるやものすごく嬉しかったのです。ああ、仲間が見つかったと思いましたね。

高校一〜二年のときに、その当時、私は静岡県の焼津市にある高校に通っていたんですけども、そこにいたときに、私の同級生が「いや、秋山、実はね、おまえがときどき俺に話してくるようなUFOの体験と同じような体験をしているやつがいるんだよ。それも秋山と同じようにノートにUFOの形とかいろいろな図形をメモしたりしているんだよ。会ってみるか」と言われたんです。

メモをしていると聞いたときに、あっ、これはもう同じ経験をしている人なんだろうなあと思いました。それで、会ってみて、お互いにお互いのメモ帳を見てみたら、同じときに同じ形のUFOをしこたま目撃しているということがわかりました。そういうことが何度もあつたんです。

これは私、いろんなセミナーの中でも沢山の人がお話するんですけども、もし、本当にUFOを目撃するような経験があつたら、またテレパシーのようなものを受信するような経験があつたら、皆さん、必ず記録に取つて下さい。その日付にも必ず意味があります。そのときの自分の心理状態にも意味があります。

そういうものを記録に取つた内容

が、あるときには同じ共有の精神状態、共有の波動を感じる、同じ価値観、同じ経験をしている人達とのお互いを確かめあうパスポートになるんです。それと自分の心を開発する、自分の中にある能力や創造性を開発するための重要なバイブルになつてゆくんです。

確かに今はそういった意味では能力開発の本であるとか、超能力を開発するいろんなレクチャーであるとかに関して、いろんなところで聞かれるようになりまして。ほんと楽しい時代であると思うんです。ただ我々はそれぞれに顔付きが違うように、それぞれなりに自分に合った個人的な方法が少しずつ存在するんです。共通項は一緒だとしても、その上にあるもの、つまり個人的な道筋があると思うんです。

要するにブラザーズの教育方法というのは、そういった個性を非常に重んじるやり方をするんです。ですから、テレパシーによる教育システムというのは、個性をねじ曲げずに、個性を抹殺せずに、（地球のように）同じペーパーテストで同じ試験をしないと社会的に認められないなどというような仕組みをとらずに、個々の感性を、非常に社会に有益な創造性まで引き上げてゆくというようなことがテレパシーの教育で出来るんです。それも私にとつては非常に感動的なことでした。

そうして私は沢山の人と話をするようになりまして。ネットワークが出来

奇妙なUFO

1965年8月のある夜、当時14歳の新聞少年アラン・スミスが米オクラホマ州トゥルサの町に降下した物体を撮影した。一見抽象画みたいだが、写真をさかさにするとアダムスキー型のスカウトシップのように見える。

—UFO over Tulsa, Oklahoma—



ました。そして人前でも話をするようになりました。

テレパシーメッセージで 母船の光景が見える

その頃になってきますと、並行してブラザーズのテレパシー的なメッセージというのは非常に複雑多岐にわたりました。彼らに言わせれば、「今あなたが経験しているのは、あなたたちの地球で言う小学校であり中学校であり高校なんです」というような比喻を述べられたことがあるんです。

その内容たるや非常に面白いんです。突然テレパシーイメージの中に、ジュラルミンのような色をした巨大な母船が出てまいりました。ゴーツと視野の中に横から入って来るんです。それはそれはワクワクする勇姿と言いますか、非常にきれいな姿でした。両端がちよっと切れていました。(別な惑星から来る)母船でも両端がちよっと切れた形というのは、これは私達の太陽系内にかかわるブラザーズ達の母船なんです。太陽系外から直接飛んで来る宇宙船に関しては両端がちよっと切れていたり、ちよっと異形の変った形が多いんです。とにかく母船がゴーツと入ってきます。あ、母船だ、今日は母船を見せられるのかなと思っておりますと、いきなり非常にナンセンスな映像が見えるんです。その母船の底の部分から、水

銀のしずくのように、小型のUFOがボタンと落ちるんです。つまり母船の金属の一部が液化化してポタッと空中に落ちるんです。「エツ？」と僕はそのテレパシーイメージの中で目を点にしてしまうわけです。

すると「この意味」という言葉がポツとひらめくんです。それは当然UFOから本場にしずくのように小型のUFOが分かれるわけではありません。本来のUFOは非常に機械的な物だと思いますけれども、そのときには非常に比喩的な映像としてそれを彼らは私に見せてくれているわけです。

最初は意味がわからなかったんです。ですから私は正直に今度は返答として、「わかりません」と答えたいんです。

すると今度はその小型のUFOと母船が分かれて空中に止まっている光景から始まるんです。その先の映像が出てきます。いきなり大空の中に巨大な木槌が出てくるんです。それがシューと出てきまして、小型の小さいUFOをコーンとたたくんなんです。それがコーンと振動するんです。ところが、その振動した瞬間に母船の映像全体がコーンと振動するんです。そのハーモニーが非常に心地よい音になります。

そこでこの意味がひらめくんです。さて困ったなあと思っていました。その当時、それから一カ月弱だったでしょうか、たまたま家の近くのある神社の宮司さんとお話をする機会があ

ったんです。日本の古神道のなかには、「一即多」「多即一」という考え方があるんだということを教わりました。最近よくいろんな本に引用されますところの「百匹のサル」の話があります。一匹のサルがイモの洗い方を覚えると、突然百匹のサルがみんなイモの洗い方を覚えちゃう。

つまり小型のUFOと大型の母船というのは、乗っている乗組員から、それを構成する金属の粒子一つ一つから、完全にテレパシー的になりますか、精神的につながっているんです。

だから小型のUFOがどこかで何かを記録するとしますと、その記録はそこから電波でキューツと飛んで母船に行つて、よしよしと言つてファックスに出てくるわけではなしに、同時に母船に伝わるんです。小型のUFOも母船も同じ物なんです。そういう情報のネットワークなんです。それがわかったんです。「一即多」「多即一」なにかと。

そうしたら次の夢の中に出てまいりました。それは小型のUFOと母船が楽しそうに動いているんです。暗れたきれいな空の光景が出てきました。正解という感じがするんです。

ところがそれだけでは終わらないんです。そこから先にそれに関連する深い意味があるんです。ですから私自身が、なぜ、なぜ、なぜ、と追求すると、どんどん深い意味が出てくるんで

す。逆に言うと、ブラザーズというのは、私達が「なぜ？」ぐらいでとめておくことを、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、と、ずーっと追いかけるシミュレーションを常にやつてらっしゃると思うんです。

ここが結構ポイントなんです。私達が創造性を大きく飛躍的に開発してゆこうとしたら、やはり小さいお子さんのように、親の立場からすると面倒くさいことですが、「お母さん、なぜ、なぜ、なぜ？」と、いうふうに、あれを常にシミュレーションしているというところは、非常に創造性のトレーニングになるんです。

だから彼ら(異星人)は本当にそういったことを深くやっています。そこそが科学だという認識を持っていきます。だから地球上の科学というのは、最近ちよっとそれがあまりないように思うんです。「もう既成の物理学でこのように決まっているんだから、それ以外の物理学を超えたように見える現象はあり得ない」というわけです。これは誰かの常套文句です。

でもこれって非常に否定的だと思っんです。それにあてはまらない現象が出てきたときに、なぜ、なぜ、なぜ、なぜ、をやる気持ちさえあれば、もつと創造的になります。科学も経済も文化も芸術も発展するでしょう。

私はそのときに子供心に本当にワクワクしたんです。その探求をするだけ

でも僕は何でも出来るんじゃないか。思いがりではなしにですよ、そういう実感がスポンと入ってきたんです。その気づきがあったとたんに涙がポロポロ出ました。

別な惑星の建物と教育法

さらにそういったトレーニングがあったり、向こうの惑星の学校や教育施設も見ました。

今日、私はここへ（機械振興会館へ）歩いて来る最中に、この近くにロシヤ料理の店があるんです。「ボツカ」という名の店です。皆さん方の中にも見た方がいますか。そこはロシヤ正教会の形をしているんです。頭の部分がネギ帽子のような形をしています。よく京都の方へ行くと、橋の欄干の所にそんなのがありますね。しずくのような形です。私が見た別な惑星の建物はああいう形をしているんですよ。屋根の部分だ。

それには意味があるというんですが、今日はその意味の話をするので四時間ぐらいぶっとおしの話になってしまします。そこで、ここでは割愛します。

そこでは（その惑星では）どうやって教育をするのかなと思つて、なぜ？と聞いたわけです。そうしたら、本当にもうエンジェル（天使）のような、小さい子供達が、本当にきれいなハーモニーで教会の讃美歌のような響きの、

またはときにはいきなり中東の半音ずれたり（マイナーの旋律の混じるような）ふらふらするような、なんとなくうっとりするような歌がありますね。あのような旋律で、みんながきれいに合唱をやっているんです。

でも、その言葉の一つ一つが実は全部が言語の単語だったり、何か記憶すべき事の内容だったりして、要するに歌をうたうことによつて、いろんな事を記憶しているんです。

私はそれを見たときに非常にいいなあと思いました。ああ、そうか、歌をうたいながら覚えるのかと。自慢じゃないですけど、私自身がむかし物を覚えるのが本当にダメな人間でして、何度も何度も人の何倍もくりかえしてやらないと覚えられなかつたんです。つまり今日起こった事は明日はコロッと忘れていくという、非常に便利な体質だつたんです。それが学問の世界では非常に災いとなりまして、すごく苦労した覚えがあります。そのときに、ああそうか、歌で覚えるのかと思つて、これはだいたいぶ生活の中で活用させて頂きました。

攻撃性のない別な惑星

また別な機会にブラザーズは、こういった物を見せてくれたんです。私は以前の講演で私は別な惑星を訪問した話を致しました。非常に平和な惑星で、



▲秋山氏の驚くべき話しに耳を傾ける日本GAP会員。

撮影/松村芳之

非常にシンプルな惑星で、私は数日間でその惑星の波長に飽きて、あまりにもシンプルすぎて辛いというのを彼らに申し出ました。戦争も何もないんです。植物一つ見ても昆虫一つ見ても、攻撃的な形がないんです。蜂のお尻に

針がない。薔薇のような花はあるけどトゲがない。そういう世界なんです。（ここにいらつしやる）皆さんは本当に初対面でもいい人だとわかる人達です（笑）。（編注）これは誰も疑惑をもたずに真剣に聞いているから、こう言

ったもの)

その惑星で経験したのは、以前の講演でも話したのですが、よく我々は誰かと知り合いの人と道で会うと、何度も挨拶をしますね。相手の気持ちがとても納得しているかわからないから、結局何度も挨拶をすることになります。

ところが(その惑星の)彼らの会釈というのは、相手の目を見てニコツと笑うだけなんです。そうすると、こちらへんが(と胸を押さえて)ポーツと温かくなります。あ、これが会釈というものなんだな、と思いました。

でも二日目ぐらいになつてから、私自身はダメだったですね。これは地球人の性(さが)ですけどね。本当に飽きてきて、苦しくて、やあ、苦しいと言つたら、相手が言うんです。

「そうだろう。君は地球で生きる運命なんだ。そうだろう? 地球へ戻りなさい」と言われたんです。「あの青い惑星で生きなさい」と。

そのときにもその教えの中にあるものは深く深いなあと思つたんです。

私達がおちいりやすいワナ

それまで、私は宇宙人とのコンタクトが始まってから——たぶん皆さん方の中にも、いろんな段階でのコンタクト経験のある方がいらつしやると思うんですが——非常におちいりやすいワナがあることに気づいたんです。宇宙

人やUFOとコンタクトしたり、テレパシーで交信した人が、おちいりやすいワナがあるんです。

それは、『宇宙人に憧れてしまう、ブラザーズ(友好的な異星人)に憧れてしまう』ということなんです。

でも気がついてみたら、私の中にもその当時は宇宙人に対する猛烈な憧れがあつたんです。宇宙人のようでないればだめだと。宇宙人の文明を一つ一つ見せられるごとにですね。

たとえば(あちらの惑星には)お金というものが存在しない。彼らはお金という問題で全く違う価値観を持つているんです。

ただし彼らはお金を否定してそんなつたんではないんです。お金を超えてそうなたんです。これぐらいの(と言つて手が形を示しながら)石のフロップビーのような物があるんです。ガラガラしたきれいな、そうですね、翡翠(ひすい)のような物で作られたような感じの物です。そのフロップビーをある機械の所に置いたり通したりすると、それでその人の今の波動の状況がわかるんです。そしてそれに見合った物質的な物がその人に与えられるという、いわば宇宙共産的なシステムだと思えます。それが彼らの唯一お金に近い物です。

それは我々のキャッシュカードの感覚ともかなり違うようにも思います。波動、即、経済。その人の意識、即、経済。そういう経済システムですね。

それなんかを見ますと私はすごく憧れてしまつて、すごく苦しむんです。なんと(地球の)お金というのは汚いものだろうと思つて、汚いところばかり見えるんです。その惑星に憧れれば憧れるほど、そうなんです。

それで自分の心がねじ曲がつたり、社会に対して批判的になつたり、すきんだり、不満を持つたりしていくことに気がつかないんです。

まず自分の心を豊かにする

一番重要なのは、まず創造主から与えられた私達自身の心です。そこを豊かにしておいて初めて豊かなコミュニケーションが出来ます。そこを豊かにしておいて、初めて豊かに物が見れる、豊かに世界が見える、豊かに宇宙を見ることが出来るんです。これがブラザーズも私達も共有の法則だと思えます。ところがえてして、コンタクトを体験すると、それを忘れてしまうんです。UFOに憧れてしまう。乗つてみたいと。

最近私の所にも沢山の手紙が来ます。秋山先生、一度UFOに乗つてみたいんですが、どうしたらいいでしょうか。

その気持ちがあつてよくわかるがゆえに私は辛いのです。「憧れてはだめだよ。まず乗ることを願ひ祈る前に、きっとその人にとっては、他にやることがあるよ」と、私はこう思つているん

です。かねがねそう思っています。ですから、彼らは(異星人達は)私の強い憧れを、もう一回地球に対する、足もとに対する希望や望みや喜びに向けてさせる意味で、別な惑星での体験をさせたというふうには思います。

ですから、本当に足長おじさんのような話なんです。そのときには素晴らしい体験をしました。ですから、彼ら(異星人)は私を見たら、たぶん本当に小さい存在だろうなあと、チンパンジーに言葉を教える世界だつたんだらうなあと、思うんです。

それで、そうか、そうか、そういうことは、地球の文明はきつといつか宇宙人のような文明になるという憧れの仕方は違ふんだな。私達は私達の個人的な創造性を大切にして豊かな思いで伸ばしてゆくことによつて、初めて地球なりの地球の変え方があると。やはりそこに私達が地球に生まれてきた意味があるんだな、ということを感じました。それも嬉しかったですね。

異星人の言語とテレパシー能力

あと、やはり言葉の問題があります。これも偉大だと思ひました。彼らの言語といいますが、コミュニケーションの問題は、テレパシーという概念の根本をなす非常に重要な考え方です。彼らの世界には物をさす名詞がないんです。たとえば、「コップ」という

名前がないんです。なぜないかといいますが、テレパシーが使えるからなんです。テレパシーを使うためになくしていったと言うほうが正確かもしれません。

私達は「コップ」という言葉にかなり依存して生きています。コップと呼ばば、お互いがイメージの中で共有できます。ところが彼らは頭にコップのことを思い浮かべるだけで、アツとわかるんです。コップという言葉は要らないんです。これを思い浮かべれば全員につながってしまうんです。ですから、この言葉は要らないんです。だから物をあらわす名詞がないんです。これはある意味での彼らの自由さだと思っんです。

ですから、私達地球人と彼らがアクセスする意味で、たとえば最初にある宇宙人が私にアクセスしてきたときに、どのようにお呼びすればいいのでしょうかという話をしたときに、最初に出てきた宇宙人は、いくつかの名前を名乗ったんです。しかしその名前というのは仮の名前だと言っんです。「君達が私のことを思い描くのに、非常に必要な意味がこめられています。だから名前の意味を探索しなさい」と言われたんです。

その当時いろんな名前の宇宙人が現れました。いろんな名前を名乗って、一人の宇宙人が複数の名前を名乗ることもありました。その名前の意味をい

ろいろ調べてみると、非常に古い時代の我々の先祖が、たとえば神を呼ぶ場合に使った名前だったりするんです。ここで誤解なきように申し上げておきますが、古い時代に我々の先祖が呼んだ神というのは、自然界の中の非常に重要なシステムに対して神と名づけている場合が非常に多いんです。創造主そのものを呼んでいるわけではないんです。西洋のゴッドという言葉で神と訳したこと自体に非常に問題があるんじゃないかと思っんですが、何かそこに意味を感じるもの、意思を感じるもの、波動を感じるもの、そういったものすべてに、その波動の感じ方の性質に——まあ私達の先祖の言葉の中には言霊ことだまという言葉がありますけれども——そのバイブレーションに見合った「アウイ」とか「エオア」とか「ケクキ」とか、そういう名前をつけているんです。

そういう意味で彼らはその名前を使っているんです。ですからその名前の意味を私自身が探求してゆくと、その宇宙人の歴史だとか、性質だとか、考えている内容がなんとなく、こういう感じなんだなとわかるようになってくるんです。これも面白いシステムだなと思っました。

でも私達もほんとにふだんの生活の中で、ことばで伝えられないけど、やりとりしているものがいっぱいありますね。その中でも一番代表的なものが、

「気」という言葉だと思っんです。これを海外の人に翻訳して伝えようとしても大変なんです。「気持ち」「気になる」「ハンドパワー」など全部「気」でしょう。この空中に満ちるもの、バイブレーション。よく能力者の方はそれをエネルギーと表現しますけれども、でも今の物理学の測定器の上には乗らないエネルギーですから、なんとなく心でしか測れない力ということになるでしょうかねえ。

でも私達は、あつ、その気ね、あの気ね、とか言っつて、気という言葉だけで結構自由にやりとりしています。私はその部分がテレパシーだと思っんです。実は私達も「宇宙人はテレパシーで通信している。凄いなあ」と思っながらも、実は私達もふだんの生活の中では、かなりテレパシーを使っつていて、思っつています。

異星人の驚異的なテレポーション技術

あと、驚いたのは、空間に関する技術です。空間とか時間に関する技術には、非常に驚くべきものがありました。私は物理学が専門ではありませんから、それをどう科学的に解釈するか説明するかということに関しては、よくわかりません。

しかしながら、その当時見せられた UFO の製造工程過程、操縦に関する過程、UFO の配列、空中を飛ぶ場合

の配列とか、飛ぶ経路、宇宙空間をどういう経路で飛ぶのか、または地球に来たときに地上をどういう経路で飛ぶか、こういったことに関しては、この空間と波動と時間と、これがミックされた彼らなりの膨大な理論体系があるんです。

そのルールを毛先ほどでも違われないように彼らは行動しています。たとえば、その製造過程ですが、非常にわかりにくい部分もあるんですが、わりやすいところからお話をしますと、あるとき見せられたんです。

ある日、突然 NHK ニュースのように、宇宙人の上半身がテレパシーで送られてきたんです。「本日は秋山さんに UFO の製造過程をお見せしたいと思っます」と、いきなり始まるわけですから、ナレーションが。

エーッ、何だろう、突拍子もないことだなと思っんですが、いきなりクシヤクシヤにたたまった風船のような物が出てくるんです。そこにジャバラのような物で出来たゴムチューブのような物がシューッと寄っつてきて、ポンと接続されるんです。そしてブーツとふくらませるんです。そうすると、それがフラットの円盤の形になるんです。

あれ、UFO は風船だったのかと、UFO はゴムで出来ているのかと、ゴムのような金属とか、頭の中がパニックになるんです。そうすると、『まずここまで。そして今度はコントロー

ルームに機材を運び込みます」とナレーションが入ります。

何が行なわれるかといいますと、いきなり上から大きなコンピュータのような物が、そのゴムの風船の上にボンと落とされるんです。外側から内側にテレポーションで放り込まれるんです。それを見たときには順番が逆だなと思いました。非常に驚いた映像なんです。

ただそれも非常に象徴的なんです。正確に言うと、そのとおりにとんでもない形で造られているわけではないんですが、それは非常に象徴的なあるヒントなんです。

そのときに、ああ、テレポーションというの、あるんだなと思いました。そういう技術を利用したとすれば、宇宙のどこにでも現われられるし、空間とか固い壁などを通り抜けられるでしょう。

中国のアポート現象

以前に私が中国に参りましたときに、小型のFMの発信機を能力者がほかの空間にアポート（幻姿）させたという記録を見たことがあります。

そのとき、受信機をそばに置いておいて、FMの発信機から発信している電波がどのように変化するかを検証したデータがあるんです。要するにタイムリーに送受信機を使うことによって、

アポートの瞬間を観測したデータがあるんです。

そのデータは非常に面白くて、まずFMの発信機の電波がずーっと出ますね。能力者が手の中にその小さい発信機を持った瞬間に、断続的に散り始めるんです。切れたり現われたりして、その物体が最初はスローペースですが、現われたり消えたりをずーっとくりかえしていつ、それがすづく激しくなつて、パーツと現われたり消えたりをくりかえして、ピュンと消えるんです。

そして離れた目標の場所に、その断続的な電波の切れたり現われたりが始まって、最初はゆっくりとモヤモヤとした物が現われて、FMの発信機がそこにポタンと落ちるんです。

どうもこれは何か既成の物理学で言われている事とそれほど反した現象ではないんじゃないかと、いうことを中国側でも言っていました。

人間の描くイメージは実現する

でも彼らは（異星人は）それを本当に自由自在にあやつっているんです。時間と空間の概念を超えて――。

私はそのときに「すごいんですね！」と言ったんです。

すると彼らは何と言ったかといいますと、「もうすでにちゃんとテレポーションやアポートの原理は持つて

いる。それを形にすることなんか小さい事だ」と言うんですよ。

私達はなんとかそれを理解できて、形にしていうことにこだわってきたんですが、それも鼻づばしらをポキッと折られたような感じがしました。

「だって地球人の心の中にも豊かなイメージがあるじゃないか。イメージの中は時間空間に拘束されてはいないんだ。そのイメージの中にある概念は必ず現象化するんだよ。その明確な信念さえあれば、地球人も時間と空間を超えるんだ」というわけです。

なるほどなあと思いました。たしかに私もここにいながらにして、ニューヨークの事を思い描くことができます。皆さんもここにいながらにして、この建物の外を俯瞰的に（高所から見下ろすように）たとえば五〇メートル上空から眺めることだってできます。イメージすればよいのです。イメージの中では時間とか空間のクサリは存在していないんですよ。本当に自由です。

そして、その豊かなシミュレーションはやはり忘れないことだと思います。ところが、ここから私達側の問題になります。そういつたいろんなコンタクトを経験したときに、自己反省も含めていろいろなことを考えました。特に私達側の問題として、私達は本来与えられているその豊かなイメージの力とか、イメージを物質化する力を、まず信じられない、なかなか信じられ

ない、という問題があります。

正確に言いますと、なかなか信じられないことによって、信じられないようにするような現象しか起きない、ということが起こっているわけです。私は、イメージが物質化する、そのときその力そのものが、やはり人間の気とかバイブレーションといわれているものだと思っておりますがね。その気とかバイブレーションとかいわれている力は、イメージの鑄型に沿ってしか働かない。正確に言えば、鑄型以外にしか働かないんです。そうすると、その鑄型にまづ強い意味を持たせて、鑄型を正確に持つて、そこにザーツと自分の気力、自分の気を流し込むんです。自分の思いを、祈りを、豊かな心を流し込むんです。

そうすると、それがジフジフと運命の中で形になってゆきます。形になるときには、たとえば誰かが（イメージで描いた望みの物を）持つてくる形になるのかもしれない。または自分が作ることになるのかもしれない。アイデアがひらめいてですね。また誰かと連動して、そういつた事を作るプロジェクトに向かうのかもしれない。それはわかりませんけれども、形の出方というのは、ほんとうにバラバラなんです。ほんとうに個性的なんです。

しかしながら、必ずイメージの鑄型に沿ってそれは働きます。そしてほとんどのイメージそのものを限定しては

ならないというふうに思います。これはほんとに笑い話ですが、ある人に聞いた話です。ある家のご主人さんが、たまに奥様の仕事を手伝おうとして台所に立ちました。奥様がハムを切ってらっしゃいました。ハムといつてもソーセージ型の長いのです。そしてその両端を思いきり大きくバサッと切り落としました。

そのときに、ご主人さんは、なんでこいつ無駄なことをするんだろうと思っただんです。「おまえ、無駄じゃないか、そのハムは」と言っただけです。するとその奥様は「いや、お母さんもこうやってたもの」と言うのです。そこで旦那さんは「じゃ、お母さんのところへ電話をかけてごらん」と言ったら、奥様はお母さんのところへ電話をかけたんです。そうしたら、お母さんが「エーッ、だって、それはおばあちゃんがやってたのよ」と言うわけです。そこでおばあちゃんのところへ電話をかけたなら、「いや、それはね、うちのオープンが横幅が小さかったの。両端を切らないとハムが入らないのよ」と言っただけなんです。

重要な習慣的概念

習慣性というのは怖いですね。ありとあらゆる所に忍び込みます、習慣性は。そしてその習慣性は気がつくとも私達のイメージをがんにがらめに縛りあ

げてしまいます。それこそが一番恐るべきマインドコントロールだと思えますよ。

当然、この習慣性そのものを敵だと思ふ必要はありません。味方にすればいいわけです。いい習慣をどんどん生み出せば、そのいい習慣は形になって全くオートマチックにどんどん働きます。たとえば良いことを言う習慣、一日一回良いことを言う習慣です。

単純なことですけどね。一日一回人をほめる習慣。一日一回楽しいことを思う習慣。二回言うことと三回目は言いやすくなります。三回言うことと四回目は自然に出てくるようになります。七回も八回も一〇回もくりかえし言っていたら、その言葉というのは自分の言葉になるんですよ。それはものすごく大きいことです。

たとえば、人間というのは、どうしても愚痴をこぼす習慣があります。また何かを責める習慣があります。正直に言ってもその習慣を沢山持っているんです。そしてしょっちゅう愚痴をこぼしています。

でも必ずその愚痴の先に、これも私の場合ですけども、愚痴をもう一回二重否定する言葉を付け加える習慣を持っています。「もうだめだ、大変だよなあ。でも何とかなるだろう。大丈夫、大丈夫」

すごくノータンキな人にとときどき見られるんですけどね。でもその習慣

をつける、誰に対していいかと言いますと、自分にたいして一番力になるんです。その言葉が自分を救う力になるんです。自分の言葉に見放されたら地獄です。自分の口が一人でバクバクしゃべっているようなもので、「お前はバカ、お前はバカ」と言っているようなものです。ですから自分の口が味方になるんです。

それと同時に、言葉というのは便利ですね。テレビシーの世界の宇宙人よりも、こっちの方が有利じゃないかと思うほどに、言葉は便利ですよ。だって、言った瞬間にやはりそのまわりの何人かの人に明確なイメージを与えることができるからです。

それと、やはり何か一つの事をしゃべるのに、イメージしながらしゃべるというトレーニングも、すごく有利だと思えます。イメージしながら、しゃべる。さきほどコップといました。ここにストップウオッチがあるんです。これを隠しておいて「今私は後ろでストップウオッチを持っています」というと、ああ、どんな形かな、金時計かな、銀時計かな、文字板はどうなっているのかなと、いろんなイメージが起こります。だけど、そのイメージはストップウオッチという言葉だけでは弱いんです。

教えますよ。私が後ろで手に持っているものは、実は丸い物なんです。上にポッチがついています。針が二本

ついているようにも思ったなあ、と言いますと、そうするとなんとなくイメージがモヤモヤしてきます。それで自分がハッと気づいた、それはストップウオッチでしょう、と言ったときに、その人にとっては、イメージがすごく楽しいものになります。

そういう言葉の投げかけ方というのは、「愛」の一つではないかと思えます。特にこの中にも、たとえばセールスだとか、何かを説明するお仕事だとか、人に何かの意味を伝えることが即、自分のお仕事につながるような立場におられる方があると思います。

そういう方にとっては、やはりイメージの表現というのは大切になるんです。あまり商業的な話もあれなんですけど、この前日本である分野ではセーカルの神様といわれる人とお話する機会がありました。

その方はロシアにある小さな島のセーカスをしていてということなんです。「今私が売っているのは、島なんです。島をどこかの大使館に売ろうと思ってるんですよ」と言っていました。

その人が最初にそのセーカスの分野にはいつて売った物は、何か輪ゴムか何かだったらしいんです。今は島を売っているんです。

そこで、それは面白いですね。どうやってセーカスプレゼンテーションを行なうんですかと聞いたら「商品のことを説明しないことです」と言うんで

す。これは非常にオドロキでした。じゃ、どうやって説明するんですかと言ったら、『商品の外側のイメージを相手が描きやすいように、相手のイメージの中にはいつて説明するんです』と言っていました。ああなるほどと思いましたね。

「私達の心理というのは、どこかでアマノジャクな部分があります。相手が何かを隠しておいて、『見たい？ 見たい？ 見せないよ』と言われると、見たくなくなるんですね。

ところが、『見て下さいよ、絶対に見て下さいよ』と言われると、かえって見たくなるんです。^{くま}

このところが人間のある種の個性的な特徴だと思えます。イメージあふれる会話というのは、すごく興味深くて、私達の生活を豊かにするものだと思いますね。

それと、くりかえし申し上げておきますが、悪い習慣性から外に出ようと思つたら、やはり一番大きな力になるのは、目標の設定です。それはもう耳にタコができたと言われるかもしれませんが、私はどんな場所では必ずこの話をします。人生に対して目的を持つこと。それも並みの目的ではなくて、大きな目的のガソリンを自分の心という車にガッツと入れてあげることです。でもこれは常にやっていないと、どんどん習慣性に埋めつくされてしまいます。習慣性のなだれに押し倒される

か、それを目的のイメージでヤーツといつて押し返すか、です。

人生というのは、そういったバランスの中にあるようにも思えます。私もこれもよくやるんですが、この中に腕立て伏せを三〇回以上出来るという方はちよつと手を上げてみて下さい。アツ、いますね。いや、素晴らしいことです。三回以上(笑い)。なるべく全員で上げて頂きたいのですがね。はい、有難うございます。

これが『自己像』というものです。自分で決めた自分のイメージですね。

私達はやはり私達の体に対して、いま現在もイメージ、つまり結果のイメージをすでに先取りして持つてしまつていんです。でも、いいですか。イメージの中では腕立て伏せが千回出来たつていいんです。二千回出来たつて、一万回出来たつていいんです。鉄腕アトムみたいに。

強力な目標の設定

それでいいんです。そのイメージを持ち続けることなんです。ただし、それをやろうとすると、現実とのギャップの中で悩むのではないかな、という人もいます。しかし、それをすぐに現実にしよつと焦るんではなしに、そういう自分がイメージの中で一人楽しく雄々しく生きていられるんだと、いうことを常に持つておくだけでも、その

瞬間から私達の心の中の力は猛烈に溢れ出します。そして猛烈に自分を、私達自身の心を宇宙に向けて羽ばたかせる、そこから生まれ変わるんです。

「ヨーロッパにお城を建てる」でもいいです。「日本を変える」でもいいです。「エイ、政治を変えてやる」でもいいです。何でもいい。「まず家庭の和合から」を私はおすすめしたいのですがね。何でもいいんです。出来る事は一杯あるんです。変えられることは。

人を褒める言葉が最高

なぜ変えられないかというところ、今までの習慣を変えられないからです。旦那さんの顔を見たら、「あなた、何をやってるのよ」と言つてしまう習慣とか、奥さんの顔を見たら、「おまえ、は本当に俺の気持がわからないな」という習慣。これはよく日本人の会話にありがちな会話です。これと言つてしまう習慣。これは習慣なんです。

ところが、たとえば気心の知れた人同士ではそういう会話が多いいんですが、その中でもまれに、ふだん褒めなかつた旦那さんが奥さんを褒めますと、これは物凄く喜びなんです。一方、旦那さんを褒めなかつた奥さんが、「あなたのネクタイは今日はキマっているわね」と言うだけでも、旦那さんは物凄く喜んだりするんです。人間というの

は、そういうところはすごく単純なんですけれども、でも、その喜びの言葉自体で、本当に家庭が変わつてしまふという奇跡が起こるんです。

これにはお金も労力も要りません。実は政治を変えることも、日本を救うことも、地球を救うことも、宇宙を変えることだつて、そこから始まるのです。これが私がスペースブラザーズから教わつた事の結論です。いまだに私もそれをやつている生徒です。

しかしながら、それをやり続けることはすごく楽しいなと、最近ようやくそう思える所まできました。そううたぶん何をやつても楽しくてしようがない、という境地に至りそうだというのが、おぼろげに私の人生でも最近見えてきました。

でも、この気持を本当に沢山の人が分かちあいたいなと思えます。それが、私がこのような場所でお話をし続けている一つの大きな理由です。

まあ、そういったことを私はブラザーズから教わりまして、地球上の生活でいろんな所でブラザーズから教わつた事と照らし合わせて、いろんな意味で地球人が宇宙に羽ばたいて行くためのバランスということを考えてきました。

ノストラダムスの予言について

さて、今度は最近のブラザーズから

の情報について、特にこれからの私達の国際的な観点から見る創造性の問題についてお話をしましょう。

今まで述べた価値観というのは、本当に貴重なベースになるわけですが、その価値観から見た場合において、特にこれから二千年までは一つの大きな時代の節目なんです。ノストラダムスの予言があります。一九九九年七月の月、アンゴルモアの大王が空から降りてきて、マルスは地球をほどよく統治するだろう、というような内容の予言詩があります。

私は、あれは当たらないという話をしました。あれは否定的な（暗いマイナスの）意味では当たらないんです。否定的な意味では絶対に当たらない。あれは終末の予言ではないことは明らかです。

しかしもつと重要なことは、ノストラダムスが大超能力者で、今の時代を明確に読み取ったということではなしに、もつと重要なのは、未来を予言して当たっている予言というのは実は沢山あるんです。私達の歴史の中にも、多くの予言者がいて、その人達が多くの予言を残していて、その中には当たっているものも一杯あるのに、なぜあのノストラダムスの予言詩がこれだけ沢山の人の注目されているのか。そこがポイントなんです。

要するに我々の意識を、我々が無意識で、潜在意識の中ですでに感じてい

る未来の光景を、何か刺激するヒントが、あのような予言文書の中にあるということなんです。

そういうった観点から読み取ってゆくと非常に面白いと思いますね。アンゴルモアの大王の『アンゴルモア』というのは、あのノストラダムスの予言詩を最初にアメリカで近代になって翻訳出版したヘンリー・C・ロバートという人は、モンゴリアンの作り替えだと言っています。そうすると、世紀末の一九九九年、地球の文化を変えるのはモンゴリア、要するに中国を含めた東洋圏全体の一種の東洋的な文明だということも予言しているとも考えられます。

さらに、マルス。あれは今まで火星と訳されてきました。確かに占星術でいくと中国の子牛星というのは火星なんです。ですから中国対西洋という構図の中で新しい文明が生まれてくるだろうというふうにもとれるんですが、もう一つ、最近ちよつと気になることが出てきました。

インターネットとキヤルスの未来

最近やたらと経済情報誌のなかでも、一般の新聞や本や雑誌のなかでも目立ってきたのが、インターネットという言葉です。これはアメリカで戦略的に生み出した通信網なんです。インターネットの先にはキヤルスというシス

テムが用意されているといわれています。これが東洋圏で現実化するかどうかは微妙な問題です。むかしアメリカはスーパーサテライト構想という通信衛星ネットワークを使って世界をつないでしまおうという情報網の推進をすすめましたけれども、これは今のところうまくいっていません。

こんど出てきたのはキヤルスです。これはかなりリアルティがあります。この前コンピュータ業界では、ビル・ゲイツ率いるコンピュータのアメリカの大軍団マイクロソフト社が、ウインドウズ95というのを発表しました。このシステムの中にはすでにインターネットからキヤルスに向かうためのシステムが組み込まれています。これは世界的な大ヒットになったといわれているんですが、非常に戦略的だという見方もあります。

実はこのキヤルスが普及した場合に我々の生活をどう変えるか、ということとをちよつとお話しておきたいと思えます。これは実は私達の創造性と非常に密接につながる事なんです。

要するに、キヤルスが普及しますと、二〜三人でやっている何かの仕事が、大手商社を超えるような利益をあげる場合があるというシステムなんです。たとえば、皆さんのなかの誰かが「私はここでこういう仕事をしたいんです」と手を上げるとします。そうすると、その手を上げた瞬間に、世界中か

らそれに共鳴した人が、自分もやりたいといって、みんな手を上げるんです。そしてワーツとよつてたかつて仕事をこなして、そして出来上がった仕事の宣伝活動や広報活動は、またそのコンピュータネットワークで打ち込むのと同じに光の早さで世界中に伝わるんです。

最も重要なのは個人の創造性

要するに、たとえば中小企業が大手企業に追いつけない理由というのは、人件費と宣伝費の問題だけなんです。それがほぼ解決してしまうという、とんでもないシステムなんです。

そうなつてくると、何が重要になつてくるかというと、世の中で今いちばん精神の世界から遠くにあるといわれている経済の世界の中で、その中でいちばん重要になつてくるのは、個人の創造性です。創造的なものに即、価値がつく時代になるんです。創造的なオリジナリティ溢れる個人の発想が、世界を相手に表現できる時代がくるんです。

ただそこで、いろんな国家間の闘争やら利権争いやら、いろんなものがあるでしょう。しかしそんなもの乗り越えてうまく活用すればよいのです。ただ、そこでもつとはつきりしてくることは、創造性なきものは滅ぶ時代になるであろうということです。たとえば、ここにオシボリがありま

す。これを眺めたときに「オシボリはオシボリだ」と言っているだけでは創造性はゼロです。そこでゼロから何かを生み出そうとした場合に、このオシボリが会場全体ぐらゐの大きさだったかどうか、オシボリを逆さにしたらどうか、縮めたらどうか、三つに切り離したらどうかか、ねじってみたらどうか広げてみたらどうか、黒く塗ってみたらどうか、青く塗ってみたらどうか、光をこうあててみたら何になるか等。

ここから無限にいろんなアイデアやイメージを引き出す方法があるんです。いま言ったようなこと、つまり「なぜ、なぜ」を沢山ぶっつけてあげることですね。そこから出てきたものからいろいろなアイデアや、商業的な価値が生まれると思いますよ。

たとえば私達がこうやって、関心をもってウォッチングしてきています UFOの問題一つにしても、これから大きく世界に情報が公開されてゆくと思いますが。事実、いま皆さんもうすぐご存じだと思えますが、軍関係の情報等に関しても、もうこれ以上隠蔽しきれない状態のぎりぎりまできております。ほぼ公開される期日は迫っているとみてよいでしょう。いろんな所から洩れ出てくると思います。

未来は世界が一体化する

さらにそこから先には、宇宙人との

本格的なコンタクトの時代もやってくるでしょう。たぶん二〇二〇年前後だと思えます。

それ以前にまず私達が宇宙人になる時代がくるでしょう。宇宙に出てゆかなければなりません。本当に私達の創造性で、私達の足で、手で、宇宙に私達を表現してゆく時代が訪れようとしています。そこに至るさきがけはまずコミュニケーションの変化から始まるでしょう。表現する範囲の変化、空間の変化から始まるでしょう。

そういつたものの要求から生み出されてきているものが、このインターネットやキヤルズだと思えます。ですから、そういったキーワードがあるんで、予言なんかも、私達の集合無意識といえますか、私達のそこでつながっている全体的な意識そのものが、あれを気にし始めているんじゃないでしょう。

さらに、聖書の中のヨハネの黙示録の中に、この一節があります。「泣くな、見よ。ユダ族の獅子、ダビデの若枝が時を得たので、七つの封印を解く」

これは救世主出現の予言だと昔から言われてきました。ダビデの若枝。この若枝は、一人の救世主が突然出てきて、空中浮揚をして世界を救うというようなことではないんです。枝なんです。若い枝なんです。新しく出てきたネットワークが七つの封印を解くという意味です。そうすると何でしょう、

七つの封印とは。

これは海です。七つの海を超えるんです。そして七つの海に隔てられた国々を、非常に自由に交流できる人対人。個対多。一即多。多即一のネットワークにしてゆくんです。ただここに向かうときに途中でいろんなワナが待っています。そこで集中管理をしようとする人達も出てくるでしょう。そういう国家も出てくると思います。

そうではなしに、我々の個性を表現する場として、ポジティブに、我々自身がそういつたものをウォッチングしてゆくことによつて、そういつたシステムは全部我々の創造性のために使われるものにかわつてくるんです。ここに私達の未来があるように思います。さて、私達の心の中には偉大な力がある人達と密接にコミュニケーションしているということなんです。時間空間を超えて、特にテレパシーがそうです。中国では古代から人間が持つている無意識のテレパシー能力を、その一部をやはり気というものの中にとらえてきました。(このあと、超能力の実演に移る)

質疑応答

講演後の
〈回答は講演者による〉

問1 某地球物理学者はじめ、二、三の著書を読んだことについて質問致します。地軸の移動について、近々地軸の移動がある可能性があると仮説を説く学者がいます。その場合、大規模な地震をはじめ、いわゆる地殻変化があり、地球規模の大災害に見舞われ、人類の滅亡に近いものがあるということ。新アダムスキー全集にも二、三カ所スペースビープルが心配している事柄でもあるとのことですが、これについてのお考えはどうですか。

答 ほんとに世紀末になりますと、この種の問題は非常に心配になるところだと思わすね。

ただし、まず回避されるであろうというふうに思います。というのは、ブラザーズが気にかけているところというのは、こういった問題というのは非常に誤解されやすい部分もありますので、どういうメカニズムかということを申し上げておきます。

地球の全体的な運行というのは、やはり地球のバイブレーションと、その上に生息する人類のバイブレーションのコミュニケーションによつて成り立っているわけです。たとえば地軸が変

化して自然の中で大きな変化が起こるという問題にしても、それは変化を促してしまふ私達側からのバイブレーションがあるからなんです。

問題は、要するに私達の未来というのは扇を広げたようになっていきます。ですから、ある程度広い範囲で自由に選べる選択性があるわけです。先へ行けば行くほど扇は広くなってきます。その扇の最悪のケースと最高のケースの両端があるわけです。最悪のケースの中の可能性としては、いまのところ地軸がひっくり返るとか核で滅びるとか、そういう問題が微妙に出たり入ったりしているような状況です。

基本的にはいままでの自然界の法則でいきますと、我々は扇の真ん中あたりにいるわけです。だからまずこのような事は起こらないと断言してよいと思います。

問2 ブラザーズはテレパシーで交信しあっているのに、言葉を必要としないのでしようが、もし言葉を発するとしたら、どんな言葉でしようか。もしかすると日本語にとっても近い言葉ではないのでしようか。というのは、日本語のアイウエオの四八音声は宇宙の響きを感じて作られていて、一音一音に規定思想がこめられているようなのです。日本語と宇宙語は何かの関連があるのではないかと思うのですが、どうでしようか。

答 これはきわめて興味深い質問だ

と思います。(地球へ来ている)ブラザーズはテレパシーを使わない状態のときには、たとえば、英語をしゃべることもあれば日本語をしゃべることもあります。それは要するに私達に合わせるわけですが、ただし彼ら同士も彼らの持つてくる言語をしゃべることはあるんです。それはちよつと表現しにくい感じですけども、深い音で速くしゃべる傾向があるように思います。

ただしこれはブラザーズから聞いたことがあるんですが、やはり日本語にしても、非常に古い時代に太陽系に共通する言葉があったというのです。その共通する言葉の非常に多くのエッセンスを含んだ言語であるということはお伺いしたことがあります。特にご質問の中に出てきておりますアイウエオの四八音声に関して、そういった意味では非常に古い時代の太陽系語ともいべき言葉の流れを非常に深く汲む言語ではないかと思えます。

問3 世界各国で核実験反対と平和的ムードが強まっておりますが、フランスや中国での実験強行に対して、スペースイープルはどのように評価されておりますか。

答 これも非常に重要な要素を含んでいる問題です。特に今回フランスの核実験は話題になりました。その間に中国でも核が取り上げられたということで、やはり歴史の流れに逆行するというところで、全世界的な不満も高まって

いる状態があります。

ただし、想念的な観点からいきますと、ようやく本格的な世紀末がやってきているのに、それに対する我々の恐れが表われてきたとみるべきだと思います。本当に想念の価値観が理解して頂ける方が非常にふえている反面、それを理解した上でふたたびまた恐怖を持たれる方が多いと思うんです。どうなるのかと。そういった部分が反動的に形に現われていると思います。それも非常に平和な自然環境の象徴であるような場所で、ああいう実験がわざわざ行なわれることには、そういった想念的な背景といえますが、私達の潜在意識にある一つの恐怖の現われが出ているようにも思えます。

ですから、やはり恐れないこと、これが大きなポイントだと思いますね。

問4 スペースイープルは我々GAP

会員一人一人に何を望んでいますか。
答 これはスペースイープルが以前に私におっしゃられたことがあるんですが、UFOの問題を知っている人ほどそれを活用しなさいというのです。これが重要だと言われました。想念的な問題であるとか、スペースイープルの文明がなぜ我々以上に自由になれたかといったようなポイントを、我々がやはり生活の中で知っているがゆえに、より以上にそれを実践に移してゆくこと、これに尽きるということですね。

問5 性の件ですが、病院での体外受

精などが行なわれていきますが、これは宇宙的にはまずいでしようか。

答 これも大きな問題だと思えます。私達が生存している自然な営みを機械的に行なう、またそれが変わってゆくということが、いまいるんな分野で起きておるわけです。たとえば医療の分野でも非常に危機的な状況で生まれてきた胎児を救う技術はものすごく発達しましたけれども、その分、もともと生まれつき体の弱いお子さん達が世の中に沢山出てきているわけです。

ですから、やはりこれも、そういったことが悪いとかいいとかいう問題以前に、バランスという観点からみるべきだと思えます。たとえば我々がいまの肉体を持ったまま宇宙へ出てゆこうとしますと、これは非常に肉体的に負荷がかかってまいります。たとえは宇宙空間に宇宙基地を作ったとしても、そこでもし出産が行なわれたとしますと、その子供はもう二度と地球に戻ってこれないという問題があります。いまの技術でいきますとね。

そういったことを超える意味で、私達は私達の体に対する科学というものを出発させる必要があるんですけれども、それを一つ間違えると、遺伝子操作であるとか、非常に一部の極端な権力の拡大、といったもの利用されることになりかねません。(以下次号)

筆者は日本GAP本部役員。オーラ透視、過去生透視等の力を有する超能力者。オーラ透視力開発法に関する著書等もある。以下は二千年前のイエスとそれをめぐる重要な群像にスポットをあてて、その実態を透視し克明に描写した珍しい記事。筆者はオーラ透視によつて路上を歩くスペースビープルを見抜いたり、病人の患部を透視する特異な能力も持つ一方、UFOの推進原理の科学的研究も行なっている（詳細記事は本誌一三〇号に掲載）。

過去生と生まれかわり

過去生とはインドのヒンドゥー教やチベット宗教、仏教などの教えの中で扱われているものです。それらの教えでは、人の生涯は一度きりのものではなく、新しい肉体という衣服を纏うように本人の実体が何度も生まれ変わっていくといわれます。これは「転生」ともいわれます。そして今の自分の生涯よりも以前に体験してきた生涯を

カナダのエスキモーのある部族、パングラディッシュ、インド、チベット等々。また哲学者のソクラテス、プラトン、ショーペンハウエル、数え上げればきりが無い程です。ましてや個人によつても考え方はいろいろあるのですから、生まれ変わりの思想を持つ人というのはこの地球上に多く存在しているのです。

転生はありうるのか

では、本当に人間は転生するのでしようか。アダムスキーは、金星で女性として生まれ変わった妻のメリーと大母船内で再会したために転生の事実を確認したことが「UFOコンタクトイヤー」一三一号に出ています。スペースビープルはそれを教えたかったのでしょうか。

また新アダムスキー全集第七巻『二一世紀の宇宙哲学』、第一七章「リンゴの木の寓話」の中で火星人フアーコンがアダムスキーに次のように語りかけています。

「肉体という衣服が他の場所で活動を続けるために生命の炎を放つてしまうとき、細胞の知性は肉体の諸元素を元のチリに変えるのに多忙をさわめています。しかし、『宇宙の叡知』の炎は更新されたエネルギーを注ぎ込む新しい容器を発見しています」

また、転生が平均三秒で行なわれ、

赤ん坊が母親の体内から出てきたときに転生が行なわれると新アダムスキー全集第五巻『金星・土星探訪記』、質疑応答で述べています。

これらのことはスペースビープルの有する、地球よりもはるかに高度な科学によつて知られているものなのでしよう。

地球ではそのようなことはまだ発見されてはいません。転生について調査している人はいません。例えばアメリカの医学教授であるイアン・ステイブンスが代表的な人物としてあげられるでしょう。しかしそのような人たちの著書を調べると、過去の生涯を覚えていくという人たちはたいへん二、三歳から一〇代前半の少年少女が多く、また国もアジア諸国に集まっているのが特徴です。

しかし自然界の中には、人の心の混乱に対して厳然として示してくれているものがあります。

その中でも最も身近な自然は私たちの身体です。そこには約六〇兆の細胞が活動しているといわれています。その広大な社会生活とでもいえる中で一秒間に約五千万個の細胞が死んでいき、新たに約五千万個の細胞が生まれているのだそうです。驚くことに、その交代劇はほぼ同時に行なわれているといわれます。昔は脳の細胞は一生変化しないとわかっていましたが、それでさえも新しいものに入れ代わっている

転生に関する考察

イエスの時代を透視する

永遠に生まれかわる人間の軌跡に意外な現実が展開！

「過去生」と言います。

また、過去生や生まれ変わりという言葉は、やっと現代社会でもその意味がよくわからなくても聞いて知っている人も多くなってきました。しかしそれがいったい何なのかということを表わす統一された定義というものはありません。

例えば仏教などには、人が動物に生まれ変わることもあるというような思想があり、また他の宗教では一つの生涯から次の生涯へと生まれ変わるまで

には数年間の期間が必要だという思想があります。

しかしそれらはどうも合点がいくものではありません。

それらのことを考慮にいれずに、単に生まれ変わりの思想を持つ宗教や民族、哲学を探すなら、それらが洋の東西を問わずに多くあることがわかります。

アメリカインディアンのある種族、オーストラリアのアボリジニ、東アフリカのある民族、北海道のアイヌ民族、

遠藤昭則



●エルサレム市街全景 白い矢印の所がイエス磔刑地のゴルゴタの丘の跡。現在は聖墳墓教会の巨大な建物が磔刑地を覆って建てられている。内部にはイエスの十字架の柱の四角な穴が岩盤に残っており、そこが主祭壇になっている。画面中央の金色のドームは「岩のドーム」と呼ばれるモスクで、この中にはアブラハムが息子イサクを神に捧げようとした岩があり、後世にマホメットがこの岩から昇天したと伝えられている。まさにエルサレムは聖地と呼ぶにふさわしい壮大な歴史を残す古都。 撮影/久保田八郎

ようだといわれるようになってきました。

これらのことは一つのドミノの中に
ある「力」が、次のドミノに移行して
それが次々と伝わってドミノが倒れて
いくのと同じことです。死に行く細胞
の生命力が新しい細胞の中に移行して
活動を続けていくのでしょうか。

霊界は存在しない

人間は宇宙の叡知であるとアダムスキーは述べています。また、宇宙の叡知には肉体を創造するための設計図があると新アダムスキー全集第三巻『二一世紀/生命の科学』にあります。

一枚の楓の葉の一部を少し切り取ると、そこには元の葉の形にオーラが見えます。つまり楓の葉の立体的な設計図は依然としてそこに存在しているのです。これは楓の葉の叡知がそこに働いていることを示しています。そしてその立体的な設計図が元の形に見えるオーラです。

となると、立体的な設計図を持つ人間の叡知が他の動物などに転生することとは、非常に効率のわるいことにならないでしょうか。つまり、人間は人間だけに転生することになるのでしよう。そしてその知性ある力はドミノのようにすぐに移行していくのでしょうか。だから、霊界などというものがあれば、それはもっとも効率のわるいことにな

ります。つまり活気のあるこの大宇宙には霊界は必要ではないのです。アダムスキーも霊界は存在しないと声明しています。

ところで、前生での記憶を持ちながら転生できるのであれば、生命は連続と続いているということが実感できるはずですが。そしてこのようなことを覚えている人はこの地球上には多いのです。

そして私たちは自分の過去生を見てさまざまな生涯でいろいろと学んで成長してきたことを思いだすわけです。

死とはなにか

では、次の生涯へと移行する死とは何なのでしょう。

哲学者のカントと食事をしているときに、火事の現場を透視して驚かせたという一八世紀の科学者であり発明家、哲学者、そして超能力者(またコンタクトイーであったという説もある)イマヌエル・スエーデンボルグは、死について、それは前の晩に寝て、翌朝目が覚めるようなものだと言っています。新約聖書の中でイエスは磔になつて一度死んだと伝えられていながらも、肉体を持ったまま復活して(生き返つて)弟子たちに会いに来ました。

また『ヨハネの黙示録』の中では、第二の死という、同じ肉体のままの心の変容を示す復活が出てきます。

スウェーデンボルグは死とは眠りのようなものだと言いましたが、眠りというのは何でしょうか。ユングが注目したという中国の道教の神秘的な教本『太乙金華宗旨』には、眠っているときには力は肝臓にあると書かれています。それが正しいかどうかはわかりませんが、とにかく私たちは寝ているときに、周囲の人が何をしているのかわかりません。そして翌朝心地良く目覚めて普段の生活を始めます。

そしてアダムスキーはこの眠ることを、それによって、「人間は毎日死んでいる」と述べています。

以上のことから考えるなら、死についても同じことがいえるのではないのでしょうか。

新生と転生

しかし眠りだけでは自分自身は進歩していません。転生とは自分自身が進歩するための新たなレッスンを得る段階です。

それならば逆に、死という段階を得なくても、人は心の持ち方を変えることによって生まれ変わりができるともいえるでしょう。それは聖書の中では精神的な「復活」といわれているものだと言います。

しかしここで言う転生は肉体の死滅と新たな誕生を意味します。

ケイシーの美しい転生の話

私たちの思いや行動には原因と結果の法則が働いているといわれています。したがって転生においても、その前かいくつか前の生涯においての行ないの結果が今生において出てくることがあるようです。それは、こうしようと過去に思い描いていたことかもしれません。

アメリカ、ヴァージニアピーチの眠れる予言者といわれたエドガー・ケイシーが、ある美しい女性の過去生リディングを行なった次のような話があります。

その女性は、過去生のある時代に大金持ちの家の女中でした。もの静かであり、よく気のきく性格であったためにどんな仕事にでも手を抜かずによく働いていました。

その主人はそんな彼女の良さに気づくともせず威張りちらし、なんでもしてくれる彼女にいろいろな用を押しつけるのでした。

くる日もくる日も奴隷のようにこき使われ、寒い冬の夜にも外で指が切れるような冷たい水を使って皿洗いをし、朝にはもつと凍えた水で洗濯をしていたのです。

しかし心のやさしい彼女はけつして主人を憎まず、神を信じてよく働くのでした。そうして、

「今度生まれ変わったときには、私もきれいな手になりたい」と、あかぎれやひびで痛々しくなっている手を見るのでした。

彼女は若くして亡くなり、今生に女性として転生してから人から羨ましがられるほど美しく艶のある肌の手ですらりとした指を持つことができました。それは内部の輝きが現われているようでもありました。彼女は過去生のことは忘れていたのですが、内部の叡知は覚えていたのです。優しい善良な心を持つ人は来世で報われるのです。これを因果応報の法則といえます。

教会は転生思想を否定したのか

ところが教会は転生の思想を否定する傾向に六世紀頃からなってきたといわれています。それは五五三年に開かれた第二コンスタンティノープル会議が境目となっているのですが、詳しいことはわかりません。それは聖書の記述をも変えるほどのものであったという説もありますが、これらのことについてはジョセフ・ヘッド他著の『転生・不死鳥の炎のごとく』（邦訳はない）に詳しいようですが、これからの歴史の探究によってわかってくるでしょう。

過去生を知ることができるか

自分の過去生を思い出すことはできません。それは単に眠る前に起きたことを目が覚めてから思い出すことと同じことだからです。

それができないのは、自分の中にまだ「今の生」と「以前の生」というような区別をしているからです。それが内部の叡知の情報をせき止めているのかもしれない。「黙示録」の中では、過去生の記憶は「記憶の書」として出てきます。その書が開かれるのはやはり叡知に心を開いたときのようなのです。

そして大きな障害は、人によっては転生を確信していながら、今の肉体そのものが転生するというようなことを思い込んでいることにもあるのです。心は内部の「宇宙の意識」からのメッセージの増幅器であるとアダムスキーは言っています。もしもレコードがセットしてあるステレオに耳があり、話す意志があるとしたら、スピーカーから出てくる自分の音を聞いて、スピーカーこそ転生するものであると思ってもいいかもしれません。なぜなら、そこにこそ外界に働きかけて自分が存在するのだという認識のできる部分があるからです。

しかしスピーカーはレコードの情報を増幅しているにすぎません。レコー

ドにこそさまざまな情報があるので、それが外に表現されているということには気づいていないのです。

そこでもう少し心を開いて、自分を守るためのつまらない物事から心自身を開放してリラックスできるなら、過去生の情報はもつとたくさん得られるようになるはずです。私たちは恰好などつげなくても始めから宇宙と一体であるものなのです。

そして、懐かしい小学校の校庭に久しぶりに立つと旧友の顔や当時の様子を思い出すことができるように、それを思い出す何らかの鍵があるとさらに思いだしやすくなります。

たとえたくさん思い出せなくても、小学校に通った道の様子ぐらひは覚えていられるように、過去生でのことを思いだせなくても、その通った道程度の、何となくこうしたいという気持ち、または例えば、何となくイエスのことに興味があるという程度のこと、「記憶の書」の扉を開く鍵になるのです。

また本人が思い出すことができなくても、その人の過去生を他の人がかいま見ることもあります。それを過去生透視といいます。

しかし今回私は苦しみました。過去生を見るのに、その過去生を誤ってみていると、胃の後ろ辺りの具合がおかしかったのです（これは身体の中にある第二の脳といわれる神経中枢が、そうではないよと言っているよう

た）。それで二日間高い熱が出て、その間に、やっと正しいであろう内部からのメッセージを得ることができたのでした。するとウソのように熱がひいてしまったのです。

これから述べるのは、そのようなことから引き出されてきた、はるか二千年前の過去のことです。

ある日の日本GAP 東京月例セミナー

今年（一九九五年）のある月例セミナーのことです。質疑応答の時間に、転生についての質問が出されました。

それについて久保田先生は、いつものように丁寧でわかりやすい説明をされた後、こう答えられたのです。

「そう、たとえば遠い二千年前の過去生でアリマタヤのヨセフであった人が転生して現在生きていることもあるのです」

その声は誰も気づかず、風のよう過ぎていきました。しかしその回答を聞いていて、私はハッとしました。

突然に変わった先生のオーラの色、そのときに感じた強い印象。ふと「UFOコンタクトティー」誌一〇四号にのせていただいた『過去生透視法とその実例』という私の記事を思い出して

いました。それは次のように書いてありますが、これは今回さらに詳しく付け加えてありますので、当時の状況が鮮明になってくることと思います。

イエスの時代の久保田先生

透視をしますとシユロの木が家の中に数本、壁際に並んでいる室内が見えます。石造りの当時にしては高級な家です。中は朝日が射し込むようになっていて明るいのがわかります。とても裕福な家庭です。

先生は体格のよい男性であり、サンダルのようなものを履き、白い、長い服を着て、赤い紐をボタンのようなものに結んでいました。

先生はイエスと、ときどき話をし、イエスから放たれるフィリングをよく覚えておられました。それは他の人とは違うフィリングだったからです。またローマ総督ピラトとも話のできる人であったようです。

透視しますと、イエスが磔刑に処せられるゴルゴタの丘までよろめきながら歩いて行くピア・ドロローサ（嘆きの道）という道では、先生も当時路傍でイエスを見守りながら、しかし多数の群衆よりも見やすい位置で見えています。それがどこであるのかはわかりません。

それは先生が民衆の中でも権力のある人でしたから、自分がイエスを見守っていることを民衆に悟られないようにするためでありました。というのは、イエスの知人であることがユダヤ人たちに気づかれると攻撃されるため

に警戒しておられたのです。

イエスの磔刑

イエスの肩幅がやけに広く見えます。これはキリスト教の絵画のように弱々しい姿ではありません。

イエスの後ろには、身体のがつしりとしたローマ人たちや見物する人たちが見えます。しかしローマ人たちはどうもイエスを民衆から守っているように見えます。

それはもしもイエスが正しい人であったことがその後でわかっただら、ローマの元老院から厳しい処分を受けることを恐れるような、そんな彼らの不思議な二面性でもありました。

その人々から離れたところに沢山の人が見えます。その中には、ローマ人よりも少しだけ背の低い人が見えます。これはヨハネでしょうか。その群衆はイエスの教えに共鳴して従ってきた人々のようです。

ピラトはローマ皇帝とは表面上うまくあわせているだけでした。しかしそれ以上に気にかけていたのは、やはり元老院の人々のことだったのでしょう。

また、ローマ兵には怠け者が多く、ピラトは余計にいららするばかりだったようです。

ユダヤ人の中には、ローマ人との混血もいました。

イエスの母親のマリアを透視すると、



▼イエスがゴルゴタの処刑場に通じる道（現在はピア・ドロローサ〈嘆きの道〉と呼ばれている）を歩いて何度も倒れるのを見たペロニカという女性が、イエスの顔に流れる血と汗をふくための布を差し出した。以来ペロニカは「優しい女性」の象徴とされている。イエスの弟子であったようだ。



▲ゴルゴタの丘の処刑場へ行く途中、十字架の重量に耐えかねて倒れたイエス。当時、十字架の柱はすでに現地に立ててあった。したがってイエスが担いだのは横木だけだったが、これでも推定40キロを超えていた。

（イラスト2点は久保田八郎が第2回目のエルサレム訪問で入手した資料による）

後世のキリスト教会が言っているような明るい印象ではなく、やや暗く、もっと不思議な何ともいえない印象を受けます。

また、イエスの磔刑の場面では、マリヤその他のイエスに関係のある人が随分と出てくるのに、イエスの父親、ヨセフがどうして出てこないのかも不思議です。ここに何かの謎を解く鍵が隠されているのかもしれませんが。

イエスが十字架にかけられ、槍で突かれる前、イエスの胸の横に白いオーラが薄く感じられます。聖書の記述にあるように、このときすでに、イエスは氣を失っていたのでしょう。

このとき上空に別な惑星の宇宙船がいて、イエスに放射線を浴びせかけていたようです。さらに大氣を湿润にすることに よって、兵士の士氣を低下させていた感じがします。

アリマタヤのヨセフ

そのイエスの磔刑の後に重要な第一の人物が出てきます。彼がいなければイエスは十字架から引き下ろされることはなく、また復活するための準備もなされなかったであろう人物なのです。彼の名はアリマタヤのヨセフ。アリマタヤというのは地名で、現在のエルサレムの北西約三五キロメートルにあるレントイスという所であろうといわれています。

彼は裕福な家庭を持つ議員であり、またイエスの弟子であることを民衆にさとられないようにしていました。そして聖書には、神の国が来るのを待ち望んでいる人ということが出てきます。

アリマタヤのヨセフはエッセネ派だった!

その後、ある友人からおもしろい資料が送られてきました。それは『磔刑』と名付けられた書物に関するものでした。

それはアレクサンドリアの古い教会跡でアビシニア人が発見したラテン語古写本であり、その内容は、アレクサンドリアにあったエッセネ派教団が書き残したもので、イエスの磔刑の現場にいたエッセネ派が当時の様子を描写したものだということです。

その内容によると私が見たものと同じようなところが三カ所あるということです。そのうちの一つは、死海から赤みがかつた霧が発生して、月が赤く染まって見えたということです。これは大氣が湿润化してきたことと関連があるのでしょうか。

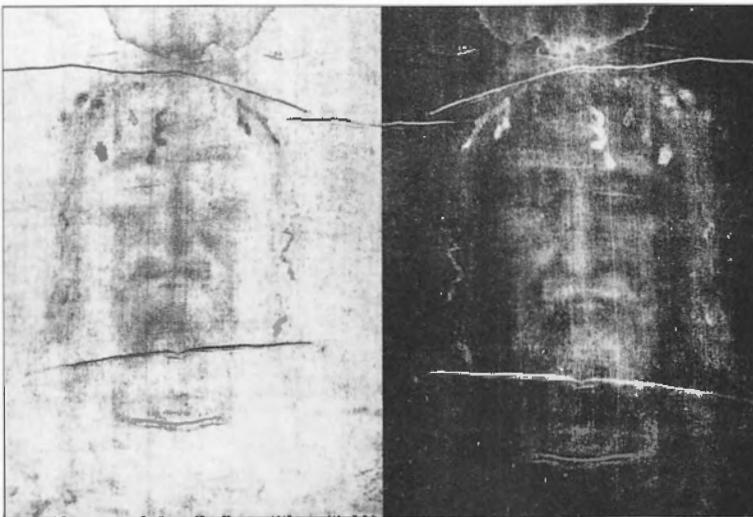
また十字架上でイエスはすでに氣を失っていたということ。つまり仮死状態になっていたのです。このことは西暦三世紀頃の書にも磔刑に処される前に何らかの薬を（ワインとともに）飲んで磔刑時に仮死状態になっていたという記述があります。

さらに面白いことに、アリマタヤのヨセフとニコデモはエッセネ派の一人としてヒーリング（治療）の技術に長けていたということです。彼らは十字架上のイエスの腹からまだ血が流れているのを見て、イエスは死んでいないことを知りました。

そこで、アリマタヤのヨセフがイエスを下ろして引き取り、二人で特別な薬草や軟膏、酒などで手当をしたとい

うのです。（もちろんそのようなことだけでイエスは癒されるはずはなく、上空の宇宙船からの放射線、また聖書に出てくる「白い衣の二人の天使」と呼ばれるスペース・スーパースターによって助けられたようです。そのときの宇宙船からの放射線によって、聖骸布にあらうようにくつきりとしたイエスの形が出たのではないのでしょうか。）

イギリスのジェフリー・アッシュは、



▲イエスの遺体を包んだといわれる聖骸布。古代から伝わるもので現在はバチカンが所有している。左半分が元の布に転写された人物の顔で、これを撮影したネガフィルムが右半分。これが謎の顔を正しく現わしたものと世界的学会の注目の的になっていた。1988年バチカンが布の一部を切り取ってヨーロッパ各地の研究所に送って炭素14年代測定法で検査させたところ、14世紀の物だという結果が出たという。これについて秋山眞人氏は、カトリック内部の抗争のためにわざと偽物情報を流してケリをつけたと言っている。

赤い色を放つまでに熱せられた金属から発せられる赤外線によって、亜麻布が聖骸布と同じように刻印されることを発見しました。

赤外線は身体を癒すことによく使われるのですが、単にそれだけではない光線がイエスの身体に照射されたのではないのでしょうか。またそれによって、実際の身体よりも幾分か大きく布に刻印されてしまったのではないのでしょうか。

しかしイエスはまだ死んではいないだろうと思っていた人物がもう一人いました。それは意外にも総督ピラトだったのです。彼が丁度よい布を用意していたのはなぜなのでしょう。この書には、そんなことも出てきます。

そしてここで特筆すべきことは、アリマタヤのヨセフがエッセネ派であったということでした。

エッセネ派同胞団

当時はいろいろな派があり、その中に律法を守り行なうものという意味のエッセネ派というものがあつたといわれています。

そしてエッセネ派というと、死海の近くにあるクムランの洞窟で活動していたクムラン教団とすぐに結び付けて考えられることが多く、エッセネ派イコール、クムラン教団とまでみなされることがあります。

ところがエッセネ派というのはクムランだけではなくて、エルサレムその他の地にも広く分布して活動していた派であり、その派はまた今日エッセネ派についていわれているような極端な禁欲主義や菜食主義、また障害を独身で過ごすというものではなかったようです。ただその派の中にもそのようなことを信条としていたグループがあつたようなのです。

しかしイエスの教えを実践し、宇宙的な哲学を学ぶ集団であつたことはいうまでもありません。

ですから、アリマタヤのヨセフがエッセネ派であつたということは充分に考えられることなのです。彼はエルサレムで裕福な家庭にありながらエッセネ派であつたということがいえるわけです。

そしてエッセネ派というのは本当のところ、いろいろな派とも接触が自由であつたようです。そこで、イエスがエッセネ派の中で言われていた「義の教師」であつてもいっこうに不自然ではないわけです。つまり、イエスはエッセネ派を指導していたと考えられるわけです。

しかしここで謎が出てきます。クムランの洞窟から発見されたクムラン教団の『死海文書』には、エッセネ派という言葉が出てこないといわれているのです。これは日本や海外の研究者の述べていることです。エッセネ派とい

う言葉はフラビウス・ヨセフスの書物にみられます。

そしてある書物によると、エッセネ派の語源について調べてみれば、なんと当時は、それに近い言い方か、または違う呼ばれ方をしていたというのです。

それは「ナゾレ派」という言い方です。それはやはり律法を守る者という意味なのです。

そうすると、イエスはナゾレ派（ナザレ派）にいたとも言えます。また、イエスがナザレで生まれていなくても、後世の聖書を編集する人が、イエスはナザレで生まれたとすることができたわけです。なぜなら、ナザレという地名はイエスが生まれた頃はまだなかったからです。

この書物に出会う以前、私がアリマタヤのヨセフやその周囲の人々に関する透視をしていたときのことで、何だか見たこともない言葉のつづりが見えたのです。それはアルファベットでした。カタカナにすると、

「ニー・ザール」
「えつ、北のザイル？ それともナ
イジュリアア？」

そんなことを思ったものでした。しかしその言葉はだんだんと、
「ニイザアルエ」
となつたのです。つまりこれは、

「ナザレ」
のことなのです。やはり当時はナザレ

派と呼ばれていたのではないのでしょうか。

（ある書物には、イエスは高貴な家に生まれ、エッセネ派の人に赤ん坊のときに引き取られて、少年時代はその養育者に僧侶として育てられたという話もあります）

さらに、洗礼のヨハネがエッセネ派であつたということはよくいわれていることです。そうすると、洗礼のヨハネにイエスが会いに行き、そのヨハネが喜んだのは、それも何か他の意味を暗示しているようでもあり、謎解きの大きな鍵が隠されているようでもありません。

イエスもアリマタヤのヨセフもその派にいたのなら、彼らは街中で何くわぬ顔をしていても、その派の中でイエスの教えに接してそれを充分に研究できたことも考えられるわけです。

また、アリマタヤのヨセフが宇宙哲学のようなことの書き物をするときは、クムランの洞窟のような所でもするのでした。しかし当時そのような洞窟や、またそれに似た住居が多くあるのが透視で見えます。ですから、洞窟が見えたからクムランにいたとは一概には言えないのかもしれない。

そして、当時洞窟で一緒に活動していた人たちが転生して現在の日本GAPにも何人かいます。

その上、このヨセフは、イエスの磔刑直後という場面において重要な役割

を果たすのですが、それはまるで誰かと打合せをしておいたように、てきぱきとうまく行動しているのです。

そこである人物の名前が心に浮かんできます。それはヨハネです。彼がアリマタヤのヨセフとニコデモに打合せをしておいたと思われるのです。

そして、マグダラのマリヤは墓を見に行く役割をして、イエスが墓にいないことをシモン・ペテロとヨハネに知らせたのではないのでしょうか。

ですから、アリマタヤのヨセフは、それまでイエスを陰で支えてきた人物であるということは何とほなしに匂わせているようになりません。

付け加えるなら、対するピラトはなぜイエスを処刑しなかったのかという一つの理由には、ピラトの奥さんもエッセネ派と何らかのつながりがあったと思えるところがあるからです。それは奥さんが夢をよく活用していたらしいことにあります。これはエッセネ派もそうでした。そしてイエスに病気を治してもらったことがあるということが、フラビウス・ヨセフスのアラム語版『ユダヤ戦記』に出てくるという話もあります。

教会の聖書の奥にある真実

それではと聖書を調べても、その記述には当時の様子を知るには物足りぬ面が多くあります。

聖書は教会に都合のよいように原文を訳し、付加削除もわずかに行なわれ、また記述された順番が入れ代わっているところもあるのではないかとこのように説も以前からありました。

それでは歴史の真相を知ることができないのではないかと問われるでしょうが、それがまた謎解きの面白さにもなっているのです。

また、イエスはアラム語という言葉で話していたと言われています。それはその近辺の国々でも通じる言葉であって、イエスはそれによって誰にでも語る事ができたようです。

ヨハネの福音書が謎を解く鍵

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四つの福音書の中で最も描写に富んでいるのはヨハネの福音書です。あまりにも他の三つの福音書とは書き方が異なっているのです。日本でも疑問視されていたことが過去にはあつたほどのものなのです。しかしそれだけ気になる福音書であるともいえます。

そして昇天していく前にイエスはペテロにいうのです。

「彼（ヨハネ）は私が戻ってくるまで生き続けるだろう」

と。それもこの福音書にだけ書かれていることです。それで他の弟子たちは、ヨハネは死なない人だと噂し合うことになりました。

これはイエスが（地球へ）戻ってくるときにヨハネはこの地球で会う約束があることを示しているのだと久保田先生は以前話しておられました。

アダムスキーはヨハネだった

そしてアダムスキーが実は二千年前のヨハネであり、またその約束があるカリフォルニアのデザートセンターでなし遂げられたということも『UFOコンタクト』誌一一八号で先生が詳述されています。

そしてその記事からは、深遠な宇宙哲学と壮大な転生の法則を感じさせられるものがあります。

そしてアダムスキーの日本での唯一のコーワーカーとなり、また先生がスペースビーブルに援助されていることをアダムスキーがじかに彼らスペースビーブルから聞き、それを先生に伝えてきたそうですから、過去生においてもアダムスキーと先生は関係があつたのだと思われるのです。

イエスとピラト

ピラトがローマ皇帝に宛てた書簡とこの書があります。これはパチカンやイスタンブールの聖ソフィア寺院に埋もれていたさまざまな書簡の中のひとつだといわれているのです。それは大体のように記されている

ます。

「私（ピラト）はイエスをユダヤの友人というよりもローマの友人のように思っています。」

ある日イエスが説教をしている横を通りかかりました。イエスは多くの民衆よりも幾分か背が高く（注IIこれは当時のユダヤ人は背が低かったため、その中高かったというところで、たぶん一六〇から一七〇センチメートルくらいの間であつたと思われる）、木にもたれかかりながら話をしていました。

年は三〇歳くらい、顔立ちは周囲の人たちとはあまりにもかけ離れており、また穏やかな印象を受けました。私はイエスをローマに対して害はない人物と見ており、彼に自由に話させていました。

しかしユダヤ人たちは怒り始めました。彼らはイエスが（私から）自由を与えられたことを知り、イエスを妨害し始めたのです。

私はイエスを官邸に呼んで言いました。

『あなたは聖人の言葉で、ソクラテスやプラトンのように話すことができるし、また簡単でわかりやすく、しかも威厳のあることを話しますね。それは危険だ。ソクラテスを見てもわかるように、民衆の餌食（えじき）になつてしまふよ。気をつけなさい』

でも、イエスは怯まずにこう言いました。

した。
『あなたの言葉は本当の知恵から出て
いるのではないでしょう』

私は彼の言葉に心を打たれてしま
いました。そこで言いました。

『あなたの血が流されないように私が
守ろうじゃないか。だから過激に話を
しないでくれないか』

彼は微笑をうかべて、

『私の避難所は天にしかありません』
と行って出ていきました。

その後、ユダヤ人はイエスに復讐
をしようと領主のヘロデに訴えてきま
した。ヘロデは元老院に対して自分の
力が弱いことを知っていたので、この
ことよって自分がどうなるのかと心
配なようでした。またイエスを恐れて
いたのかも知れません。

彼は私のところに来てイエスはどん
な人物かと尋ねましたので、私は、
『イエスは偉大な国々から出る大哲学
者の一人ではないかと思えます』
と答えました。

ヘロデは意地悪く、形だけの敬意を
示して帰っていきました。

イエスが磔刑に処せられた日、私は
悲しみにあふれて官邸に戻りました。
すると階段の途中に一人の老人がうず
くまって泣いていました。

『何を嘆息か？』

私が問うと彼がいきました。

『私は（アリマタヤの）ヨセフです。
イエスを葬る許可を私に与えて下さ

い』

イエスは小柄であった

この記事の中に出てくるイエスは小
柄です。身長は一六〇〜一七〇センチ
メートルの間でしょう。

あるとき、イエスがそんなに大男で
はなかつたようだということ私を友人
に何かのきっかけで話したことがあ
りました。すると彼はあっさりと言
いました。

『そうでしょう。低かつたのです』

私は面食らいました。
『えっ？』と心の中で叫びました。私
の中には、イエスは一八〇センチ以上
の大きな人なんだと思いたい気持ち
があつたからです。

しかしよく考えてみると、もし私が
当時生きていたなら、イエスの偉大な
フイーリングに接し、また深遠な話を
聞かぬら、彼を身長以上に大きく感
じたのではないかと思ひました。

ましてや当時の私の身長が低ければ
なおさらです。

その記憶があれば、彼は当時大き
かつたとなつて思つていても不思議
はありません。

〔編注〕コンタクテイのM氏が別な
惑星の大母船の中で見せられたイエス
の記録画像も小柄だつたと言つてい
るし、スペースピープルもそのように言
つていたという。したがつて「小柄な

体格」が本当なのだろうと思われる〕

イエスの磔刑と聖骸布

さて、アリマタヤのヨセフがイエス
の遺体を引き取りに来た所に戻りまし
よう。

ヨセフはピラトから亜麻布を受け取
りました。これにはヨセフが自分で葬
儀屋から布を買つておいたという説も
あります。

それでイエスの遺体をくるんで自分
の庭の仮の墓に運んだのです。

ところで、現在いわれている聖骸布
をさまざまな角度から調査した結果、
まぎれもなくそのときの布であるとい
うことがわかつてきたようので、それを
否定することはもうほとんどできない
のではないかと申われています。こ
れも久保田先生が『UFOコンタクテ
ィー』誌一一八号に詳説されています。

そこで過去生のことがまた現われて
きます。その布をくるんだヨセフが転
生して今どこかにいるなら、その布に
ついてどこかにいるなら、その布に
ついて大きな興味や関心を抱くのでは
ないかということ。なぜなら、自
分自身でイエスをくるんだのですから。

ヨセフは聖書の中ではある象徴とし
ても表わされているのではないでしょ
うか。それは、復活の準備、その基礎
となることをする、つまり人が精神的
に新生する（宇宙の叡知と一体となつ
て活動する）ための基礎を整える、そ

の基礎を人々に教えるという象徴があ
るのではないかと思われるのです。

マルタとマリア

さて、もう二人気になる人物がいま
す。それはベタニアという小さな村
（この村の近くから後にイエスは昇天
しています）に住んでいたマルタとマ
リアの姉妹です（マリアはマグダラの
マリアと混同されることが多いので
が、そうではありません。マグダラの
マリアは身体七つの悪霊をイエスに
追い出してもらつたのですが、これは
脊椎に沿つて存在する七つのチャクラ
（神経中枢）を整えてもらったと解釈
することもできます。そして、マグダ
ラのマリアはそのような知識をイエス
から学んだと考えることもできます）。

この二人の姉妹には兄弟がいました。
それはイエスが生き返らせたラザロで
す。

このラザロの復活の話は、どうも後
のイエスの復活の例えではないかと思
えるフシもあります。なぜなら、この
ときイエスは、姉のマルタに「永遠の
生命」についての話をするので、そ
れは始めの方で書いたように、宇宙の
叡知と一体になれば生きたまま新生で
きるということイエスが話したので
はないでしょうか。

また他のところでは、イエスがやつ
てきたとき、姉のマルタは忙がしそ

にもてなしの準備をしているのに、妹の Мария はイエスの言葉に聞き入っていたということも出てきます。そして Мария が香油をイエスの頭にぬったとき、イエスは自分の葬りの準備をしてくれたというのです。

ラザロの復活といい、香油でのイエスの磔刑をおわす言葉といい、どうも「宇宙の意識の働きによつて新生できる」ということを象徴するように思えてなりません。

そして姉妹それぞれは、姉のマルタはシモンという病人の妻だったので、透視すればそこには「奉仕」という語が見え、また妹の Мария には「感受する」という語が見えます。

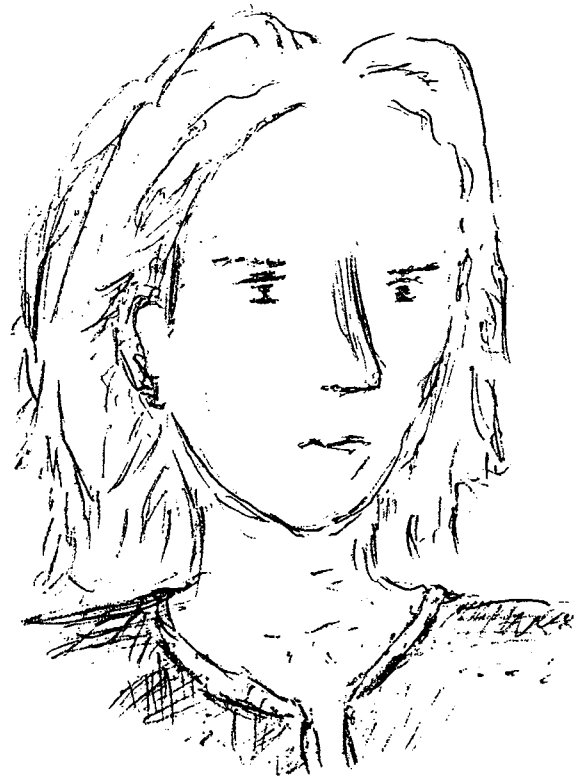
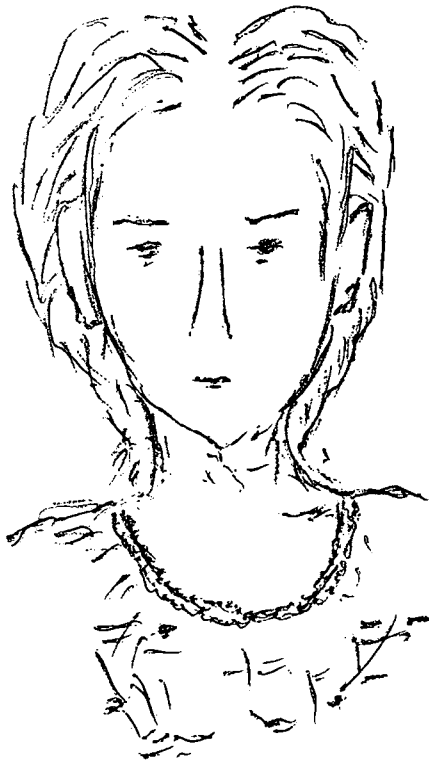
またマルタと Мария は、単に一寒村に住んでいたというのではなく、イエスの教えをナゾレ派の中で伝えている光景が透視で見えます。

今生では誰なのか

こんじょう

ここまで書いてきますと、その人達は今生に転生して誰になつていいのかと、読者から聞かれるかもしれません。もちろんアリマタヤのヨセフは K 氏です。そしてベタニアのマルタは、今生で多年 K 氏を助けてきた S 氏です。マルタの妹の Мария は誰でしょうか。その印象ははつきりとあるのですが、ここでは伏せることにします。

私達が G A P のイスラエル旅行のと



筆者・遠藤昭則氏が透視して描いたベタニアの姉マルタ（右）と妹 Мария（左）



筆者・遠藤昭則氏が透視して描いたアリマタヤのヨセフ。



▲エルサレムでイエスが弟子達と最後の晩餐を行なった部屋を模して11世紀に建てられた「二階広間」と呼ばれる部屋。
撮影/清水 正

きに見たベタニアのラザロの家は、透視して見える二千年前の家とはまったく形の異なるものでした。後世の人が作り直したものでしょう。

右の人々は今生においても二千年前の過去生と同じような目的を果たすために今も近い関係にあると思われま

壮大なスペースプログラム

ここまで書いてくると、やはりスペースプログラムの壮大なスペースプログラムのなだ感と感心させられてしまいます。

「ニコデモ書」の中でイエスはピラトに、
「あなたに与えられた役割を果たさない」と諭すところがあります。

それは、
「あなたの役割を演じきりなさい」と一つの舞台で監督が演技指導をしているように聞こえてなりません。

その目的

そして、そのスペースプログラムは何の目的があったのでしょうか。それはもちろん地球の人々を宇宙的な方向に導くためだったのでないでしょうか。それは平和に幸せに導くことと同じことでしょう。

それによって地球の気分に放たれる

人々の想念波動も高くなることでしょうから、それはこの地球自体をも救うことであつたのかもしれない。

なぜその時代に

では、なぜその時代にそのような大きなプロジェクトが行なわれたのでしょうか。旧約の時代からいわれたことではあるようですが、なぜ今から約二千年前なのでしょう。

アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』にあるように、また他の巻での土星会議で知らされた他惑星間が地球で行なってきた過去の出来事ともつながりがあるのでしょうか。それは旧約の中に、それ以上に何かもつと深い意味が込められているからなのでしょう。

二千年が過ぎても気づかない

アダムスキーは、もう西暦二千年は過ぎていてと新アダムスキー全集第八巻で述べています。彼は一九三九年が二千年目だったと述べています。

ところが、私たちはその二千年が過ぎててもこの壮大なスペースプログラムのあつたことに気づいてはいません。

そして二千年が過ぎたのに、それでも終末論を期待する必要はあるのでしょうか。むしろ未来に大いなる希望をもつほうがはるかに重要だと思えます。

星の誕生

米航空宇宙局（NASA）のハッブル宇宙望遠鏡が星雲から星が孵化するように誕生する姿を鮮明にとらえた。画像はわし星雲（M16）と呼ばれる水素ガスと塵でできたガス雲の柱の突端から、複数の星が分離して生まれる姿である。

M16はへび座にある若い星が集まった星団を取り巻くように形成されている星雲で、地球から七〇〇〇光年離れている。画像では、縦に伸びた柱の突端に生



まれようとしている星が光り輝いて映っている。（11・4誌）

若い胃癌患者は九割が細菌感染

若くして胃癌にかかった人のうち約九割もの患者が「ヘリコバクター・ピロリ」という細菌に感染していることが、順天堂大医学部衛生学教室のグループの調査で明らかになり、ピロリ菌と胃癌の関係が濃厚になった。

同グループは関東地方の病院に入院した胃癌手術前の患者六四八人と健康診断

受診者一〇〇七人の血液検査を実施し、ピロリ菌に対する抗体の有無を年齢別に比較した。

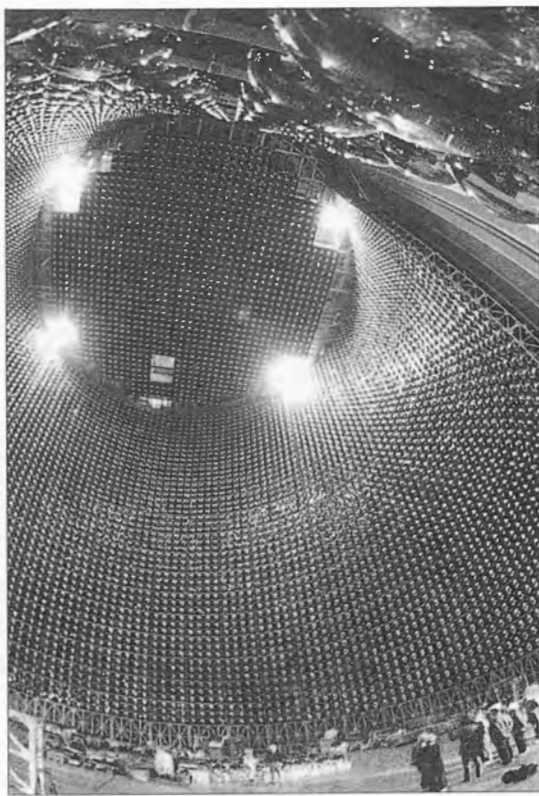
その結果、若い人は癌患者と健康な人の間の感染率に大きな開きがあり、二〇歳代では健康な人の二八パーセントしかピロリ菌抗体陽性の人がいなかったのに対し、胃癌患者では九四パーセントもが陽性だった。三〇歳代でも健康な人の陽性率が四三パーセントであるのに対し、胃癌患者では八九パーセントと大きな開きが出た。日本ではピロリ菌の感染率は高齢になるほど高いが、胃癌患者では年齢にかかわらず、九割前後の高い感染率だった。（10・4誌）

素粒子を追う一万个の目

岐阜県の神岡鉱山に東大宇宙線研究所が建設している「スーパーカミオカンデ」が完成した。厚さ一キロメートルの岩盤を隔てた地球深くで約一〇〇〇〇個の電子の目が銀河系の中心部からやってくる謎の素粒子「ニュートリノ」を検出するために、巨大な水槽の中を見つめようとしている。

直径三九メートル、高さ四一メートルの水槽に五〇〇〇〇トンの水をたたえ、一一二〇〇個の光電子増倍管（光センサー）が、ニュートリノと水がぶつかって出る微弱な光をとらえる。（9・21朝）
PCB分解バクテリア

強い毒性がありながら処理が困難なPCB（ポリ塩化ビフェニール）を分解し、トルエンなどの有機溶媒の中でも生きられるバクテリアを、神奈川県環境科学セ





ンターと民間企業が共同研究で発見した。PCBを分解するバクテリアはこれまでも見つかったているが、このバクテリアは従来のものより一〇倍高い濃度のPCBを分解する能力があり、PCBに汚染された土壌の浄化などに利用できるという。

同センターが一〇〇ppmの高濃度PCBにこのバクテリアを加えて培養したところ、一五日間で六四・五パーセントを分解した。しかも、通常は微生物にとって有毒なトルエンなどの有機溶剤に対して強い耐性があった。(10・6読)

幅二メートルの古代道

東京都国分寺市内で進んでいる古代日本の行政区「東山道」の発掘現場で、幅二メートルの道路跡が確認され、長さ三〇〇メートルに渡って一直線に延びていることがわかった。道路幅から見て国内最大級の古代道路だったと推定される。部分的に見つかっている道路跡をつなぐと、関東平野をほぼ南北に貫いて現在

の群馬県まで幹線として延びていたとみられる。この発掘現場の南方にあたる東京都府中市や、北方の埼玉、群馬、栃木県でも同じ幅の道路が見つかっている。(11・18朝)

太陽系以外にも惑星があった

地球から四二光年離れたベガス座に恒星の周りを回る惑星が存在することが、米カリフォルニア大学の研究チームによって確認された。太陽系以外に惑星が存在する証拠が確認されたのは初めてである。同チームによると、ベガス座の恒星「51ペガス」の動きに惑星の重力による定期的な変化が見られることを確認したという。(10・21読)

エイズには椎茸が効く

エイズウイルス(HIV)に感染すると次第に免疫力が低下していくが、椎茸の抽出成分を服用すると、免疫力の低下を防ぎ、発病を抑える効果のあることを産業医科大の研究グループが突き止めた。同グループはHIVに感染した血

友病患者五人に四年間培養椎茸の抽出成分であるリグニン六グラムを一日二回飲んでもらった。リグニンを飲み続けた四人の免疫力を示す細胞は減少せず、健康な状態だったが、飲まなかった一人は細胞数が激減した。(10・31読)

世界最強の磁場を発生

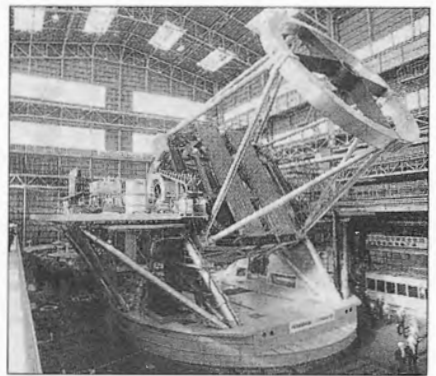
科学技術庁金属材料技術研究所が開発した大型マグネット装置で、長時間変動せずに発生させる「定常磁場」としては世界最強の磁場発生に成功した。

この装置は超電導マグネットと水冷銅マグネットを組み合わせたもので、三六・〇四テスラを達成した。一テスラは地磁気の三万倍の強さである。(11・1読)

稲が自らウンカを防衛

害虫のウンカの卵を産みつけられた稲が、自ら芳香族系の有機化合物をつくり出し、卵を殺す生体防御反応を示すことが、農林水産省九州農業試験場の研究でわかった。農業に頼ってきたウンカの防除の見直しや、ウンカの発生を抑える稲の品種開発などに応用が期待できる。

同試験場は、中国から飛来するセジロウンカが稲に産卵すると、数時間後に稲の出す浸出液で満たされ、その周囲だけが褐色になって枯れ落ちることに着目した。さまざまな品種で調べたところ、稲が褐色に変化しない場合は卵の孵化率が九〇パーセント以上なのに、浸出液で満たされると二〇パーセント以下だった。浸出液の成分を分析したところ、卵を殺す作用のある芳香族系の有機化合物が含まれていた。この作用は稲穂が出る直前に最も強くなる。稲が浸出液で満たされ褐色に変化することがウンカに対する生体防御反応にあたる。(11・27朝)



ガリレオ、木星大気に初めて突入

惑星探査機「ガリレオ」の小型観測機が木星の大気に突入した。木星の素顔や太陽系の起源をつかめるのではないかと期待されている。

観測機は時速一七万キロで大気に突入した後、耐熱容器を外し、パラシュートで降下しながら大気成分や温度、圧力などのデータを上空のガリレオを経由して地球に送る。(12・8朝)

一〇〇億光年の彼方に照準

国立天文台がハワイ島マウナケア山頂の標高四一九メートルに設置する世界最大の望遠鏡「すばる」の本体部分が完成した。本体の高さは二二メートル、重さは五五〇トンで、直径八メートルの鏡が取り付けられる。

駆動制御などのテストを繰り返した後、解体してハワイへ輸送し、山頂で再度組み立てる。従来の望遠鏡の一〇倍の感度があるすばるは、二〇〇〇年に運用がスタートする。(11・3毎)

●久保田会長、名古屋で講演

去る一月二三日、名古屋駅前のホテルアソシアの大ホールで開催された日本薬局協会の愛知合同支部大会で、日本GAP久保田八郎会長は特別講師として招待を受け、二〇〇名の薬局経営者を前にして二時間半にわたり「太陽系文明と宇宙哲学」と題する講演とスライド映写を行ない大好評であった。大会の実行委員長である古川弘明氏が日本GAP会員であるため実現したものの。

●会長、東京造形大学でUFO講演

続いて二月一日には都内八王子市の東京造形大学で一五〇名の学生を対象に「UFOと宇宙哲学」と題して一時間半、講演とスライド映写を行ない、これも大成功であった。この大学でUFO関係の講演を行なうのは今回で二度目。これは日本GAP会員である同校の佐藤彰教授の招待によるもの。

●茨城支部が会報発行

日本GAP茨城支部は昨年九月より「茨城支部通信」を発行している。B5判二頁だが、各種行事やUFO目撃報告等が要領よくまとめられてある。入手希望者は左記宛申し込まれたい。

〒三一五〇一 茨城郡新治郡八郷町
柿岡一二三〇一六九 石井晴美
電話〇二九九一四四一五三五

●誤字の謝り

本誌先号の本欄に掲載した「黎明会会報発行」の記事で、申込先が大曾根

匡史となっていたが、これは大根田匡史の誤りであった。その他の頁にも数カ所この誤植が散見され申し訳ない。

●ご注意

本誌先号の本欄で知らせたが、かねてから千葉県市川市在住の林慎子・寛子姉妹が、誰が見ても飛行機と分かる物を「飛行機型UFO」または「擬態UFO」と称して、その体験を書いたチラシや飛行機の写真等をGAPの会員に配布し、GAPに大迷惑をかけたが、昨七月十七日付をもって日本GAPより除名した。しかしその後もこの双子姉妹に同調する数名がグループ化して飛行機をUFOと称するチラシや、ジェット旅客機、自衛隊機、セスナ機、ヘリコプター等の写真をUFOだと説明して多数の日本GAP会員にばらまきながらGAP内部の攪乱工作を行なっている。このグループの主義と活動は日本GAPとはいっさい無関係なので注意されたい。

●爽りある東京月例セミナー

東京本部が開催している月例セミナーは一昨年の八月で通算三〇〇回に達した。今年一月で三一七回に達している。それで昨年三月には三〇〇回達成記念の盛大な特別セミナーを開催して大盛況であった。これは久保田会長の不屈の信念、偉大な勇氣、高度な知性によるものであり、またこれを支えた本部役員団、多数の会員の方々の熱烈

なご援助の賜物である。

東京月例会は原則として毎月第一日曜日の午後一時から五時まで開催される。会場は東京都港区芝公園（本物の公園ではなくてたんなる地名）の世界的なタワーとして名高い東京タワーの前面にある機会振興会館。地下三階の第二研修室。日曜日は会館正面の玄関は閉鎖されているので、向かって右横の入口から入り、エレベーターで地下三階で降りてすぐ。

プログラムとしては、まず会員による諸体験に関する講演。続いて久保田会長による宇宙哲学の解説講義（今年度は新アダムスキー全集第三巻「生命の科学」をテキストとして使用）、全員による超能力開発練習、近況報告、質疑応答で構成されていたが、今年度から少し内容を変更して新機軸を打ち出した。会場は和気あいあいたる素晴らしい雰囲気満ちているので、初めて来る人は驚いている。

会長の講義はたんなる概念的、カラン念仏的な哲学ではなく、いわゆるアダムスキー哲学（宇宙哲学ともいう）の真髄を生かして、人生のあらゆる苦悩を排除し、真に宇宙的な人間として善き生涯を過ごすための指針を与えている。過去に会長の指導により運命の好転、難病の治癒、願望の実現、能力開発等で多数の会員が光明を見出して歓喜に燃えながら新しい人生を歩んでいる。関東地方の多数の方々のご来場を

歓迎する。ときには富山県や長崎市から日帰りで参加する人もある。会員でなくても入場可能。ときには日時と教室の変更があるが、これは事前に本誌の「全国月例セミナー案内」に掲載されるので目を通されたい。

●日本GAP特別維持会員制度

日本GAPは普通会員とは別に特別維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度であり、普通会員がさらにGAPの運営と発展に貢献するための援助活動であつて、絶大な役割を果たしている。これに加入すれば久保田会長が個人で毎月発行している「意識の声」と題する小冊子のエッセイが各維持会員に直送される。これは本誌に掲載されない秘話、会長独自の宇宙的能力開発法、会長の珍しい体験、行事の速報、その他、興味深い記事が掲載されている。これを綴じて保存している人が多い。特徴は常に読者に大いなる信念と勇氣と希望を起こさせるように激励に満ちている点にある。

エッセイ「意識の声」はA4判紙面にぎつしり印刷された記事が三頁分ある美麗オフセット印刷。いずれ頁数をふやす予定という。

特別維持会員に加入希望者はハガキに「特別維持会員案内書」と書いて日本GAP宛に出せば案内書と専用振込用紙が送られる。ただし普通会員でない人が特別維持会員だけになることはできない。退会は自由。

奇跡を起こす イメージ療法

筆者はブラジルのサンパウロ大学医学部をトップの成績で卒業後、帰国して慶應大学医学部病院で研修。現在は群馬県内の病院に勤務する古くからのGAP会員で優秀な医師。

医師 原 永 倉

アダムスキー哲学の実践によって奇跡的な事象が起こると言われていますが、GAP会員なら誰でも知っているイメージ法を日常的に応用して、奇跡とは言えないまでもしばしばその劇的な効果に驚くことがあります。

イメージ法は久保田会長を始めとして既に多くの方々も効果を上げて発表されている方法ですが、個人的な目標達成を越えて他人のために活用する事も可能です。超能力とは無縁の私でも仕事としての病氣治療に応用して一定の効果を確認していることから、この方法が誰にでも実行可能で普遍的なテクニックであると考えます。

イメージ法そのものはかなり以前から応用していましたが、病氣治療の補助にと実行し始めたのは一〇年ほど前からになります。一般にイメージ治療というと、病気を克服して健康になった姿をその病人自身がイメージングする方法が強調されますが、昏睡状態にある場合やイメージ法を理解してマス

ターするほどの体力的精神的余裕のない状態にある病人には、家族か施術者が行なうほかにありません。

私の場合はほとんどいつもこのような状況で、以下に記すテクニックを実行しています。

仰臥した状態で静かに複式呼吸を繰り返し、雑念を自然に消滅させて行きます。そしてベッドに寝ている患者を明瞭にイメージしながら、金色に輝く液体（生命力・宇宙のエネルギー）を頭から注ぎ込みます。患者の身体が次第にその液体に満たされ、やがて全身が黄金色に光り輝く情景をしっかりと思い描きます。そしてさらにその人が健康を取り戻し、喜んで歩いているシーンまでイメージして終了します。

以上はたった二〇分ほどのプロセスですが、いかに金色をイメージできるかがポイントになります。

このようにいたって簡単な方法ですが、注意すべき落とし穴もあります。

このイメージ療法を始めた最初の頃はビギナーズラックのかなり顕著な効果を認め、それに気を良くして次第に日常的に反復実行するようになっていった九年前のことです。通常の治療をすべて施して万策尽きたという状態の消化器系末期ガン患者を同時に三人担当した時期がありました。当然のごとく懸命にイメージして三人とも若干病状が軽くなったか？と思うまもなく、私自身がちよつとした油断から体調を

崩したのでした。ところがイメージ法の対象であった相手が苦しんでいたのとまさに同じ三人分の症状、すなわち眠ることもできないほどの猛烈な咳込み・腹痛・下痢に一週間以上苦しむことになったのでした。

幸い大事にいたらず快復できましたが、これは反作用を受けるという貴重な教訓になったと思っています。その後はより慎重になり、体力と気力が充実した状態をできるだけ維持しつつ、人事を尽くして天命を持ちながら、こころ一番という時に限って実行することにしていきます。

最近では、脳梗塞の後遺症で全身が麻痺している患者さんが重篤な肺炎にかかってしまったケースに応用して、驚くほど短期間に肺炎が治癒し、危ういところで一命を取りとめた例がありました（もちろん全力で医学的な治療をした上での結果ですが）。

しかし、神ならぬ身にとつてこのイメージ療法が全能というわけにはいかないこともしばしばあります。手術は不可能・抗ガン剤の使用も無理、余命一カ月あるかというほど進行した肺癌で入院してきたケースでは、分を越えた無謀な挑戦と思いつつ実行しても、結局力およばず期待に反した結末を迎えたのでした。

このような極端に手遅れの例は別として、不運にも難病にかかってしまい、病院通いをしてなかなか良くならな

いような場合には、超能力者や気功師によるヒーリングを受けるというウルトラEもあります。しかしいつでも簡単にできるイメージ法も、病人本人や周囲の家族が同時に実行すればより効果的でありましょう。

イメージ法とは直接の関係はありませんが、医学の恩恵に浴した上で併用する価値があると考えられる療法として、音楽治療や漢方療法もあります。さらには最近注目されている健康食品等も時として有効でしょう。音楽療法といっても難しい理論があるわけではなく、基本的には自分の好みの楽曲を聞くというだけで、誰にでもある程度の効果が期待できる音楽として、インドネシア・スンダ地方の「トゥンバン」・「ドゥグン」をお勧めします。

この音楽の持つ金属的な倍音に不思議な力がありそうです。一方、いわゆる健康食品となると肩唾物も多いようですが、最近ではガンや難病にも効果が確かめられつつある製品が市場に出ていますので、役立つかもしれない。ちなみに私が経験した例として、末期ガン患者に「冬虫夏草」を試したところ延命効果を認めています。

しかし何と言つてもこのイメージ療法の簡単さと即効性に優る方法はないでしょう。断固たる気持ちで心の底から治りたい、治して上げたいと願う時、必ずや大いなる力を発揮するものと信じます。

●宇宙船に適した形はあるのか？

世界のさまざまなところで目撃されているUFO。それは赤道付近の熱帯地域や、日本などの過ごしやすい地域ばかりではなく、北極の厳しい気候地域のなどにも出現している。エスキモアの住んでいる地域で多くのUFOが目撃された事件についての書物もアメリカで出ている。

しかしこんなに多くのUFOが地球にやって来ているのに、その形態については少年向けのUFOの書物の中で分類紹介されているにすぎない。

それらもなぜそのような形態なのかという点については一切ふれずに、ポイントと提示されているだけなのだ。これでは子供たちは、そんな物なのかと鵠呑みに信じるしかない。

それらの形態の中には、実際の形とは全く異なる物ではないかと思われるものもある。宇宙船の作り出した「力の場」によって光線が屈折作用を起こし、実際の形と異なって見えるのだ。

そしてその他の事柄なども考慮して実際の形態に迫っていくと、そこには

自然と宇宙船で使われている推進装置に適した構造になっていることが分かってくる。

●宇宙船の基本原則

私の研究から考えると、他の惑星の宇宙船について大体次のようなことがわかる。

まず新アダムスキー全集からそのヒントについて拾いだしてまとめると次のようになる。

『私たちは静電気の海の中で生活しており、その静電気を集めて脈動させると、それは磁気的な推進力となる』

『小型円盤には互いに逆回転する二重のリング（実はフランジの中にある二重のスカート（裾の部分）がある。それは高圧静電発電機であり、また船体にジャイロスコープ的な安定を持たせることになる。』

実験室で、二重のスカートに静電高電圧をかけるとそれらが互いに逆回転を始めることは、アグニュー・ヴァンソン氏の実験（「Electric Spacecraft Journal」一九九一年「一号、二号」の中でビデオからの写真と図解入りで載っている）と日本での彼の特許公報に

のっている。

『自然の力は磁気柱で集められて三個の球型着陸ギアに送られる。母船ではそれが船体を取り巻いている数個のベルト群に送られる。』

『宇宙船は三位一体の原理によって動き、またその船体の構造もその原理に従っている』

そして、三位一体の原理から考えるなら、磁気柱の上端と下端、球型着陸ギア、パワーカーイルといった部分が脈動推進力の源になっていることがわかる。

まとめると、逆回転する二重のスカートによって作られた高圧静電気の場を、磁気柱、球型着陸ギア、パワーカーイルの高振動によって脈動させるといふ簡単な原理で宇宙船は動いているということになる。母船においてもそれと似た構造となるようだ。

●どんな形態が必要か

そこで、それにうまく合う構造が船体には必要となる。そのためには、

- ①高圧静電気を集めるための二重の船体構造。

- ②静電気を集めるために内側の船体が自由に回転できなければならない。これに最も適しているのは、平面図形のある軸を中心にして一回転させたときに見えるような立体（回転体）であろう。それは葉巻型や円盤型である。

- ③船体表面は高圧静電気場を作り出さ

ねばならないので、凹凸のない美しい面が必要であり、突起物や翼状の物がついているとそこからエネルギーが失われてしまうことになる。つまり滑らかで均一な静電気の場がでなくなってしまう。

- ④静電気の場を、高い振動数を持つ脈動状態にするために、突起物が出ているとそこがアンテナになってしまう、やはりエネルギーがそこから失われてしまうことになり、したがって他の惑星の宇宙船が地球の飛行機を偽装するなどということは荒唐無稽な話になる。

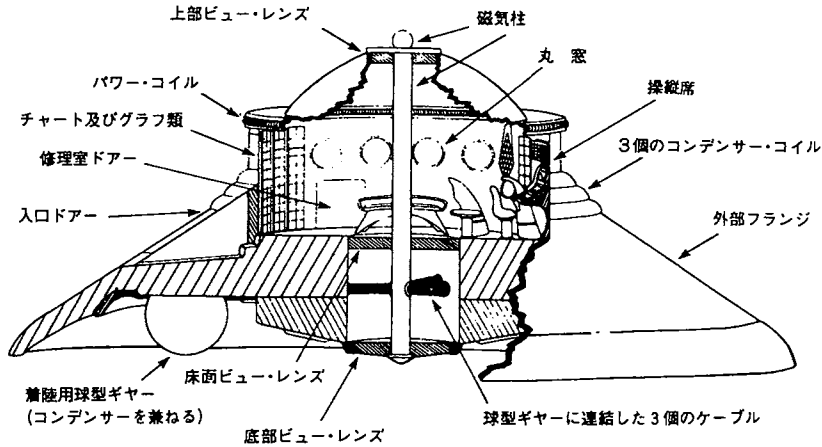
- ⑤うまく飛行するには、船体の極性を惑星のように一軸方向にしなければならぬ。したがって、船体はやはり回転体の形態になる。そこで地球の飛行機のような尾翼や主翼などは極性を作りだす上で付けてはいけないものとなる。なぜなら、そこに新たな極が生ずることになるからである。これはスペースイーブルからの援助もあつたという『宇宙・引力・空飛ぶ円盤』の著者レナード・クランプも指摘していることである。

- ⑥宇宙船が地球の飛行機のようにさまざまな突起物を持つているなら、お互いに宇宙船同士が近づいたときに、船体の各原子を縛りつけている高振動の磁気が、その突起物の先端から引き出されることになる。つまり皆さんのビーズ玉を貫いていた糸を引き抜いたところを考えるとよい。それによって

●飛行機型UFOなるものが存在しない理由——遠藤昭則

宇宙船の形態に関する一考察

The Study of the Forms of Space Ships
by Akinori Endo



各原子はバラバラになり、船体は細かい塵よりもさらに細かくバラバラになってしまふ。
したがって、宇宙船の形態は葉巻型や円盤型になるのである。

●マンテル大尉事件

新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』二六七頁の第一章『有名なUFO事件の真相』の中で、アダムスキーが、一九四八年一月七日に米空軍のマンテル大尉が巨大な円盤型UFOを追跡して惨死した事件についてたずねたとき、土星人がつぎのように答えている。

「あれは私たちがたいそう遺憾に思っている事故です。彼が追跡していた宇宙船は巨大なものでした。(中略)彼らは(異星人たちは)大尉の関心がまじめなもので挑戦的でないことを知っていました。彼らは円盤の速度を落とすとして、大尉機の装置を通してコンタクトしようとしたのです。みんなは円盤からパワーが放射されていることをよく知っていますから、大尉機を傷つけることなしに機の接近を阻止するだろうと思つたのですが、さらに接近したとき、機の翼がパワーの中を通過し、そのため吸引作用が起り、機体全体がパワーの中に引つ張られて、即座に機体と人体が分解してしまつたのです」

続いて土星人は、これは磁気放射線

によって物質の分子が分離し、その位置を完全に転換させたからだと説明し、もし大尉の機体が円型かそれとも葉巻型だったら事故は起こらなかつただろう。大尉機は全体の型が一樣でなかつた。翼が機体から突き出していた。事故の原因はあの翼だったと言っている。

そして地球の飛行機は我々の宇宙船が放射するパワーのために危険であるばかりか、自然の磁気の流れの中に入れば機体がねじれて破壊される可能性がある。飛行機の機体から突き出ている部分が多すぎるので、パワーがそのどれかに触れれば機体は助からないという意味のことを述べている。

以上の説明からみても飛行機型UFOなどが存在しないことは明白であるが、それよりも、誰が見ても飛行機とわかるジェット旅客機や自衛隊機やセスナ機などを「飛行機型UFOだ」といって、その写真などを人に見せる感覚というのは荒唐無稽を通り越している。

UFOの推進原理は超高度に科学的なもので、心霊的な神秘的なものではない。それについては新アダムスキー全集六巻『UFOの謎』四〇頁の「円盤や母船はどのようにして作動するか」と題する章に詳述してある(もちろん、肝心の推進理論の最重要な部分は隠してあるが。四二頁を見ると、「重力に従った宇宙船は、それ自体の重力場を発生させて作動する。この重

力場は大体に球体をなして船体を取り巻いている。この重力場は惑星の磁場と調和して共振するように、すなわち混ざるように調節されている。すると、この共振重力場が船体を無重量にしてしまふのである。無重量つまりバランスのとれた状態にあると、船体はどこにいてもわずかな推力で動かすことができるのだ」とある。この共振原理については、私の研究による先に述べた理論が該当すると思う。

次にアダムスキーは宇宙船内の発生器によって生み出される推進力は、地球の物理研究などで用いられるファンドグラーフ静電気発生機で発生する力にたとえられると述べて見事に説明している。

以上のアダムスキーによる宇宙船の推進理論に関しては、国内でトップクラスの科学者によって研究されているという情報もあるし、むかし米海軍がアダムスキーの理論を応用して宇宙船の模型を作つて成功したとアダムスキー自身が述べており、これは真実だったという説もある。アダムスキーの著書は重大な意味を帯びているといえるだろう。

重要きわまりない科学的哲学的要素を含むUFO問題が、一部の異常な人達により幻想化され童話化されて一般人の抑鬱と嘲笑の的になるのは残念である。これも地球社会の宿命なのだろうか。

アダムスキーの思い出と彼の宇宙哲学

●アリス・ポマロイ／久保田八郎訳

ポマロイ女史はアダムスキーに最後まで師事した現存する唯一の高弟。この記事は昨年（一九九五年）九月八日、米ワシントン市で開催されたアダムスキー大会における女史の講演の全文。高齢の女史が公開の席で語る師の思い出話としてはこれが最後となるかもしれない。内容は高度な宇宙的思想に満ちており、読者にはこよなき指針となるだろう。

アダムスキーの書物に感動

まずはじめに、私をご存じない方に申し上げますが、私はいなか者でございます。家の外を走り回るおてんば娘のまま大きくなって、結局、レイディーにはなれませんでした。女の子らしいことをするのも好きでしたが、男の子らしいことをするのも、負けないくらい好きでした。家の外で泥んこ遊びなどをしていると、家の中でケーキの粉をこねているときと同じくらい、いや、おそらくそれ以上に、楽しかったものです。でも、これまで常に真実を追い求めてきたと自負しています。

ジョージ・アダムスキーの『宇宙船の内部』（日本語版『第二惑星からの地球訪問者』の第一部に収録）は、彼と会うずっと前から私の親友でした。私はその本を読んで、ブラザーズ（注）友好的な異星人）の教えが、私の子供の頃から従うように教えられてきたイエスの二千年前の教えと、とても良く似ていることを発見しました。そしてその類似性が、アダムスキーへの私の強い関心を芽生えさせることになったのです。私は彼を、とてもユニークで、大切な人間だと感じました。私にとつてのみならず、他のあらゆる人間にとつてもです。彼は、常に他の人々の進歩を援助しようとしているよ

うに思えました。私はそんな彼にぜひ会いたいと考えていました。そしてある日、彼の講演が予定されていた、ある遠い町まで、友だちと二人で出掛けていくことにしました。

その町に着いた最初の晩、講演が始まる前に、私は何人かの友人と一緒に会場の入口付近に立っていました。人々が集まってきていました。やがて、開演時刻が迫ってきました。

不思議な三人の男

そのときです。三人の男性が入ってきて入場券売り場の前で立ち止まりました。彼らを見た瞬間、私はハッとしました。私は彼らから目が離せなくなりました。彼らが急ぎ足で階段を登り二階席に向かう頃には、すでに私は、ある奇妙な確信とともに、彼らがブラザーズであることに気づいていました。階段を登っていく彼らの一人が着ていたツイードのトップコート（訳注）春や秋に着る薄手の外套）の背中が、私

の強烈な視線を受け続けて、焼け焦げていたかもしれせん。

講演が終わると、聴衆はアダムスキーの後を追いつけました。結局アダムスキーは出口付近で立ち止まり、彼らの質問に答え続けねばなりませんでした。いつのまにか、例の三人の男性もその集団の中に加わっていました。彼らはアダムスキーから少し離れた所に静かに立ち、黙って話を聞いていました。私はできるだけ目立たないようにして彼らを観察していました。彼らはアダムスキーがいつも言っていたように、まさしく私たちと同じように見えました。彼らは濃い色のスーツにトップコートをはおり、帽子はかぶっていませんでした。

三人のうち、私に最も近いところにいたのは、グレーのトップコートを着た男性でした。彼は薄茶色の髪と灰色の目をしていました。私は親しみを込めてその男性と目を合わせようとした。それがブラザーズを確認するための確かな方法の一つであることを知





▲講演中のアリス・ポロマイ女史 撮影/伊東秀和

ついていたためです。でも彼は、私と目を合わせることを避け、明らかに意図的に自分の足元に視線を送っていました。そのとき私に強い印象がやってきました。もはや、彼が私の心の中にあるものを理解していることは明らかでした。言葉などは全く不要でした。その印象はどんな言葉よりも強い確信を私に与えました。私は喜びでいっぱいでしたが、そのことは誰にも言いませんでした。

アダムスキーに見つめられる

その次の日、和気あいあいとした雰囲気の中で、昼食会を兼ねた非公式のミーティングが開かれました。

その昼食会のとき、アダムスキーは何人かの人たちと食堂の椅子に座っていました。すでに彼は、その威厳と魅力とカリスマ性で私の心をしっかりととらえていました。

私は、興奮がみで食事がのどを通らなかつたものですから、食堂の入口付近に立って、あまり目立たないように心

掛けながら、アダムスキーの話に耳をそばだてていました。すると何かの拍子に彼が顔を上げて、私の目をじっと見つめたのです。さほど長い時間ではありませんでした。彼はすぐに視線をそらして、近くにいた人たちの会話に戻っていききました。でも彼は少ししてまた私の目を見ました。そしてまた同じようにして視線をそらしました。

そのようにして、あの深みのある、すべてを見透すような黒い瞳が三度私の目をとらえて解放したのです。私は、どの場合にも、彼が解放してくれるまで自分の視線を彼の目からそらすことができませんでした。その間私は、自分の想念やフィードバックがすべて見透されていると感じていました。彼がどんなことを考えているかを正確に知ることがもちろんできませんでしたが、「彼は私を仲間だと認識した」ということだけは、確信できました。それ以来私は彼からの同じような視線を何度も体験することになりました。そしてそのつど、そうされることを、とても光栄なことだと感じたのです。

過去生を透視できた アダムスキー

「目は魂の鏡である」とはよく言われることです。私たちの魂の中には、私たちがこれまで生きてきた多くの人生の記録がすべて収められています。そしてアダムスキーは、その「生命の

本」あるいは「宇宙的記録」の内容を読み取る優れた能力を持っていました。魂は目を通じて、別の魂にそれ自身のあらゆる体験を洩らすのです。

アダムスキーは、すべての人間の過去生、才能、運命といったものを、とても正確に知ることができました。彼はそれを自分自身の関連性の観点からも知ることができました。そのため、過去生で関係のあった人間を容易に認識できたのです。彼が後になってから言ったことですが、私は、過去生でも彼と一緒に何度も働いたことがあるようです。そして、そんな人間は私だけではありません。私は、ここにおられるほとんどの方々も過去生において彼と何度も関わってきた方々であることを強く信じて疑いません。

常人ではなかった

昼食が済んでから、私たちはアダムスキーの話に耳を傾けました。それはある家庭で行なわれた、いわば内輪の会合でした。私は、彼の話を注意深く聞きながら、彼の深い知識と理解力の源を探ろうとしていました。すぐに私は彼が常人ではないことを確信しました。私たちがどんな疑問を持ち出しても、アダムスキーは何でも知っています。彼自身の言葉で見事に説明するので、彼はとてもユーモアに溢れた人でもありました。そして、よく無神論者だ

と言われたりしましたが、現実はその正反対です。彼は話の中に、ときおり聖書用語を交えたり、特定のポイントを強調するために聖書の一節を引用したりもしていました。しかも彼はそれを私の知るいかなる牧師よりも上手に口にするのです。そして何よりも、創造性とあらゆる生命に対する大きな敬意を頻繁に表明していました。彼に会った人間は皆、彼の万物への深い思いやりと愛を容易に感じ取ることができたはずで

彼の考え方は、常に論理と秩序と常識からなる、しつかりとした枠組みを持っていました。そして、その点が私はとても気に入っていました。それは、こういった新しい分野（訳注UFOや宇宙関係問題）の情報真偽を判断するための、とても良い物差しとなりうるものだと私は考えています。彼の話は私たちの誰もがなじんでいたテーマに関するものでしたが、その内容はとても幅の広い知識で構成された驚くほどに包括的なものでした。

超人的なテレパシー能力を發揮

その日私は、彼のもう一つの超人的な能力にも気づくことになりました。それは、後で一緒に働くようになっただけで、しよっちゅう目の当たりにした能力でした。彼は自分が話をしていくときに、人々が何を考えているかが

手に取るように分かったのです。そのため彼は、人々が疑問に思っていることを、それが質問として出される前に回答してしまうという芸当を頻繁に行なっていました。またこれは後に気づいたことですが、彼はときおり特定の質問を聞かなかつたふりをして、全く関係のない話をするのがありました。彼がそうしたのは、彼が「この人物にはまだ、この答えを聞かされる準備ができていない」と判断したときでした。彼はいかなる人間をも混乱させたくなかつたのです。そこには私がとても親近感を感じる、私がとてつもなく永い間親友であり続けてきたと思われる素晴らしい魅力的な男がいました。

講演に必ず来るブラザーズ

アダムスキーの別の講演の後で、こんなこともありました。夕食後のくだけた会話の中で、私が「今日の会場にブラザーズは来ていたの？」とたずねると、彼は突然眼の色を輝かせました。そして「あなたが見たままを言っただけで、と興奮したように言うのです。私は自分が会場で見た男たちの様子、そのときの自分の行動を話しました。すると彼はとても喜んで、「よくわかっただ」と言っただけで済ませました。彼が言うには、これらのブラザーズは彼の講演のときに、彼を援助する目的で

都合がつくときには必ずやって来るということでした。

多くの人が気づかず会っている

そこで私は「彼らは私のことをもっと信頼してくれてもいいのに」と不平めいたことを口走りました。するとアダムスキーは、すかさず言ったものです。「いや、それは違う！ 彼らはそんな危険なことを絶対にしない。もしあなたが彼らの正体を誰かにばらしたら、彼らは地球での仕事を中途半端にして、すぐに自分たちの惑星に帰らねばならなくなるんだ」

少しして、別のアダムスキーの講演のときにも、彼によれば、私はまたもやブラザーズを目撃しました。アダムスキーは「私たちは、ふだんの生活の中で彼らと何度も会い、会話を交わしているのだけれど、彼らのことを異星人だとは気づかないでいる」ということを、よく語っていました。私ももしかししたら、そのような形で彼らと接触したことがあるのかもしれない。でも残念なことに私はまだ、それだと認識して彼らと接触したことは一度もありません。アダムスキーが他界してから多くの人々がブラザーズとの接触を望んできました。でも彼は生前、ブラザーズとの接触を願っていた人々に質問されて、「我々はまだ、彼らが提供してくれた情報をほとんど利用して

いないんだ。それなのに彼らがこれ以上の情報を我々に与える必要がどこにあるんだい？」と答えていたものです。

テープ録音を消したブラザーズ

アダムスキーは、自分の講演の録音を、請われればいつでも許可していました。ところがある講演のときに、二人の空軍将校が内緒で録音を試みたことがありました。彼らは録音の許可を願い出ても却下されると考えて、テープレコーダーをコートの下に隠して、こっそりと持ち込んだのです。

「何が起こったと思う？」とアダムスキーは目をキラキラさせながら言いました。彼はこの種の話をするのがとても好きだったのです。まるで少年のような目の輝きと仕種と笑顔をみせながら彼は言ったものです。「ブラザーズが、連中が録音したものを全部消してしまつたんだよ！」

ブラザーズの技術をもってすれば、そんなことはわけもないことでした。結局、空軍将校たちは後にテープを再生しても何も聞くことができなかったのです。アダムスキーは、「ちよっと許可を願ひ出していさえすれば、何の問題もなかつたはずなのにね」と言っておかしそうに笑っていました。ブラザーズも単に賢いだけではなく、アダムスキーと同様、ときおり、このようなちよっとしたいたずらをしては大いに



▲ありし日のアダムスキーとポマロイ女史（1964年撮影）

楽しめるほどに、なかなかユーモアにあふれた人たちのようです。

私達が地球人である理由

私は典型的なキリスト教徒の家に生まれ、私から見ればイエスの教えに完璧に従っていた両親によって育てられました。私が今でも大切にしている基本的な価値観は、その当時に培われたものです。あるとき私は、アダムスキー

ーから自分の価値観を聞かれて、それを話したところ、彼によれば、私にまさにブラザーズと同じ法則に従って生きようとしているということでした。

結局、イエスの基本的な教えはすべて宇宙の法則に他ならないのです。私はアダムスキーに会うはるか以前から儀式や典礼などを含むいくつかの点に疑問を感じつつも、キリスト教徒として真実の追求を続けていました。ただ、アダムスキーの教えを研究してすぐに

彼への手紙の中でも告白したのですが、私の心は全くもって始末におえませんでした。それから長い年月が過ぎた今でも、それは相変わらず始末におえません。数々の決意を固め、自分なりに努力を積み重ねたにもかかわらず、私の心は、それ自身のやりたいことを、いまだに好きほうだいにやっているのです。結局、私は、地球上で延々と生存を続けてきた祖先の血をしつかりと引きついでいるのです。私には四人の妹がいますが、私も妹たちも、自分たちの本性をとてもよく知っています。何か問題が発生したら、私たちはその責任が誰にあるのかをいつも知っています！ それはいつも自分以外の誰かなのです！ ただし念のために申し上げておきますが、私たちには、悪いところばかりではなく、良いところもたくさんあります。

でも私は、これまでの真実を追求する努力の中で、三つのことを挙げました。まず一つは、「この惑星には私のような人間がたくさんいる」ということです。私たち地球人は、これほどまでに未熟だからこそ地球人なのです。二つ目は、「私たちは、話すことよりも聞くことによって、はるかに多くのことを学ぶことができる」ということです。そして三つ目は、「もし心が、自分はずで知る者であると信じているとしたら、そのときそれは、より偉大な知恵のための入口を、しっかりと

閉じてしまっている」ということです。心は、開かれねばなりません！ 私は今も、心を開き、少しでも進歩を果たそうと努め続けています。しかし、その歩みは遅く、満足すべき進歩を遂げるまでにはさらに百回ほどの人生を積み重ねる必要があるかもしれません。そして私はそれでもかまわないと考えています。

ダイヤモンドの譬え

アダムスキーがダイヤモンドの譬えを語っています。かつてそれは最低レベルの表現であるただの炭素でした。それは一つ上のレベルに移動するたびに、それ自身を捧げねばなりませんでした。それは、ゆがめられ、ひっくり返され、押され、引かれ、つぶされ、圧縮されるなどをくり返して、一步一步レベルを上げ、最終的に光り輝くダイヤモンドとして、それ自身を表現するに到ったのです。

あらゆる生命が進歩を果たすためには、それと同じパターンに従わねばなりません。アダムスキーは譬えを用いるのがとても好きでした。彼は、人々に進歩に関する理解を深めさせるためには、単純な物語がとても有効だと考えていました。

彼はこんな譬えも語っています。まず最初の王国があります。それは、土中の微小元素や宇宙空間を満たしてい

る様々な元素で構成されている、いわば生命の一年生です。それらはやがて草などによって吸収され、植物王国すなわち二年生に進級します。次にその草は牛に食べられて動物王国に入り、よりハイレベルの生命を体験することになります。もし牛に食べられることがなかつたら、草はしおれて枯れてしまっただけです。そこで生命的な進歩は終わってしまうことになるわけです。

このあたりに来るとアダムスキーはいつも興奮が抑え切れないといった様子でした。

続いて、そこに私たちがやって来ます。そこで私たちは牛を殺して食べることとなります。その結果、牛は私たちの一部となり、私たちを通じて、さらにハイレベルの生命を体験することになるわけです。結局、あらゆる生命が成長のために互いに関連し合い、依存し合っているのです。

惑星から惑星への進歩の旅

あらゆる進歩が、同じパターンに従っています。人間もまた、一步一步、よりハイレベルの存在へと進歩していきます。人間もまた学習を通じてさらに進歩することになります。形を持つものの頂点に立つ人間の進歩は、形状的なものではなく、あらゆる形あらゆるものに関する、より深い理解を意味しています。私たちは、新鮮なアイデ

アの数々に、心を大きく開き続けねばなりません。アダムスキーが常々語っていたように、私たちの学習はいつになっても終わることがないのです。

文明もまた同じパターンで進歩しています。アブラハムから、モーゼ、イエス、オーソンへと、次々とリーダーを変えながらです。アダムスキーはそれをこのように説明していました。彼によれば、私たちが今入りつつある「時代」の終わりに、この太陽系のあらゆる惑星に必要なレッスンを学んだあらゆる人々が、一緒になって別のより進んだ太陽系の惑星へと移動することになる、ということでした。そしてそれは同じパターンに従ってさらに延々と進歩を続けることとなります。私はこの希望に満ちたアイデアに思いを巡らすことが大好きです。

自然界の観察を

自然と、その中に存在する万物に、アダムスキーは大きな興味を示していました。そのため彼は、自然のことに触れずに講演を終えたりすることは、まずありませんでした。彼は、「地球人は自然を教師と見るアイデアをないがしろにしている」と語っていました。そして、多くの「プロ」たちが教育というものを理解していないと言つて、とても憂慮していたものです。

一般に、人々はプロとなり、続いて

権威と呼ばれるようになると、もはや教わることをやめてしまいます。そしてもし誰かに、なぜ自然界を観察しないのかとたずねられたりすると、すかさず「自然界がいつたいたどうしたっていうんだい？ まさか、自然界が私よりも知的だなんて言うんじゃないだろうね！」などと反発してくるのが常なのです。アダムスキーは、「そこが問題なんだ」と言つた後で、「歴史を振り返つてごらん。ほとんどの価値ある発見はアマチュアによってなし遂げられていて、ということがよくわかるよ。プロはいつも功績のみを追い求めているんだ」と指摘していました。

アダムスキーの眞実性を知つていた米政府

ブラザーズとの接触を公表してからのアダムスキーは、常に非難と中傷の対象であり続けました。しかし彼を中傷する人々が、当時はもとより今になつてもまだ存在するという事実は、裏を返せば、彼が自分が話していたことの眞実性を知っていたということの明らかな証明でもあります。かつてアダムスキーは、「米国政府はウソばかりついている人間と深く関わつたりは絶対にしないよ」と言つて笑つていたのです。アメリカの政府も軍部も、アダムスキーと彼の「情報源」のことを、とてもよく知っていました。しかし彼らは、「アダムスキーが、次に、

何を、どこで話すか」を把握できなかったために、ひどく恐れていたのです。アダムスキーは、世界中のあらゆる米軍施設に自由に出入りできる特別な許可証を手に入れました。これは大変なことでした。極めて異例の特権です。私もそのカードを見せてもらいましたが、それを彼は財布に入れて、どこに行くときにも携帯していました。彼はそれを手にしていることを、つまり、この国の権威者たちから信用と信頼を得ていたことを、とても誇りに思っていました。

人工衛星に対する適切な助言

アメリカが最初の人工衛星を打ち上げようとしていた頃のことです。それは、二一インチ（五二・五センチ）の黄金の球体でした。その表面が宇宙空間のチリと衝突して傷がでないように、科学者たちは、その周囲にマイナス（負）の電磁場を張り巡らしました。宇宙空間の粒子は皆、マイナスに帯電しています。これに関してアダムスキーはこんなふうの説明したものです。「マイナスとマイナスは、互いに反発し合うようにできているんだ。女性同士がうまくいかないのは、そのためだよ。彼女たちは互いに反発し合うようにできているのさ。男性同士も同じことだ。プラスとプラスも、やはり反発し合うわけだからね」アダムスキーは

本當に冗談が好きでした。

それは別としてアダムスキーによると、科学者たちはあの球体の内部に五〇万ドルもする装置類をセツトしました。そして、それを試運転してみたところ、内側の装置がすぐに焼け焦げてしまったということです。何度試みても結果は同じでした。「彼らは、自然の法則の片側にしか目をやっていなかったんだ」とアダムスキーは言っていました。

彼の説明はこうでした。「それで困り果てた彼らは、私のところに相談に来たんだ。まず私は彼らに構造を正確に教えてくれと言った。でも彼らはそれは最高機密だから教えられないと言った。でも結局、それがわからなければアドバイスのしようがないと私が言うと、彼らも渋々それを教えてくれた。それで最終的に私は彼らにこう説明したんだ。

『君たちは、この球体の外側にマイナスの電磁場を張り巡らすことにしたわけだが、マイナスの電磁場が出現すると、どこかにそれと相対するプラスの電磁場も出現することになるよね。このケースでは、それが、装置類のある君たちがニュートラルの状態に保ちたいと考えている。この球体の内側に出現することになるわけだ』

41
「そこまで言うと、彼らは『そこをニュートラルにするにはどうすればいいと思う?』と聞いてきた。それで私は

こう言ったんだ。

『これよりも一回り小さな、もう一つの球体を作ればいいのだ。それを内側に入れて、外側の球体と触れ合わないように固定して絶縁する。そうすれば、マイナスの電磁場が外側にできたとき、プラスの電磁場はこの二つの球体の間の隙間にだけ発生し、装置類の収まっている中心部はニュートラルの状態に保たれていることになる』

それで彼らは、その通りのことを行なって打ち上げに成功したというわけだ」

アダムスキーは、「彼らもつと早く相談に来さえすれば、あんなに多くのお金と時間をむだにすることなどなかったのに」とでも言いたげでした。まさに、人間による自然の法則の無視の典型的な実例でした。

アダムスキーは、ある強力な敵対勢力の妨害を受けていました。そのグループは、彼が私たちに伝えてくれた真実を必死でおおい隠そうとしていました。彼はそのことを、決して秘密にはしておきませんでした。彼はそのことを、自由に話し、ときおり、「敵対勢力は私を絶対に止められない!」と力説したりもしています。そして彼は、そのグループの人々を見分ける方法と、彼らから学ぶための方法を、あれこれと教えてくれたものです。

心霊とは無関係

アダムスキーと一時期親しく関わった人間の一人として、私は、彼が、彼自身の体験とブラザーズから教えられた真実を、正直に、誠実に、真剣に語り続けた人間であることを神に誓って断言できます。彼は、自分が真実のみを語っているのだということを大衆に知ってもらおうと懸命の努力を続けていました。彼はまた、自分とブラザーズは心霊主義や神秘主義とは完全に無関係であるということを、常に明確に述べていました。

アダムスキーは、ブラザーズと接触するための時間と場所を確保することに、いつも大きな注意を払っていました。旅行中、彼はブラザーズが誰にも気づかれずに会いにこれるようにと、特別な場合を除いては、いつもホテルに泊まっていました。それと、ブラザーズはときおり、「彼らがアダムスキーに会いに来たことに気づきうる人間を、ぐつぐつと眠らせてしまう、ある特別なテクニク」を用いてもいました。それは、極めて強力で、持続時間が短い、全く無害な睡眠薬のように機能しました。

ブラザーズは、ビスタのアダムスキーの自宅にも、夜間によく訪ねてきていたようです。ある朝、こんなことがありました。起きてきたばかりのアダ

ムスキーが、アリス・ウェルズに「夕べはよく眠れたかい」と訪ねました。アリスは、少し考えてから、とてもよく眠ったと答えました。そこでアダムスキーは意味ありげな視線をアリスに送りました。するとアリスは小刻みにうなずきながらクスクスと笑い出したのです。アダムスキーも同じように笑っていました。アダムスキーとアリスは素晴らしく心が通い合っていました。私は二人がテレパシーを用いて、まるで言葉を用いて語り合っているかのようには、意志疎通をする場面を何度も目撃したものです。

アダムスキーは、「この時代に人々を援助するために地球にやって来たのは自分が最初ではない」とも語っていました。彼よりも先にやって来た人々の中には、モルモン教の先駆者、ジョセフ・スミスもいました。アダムスキーによると、彼は真実を広めるための基盤作りの過程で一部の信者に殺害されてしまったのだそうです。

謙虚であったアダムスキー

アダムスキーは、若い頃の彼は自信の欠如と羞恥心のかたまりだったと言っていました。若い頃の彼は、自分が公式に教育をほとんど受けていないことと、正しい英語を話せないことから、かなりの劣等感を感じていたようです。さらに、彼の英語には、彼が最後まで



▲アダムスキーの秘書として長く奉仕した故アリス・ウェルズ女史。撮影/山本益巳
(この写真は日本GAP旅行団がカリフォルニア州ピスタの女史宅を訪問時に撮影)

克服できなかった強いポーランド訛なまりがありました。もともと彼は、その訛を、彼の父に敬意を表して意図的になくさなかったのだと、おそらく冗談で言っていました。

でも、あるとき彼は、イエスからの強い印象を受け取ったということですから、「私はすでに、あなたのために、いろんなことをしてあげた。あなたは私のために何をしてくれるのだろうか?」という印象だと語っていました。そしてそれが彼に、「自分が手にしている真実を、可能な限り多くの人々に分け与えよう」と決意させたのです。(訳注) アダムスキーは二千年前、イエスの弟子のヨハネであったと伝えられている。

ただ、はじめて講演を行なったとき

には、緊張のあまり膝が震えて立っているのがやっとなったそうです。回数を重ねていくうちに徐々に自信が

ついできたということでしたが、ブラザーズもずいぶん援助してくれたようです。彼はブラザーズと会ったり、宇宙旅行を体験したり、彼が「マスターたち」と呼んだ人々と貴重な会話を交わしたりできたことを、自分に与えられた素晴らしい特権だと感じていました。ただ、「私は、こんな特権を与えられるにふさわしいことをしたのだろうか」と、いつも謙遜けんそんしていました。

重要なのは異星人のメッセージ

ジョージ・アダムスキーが特に強調していた三つの事があります。まず彼

は、「最も重要なのは、他の惑星の宇宙船が地球にやって来たという事実ではなく、彼らもたらした人類の進歩を促すメッセージなのだ」ということを、常に語っていました。彼は、人々のより良い未来作りを援助することに全身全霊を打ち込んでいました。

それと彼は、自分が真の自分以外に偉大な人間として見られることを決して望みませんでした。高いところに奉られたり、神のように崇められたりすることをとても嫌がっていました。彼は、自分も他のあらゆる人間と同様に数々の欠点を持っていることを知っていました。そして、どんなときにも、普通の人間として、私たちと同じような人間として扱われたいと考えていました。

そしてもう一つは、彼はブラザーズの教えから宗教が作られてしまうことを、とても恐れていました。それはまさにイエスに起こったことでした。アダムスキーはその弊害を良く認識していたのです。地球人たちは、これまであまりにも頻繁に、偉大な予言者や教師たちの崇高なメッセージを忘れ続けてきました。予言者や教師を神として崇め、そのことにばかり頭が行ってしまったためです。大切なのは教えた人物ではなく、教えそのものなのです。アダムスキーはこのことをいつも強調していました。

アダムスキーは古代中国の賢者?

ジョージ・アダムスキーとは、どんな人間だったのでしょうか? そして、彼の教えとは、どんな教えだったのでしょうか? 彼が私たちに語ったことですが、彼は三千年ほど前に中国にいたようです。しかも傑出した賢者の一人としてです。老子の教えの中には、アダムスキーの教えと一致する箇所がたくさんあります。一節によると老子は伝説上の人物で、彼の教えは数人の賢者たちの合作だということです。アダムスキーがそれらの賢者の一人であったか、彼らと何らかの深い関係にあった人物だったかという推理は、あながち的外れではないような気がするのですが、いかがでしょうか?

チャーチワードが、ムー大陸に関するあの有名な本の中で、五万年前に書き記されたとされる、ある興味深いフレーズを紹介しています。それは、伝説上のものではなく、実際に粘土版に残されていたもので、「一つが二つになり、二つが三つを作り、その三つからあらゆる生命が創造される」と翻訳されました。そうなのです。それはまさに、アダムスキーが私たちに教えた、「アラスーは三である」という概念そのものなのです。さらに興味深いことに、老子が書いたとされる「道德経」の最初の一節も、全く同じことを

言っているのです。

どうやら、この宇宙には、三位一体の原則という根本的な原則が永遠に存在し、それに従って万物が、我々にその真実の足跡をくり返し残しつつ、休みなく進化を続けているようです。この原則が様々な異なった源から出現してくるのを見るたびに、私はアダムスキーとブラザーズの教えの正しさを再確認するとともに、大きな心の鼓舞を得てきました。

幼少時からブラザーズの援助があった？

私が手にしている情報を総合すると、ジョージ・アダムスキーは、彼以前に出現した多くの教師たちもおそらくそうであったように、まず間違いなく、人生のかなり早い時期から、ブラザーズの援助を受けていたと思われます。まずアダムスキーは流星雨の中でUFO抜ききの月の写真を撮影していた頃にすでに、近隣の他の惑星に人間が住んでいることを知っていたと、語っていました。彼はその時期にそんな情報をどこから入手したのでしょうか？

彼はまた、幼い少年時代にアメリカ行きの船に乗る直前、波止場で見知らぬ男に散歩に誘われていますが、その男がブラザーズの一人であったことは疑いようありません。アダムスキーはまた、その同じ男と二年後にもアメリカで会っています。そして、そのと

きにもやはり散歩に誘われたのですが、どうもそのときにアダムスキーはすでに成長の途上にあつた彼の肉体の中に転生してきたようです。

さらに、アダムスキーはその直後にチベットに行き、何年かを向こうで過ごしていますが、それにもおそらくその同じ男が深く関わっていたはずでアダムスキーの当時の年齢と境遇からして、彼が一人でチベットに行つて戻つて来ることなど、とうてい不可能なことだつたはずで

彼はまた、まだ若い指導者として活動中にロサンゼルスに頻繁に出掛けている、彼の言う「マスターたち」に会っていました。彼らもまた間違いなくスペーススピーブルだつたと思われ

ます。そしてこれには物証があります。アダムスキーは、あるクリスタル製のペンダントをととても大切にしています。彼はそれはブラザーズがくれたもので、金星で作られたものだと言っていました。そして、私たちは今、彼がまだ若い頃に人々に教えている様子を撮影した一枚の写真を保持しています。それが、彼がはじめて異星人とコンタクトしたとされている時期よりもはるか以前に撮られたものであることは、誰の目にも明らかです。ところが、その写真に写っている彼の首には、彼がブラザーズからもらつたと明言した黒い幅広のリボンに取りつけられたペンダントが、しっかりと掛けられてい

るのです！

アダムスキーは、一般的には一九五二年に例の砂漠（デザートセンター）に降りてきたオーソンと会うまでは、ブラザーズに会つたことがないということになつていきます。でも彼は、そのはるか以前から、明らかに彼らの導きを受けていました。実際、あの砂漠に出掛けていったのも、彼らによつて導かれたからに他なりません。

アダムスキーが、それらの人々が異星人であつたことを最初から知らされていたかどうか、あるいは、そう言われても信じていたかどうか、あるいは、彼がたびたび言つていたように、ずつ

と後になるまで、彼にとつて彼らは単なる進歩した地球人にすぎなかつたのか、といった話の真相は、私たちには知り得ないことかもしれません。

私たちはまた、アダムスキーが私たちに洩らす情報をブラザーズが制限していたという事実も知っています。そしてアダムスキー自身も、私たちを混乱させてしまふような情報を極力伝えないよう心掛けていました。しかし、そのあたりの事情がどうであれ、ブラザーズが、アダムスキーの全人生に、私たちが以前に考えていたよりもはるかに深く関わつていただけは、確かなことのようにです。



▲講演中の若き日のアダムスキー。胸にペンダントをかけている。これは水晶のような材質に非常に複雑なカットをほどこした物で、1975年11月に記者（久保田八郎）がアリス・ウェズル女史宅を訪問時に見せてもらったことがある。直径5〜6センチの大きな物で、胸にあてるとボーッと熱くなった。アダムスキーは、このペンダントはスペーススピーブルからの想念波動を増幅する作用をなしたと言っていたという。

UFO contacteeバックナンバー主要記事

★在庫は101号と105号以降全部(100号以前と102,103,104号品切れ絶版)。代金後払い可。ハガキに号数、冊数、住所、氏名、電話番号を明記して日本GAP宛気軽にご注文下さい。バックナンバーに限り送料は当方サービス。

No.131 1995年(平成7年)10月25日発行 900

アダムスキー問題と日本GAP——久保田八郎
 ワシントン、ニューヨーク両市でUFOがひんばんに出現！——加藤淳一
 私もワシントン市でUFOを見た！——清水 正
 カイパーベルトはアダムスキーの主張を立証するか——植木淳一
 アダムスキー大会を思う——岡田茂/西川太/大根田匡史/加藤路徳
 熱烈な呼びかけに答えたUFO——石井一江
 私のUFO目撃と宇宙的な生き方——忍田裕昭
 宇宙時代の夜明け——村上博一
 人間の実体・意識・テレパシー原理——G・アダムスキー

No.130 1995年(平成7年)7月25日発行 900

M氏の「UFOと異星人」体験——久保田八郎
 アダムスキー型UFOの飛行原理を解明——遠藤昭則
 超能力者ティナの驚異的パワー——久保田八郎
 異星人女性との出会い——佐々木八郎
 スペースビートルを見かける私——原垣内良子
 透視・臨死体験・不思議な女性——千葉福造
 白山のUFO——沼倉孝彦
 父と従兄が「UFO」目撃——高橋克彦
 人間の实体・意識・テレパシー原理——G・アダムスキー

No.129 1995年(平成7年)4月25日発行 900

地獄の大地震からの奇跡の脱出——平塚和義
 大地震を前夜予感した私——西村悠子
 偉大な教訓となった大地震——田辺健司
 ロスで見かけた異星人女性——加藤純一
 アダムスキーの大地を訪れて——黎明会有志
 巨大母船、安比高原に出現！——秋山和広
 サイコメトリーによる書物の質の感知法——林 国宣
 UFOの速度・肉体と魂・
 真の科学・長寿法——G・アダムスキー

No.128 1995年(平成7年)1月25日発行 900

アダムスキー・永遠の真実と栄光——ダニエル・ロス
 わが母の驚異のUFO目撃——ミシエル・ジルガー
 総会の日にUFO出現
 那須高原で巨大母船出現！——堀江健一
 ダニエル・ロス氏宅訪問記——久保田八郎
 あなたもオーラが見える——遠藤昭則
 予知能力を持つ土星人女性の援助——G・アダムスキー

No.127 平成6年10月25日発行 900

UFO出現の国—メキシコ——久保田八郎
 ロズウェル事件とMJ12文書——坂本貢一
 UFO目撃と不思議体験の旅——4名執筆
 私もアダムスキー型円盤を見た！——田口邦雄
 UFOとオーラと想念——山崎和子
 奇跡的に難病を治す方法——久保田八郎
 異星人とUFOの真相(2)——G・アダムスキー

No.126 平成6年7月25日発行 900

驚異の瞬間移動とUFOの超低空降下——久保田八郎
 UFOを頻繁に見る私のカルマ(2)——溜池みゆき
 GAP活動と共にUFO出現頻発——林 寛子
 東北自動車道に母船が出現——林 慎子
 私も母船を見た！——津田篤孝
 ムー大陸から見た原日本人——澤入達男
 昔のUFO目撃の思い出——橋本恵一
 異星人とUFOの真相(1)——G・アダムスキー

No.125 平成6年4月25日発行 900

UFO、デザートセンター上空を飛ぶ——久保田八郎
 私はアダムスキー型円盤を至近距離で見た——大野義和
 UFOを頻繁に見る私のカルマ——溜池みゆき
 不思議な予知透視——米川宣雄
 突然出現した不思議な人間——千葉敏江
 生命と物質と超能力——伊藤隆史
 異星人はなぜ地球へ来るのか——G・アダムスキー

No.124 平成6年1月25日発行 900

信念の力、希望の力、絶対に諦めない力を起こす方法——久保田八郎
 今世紀末、大変動発生なし！——秋山真人
 私を助けてくれる異星人達——上原則子
 アダムスキー型円盤、長時間出現——石井佳子
 浅草上空に出現したUFO——堀江健一
 UFO・宇宙・人間——G・アダムスキー

No.123 平成5年10月25日発行 900

凄く超能力者のUFO目撃と遠隔透視——編集部
 私を助けてくれる異星人(1)——上原則子
 山梨県に出現した巨大UFO——編集部
 エゼキエルはUFOを見た？——久保田八郎
 私はアダムスキー型円盤を見た——海瀬宏子
 UFOと異星人の実態——G・アダムスキー
 謎の古代マヤ遺跡とUFO——久保田八郎

No.122 平成5年7月25日発行 900

金星文字を解読してUFOの推進原理を解明！——バシル・バン・デン・バーグ
 星々への切符——遠藤昭則
 オメ教授が発見した金星？文字——久保田八郎
 不思議な体験連続の人生——千葉福造
 オーラで異星人を見分ける——紙屋光孝
 私だけが見る UFO——須山有美子/宮本浩子
 万物は人間の想念に感応する——塩谷信男
 四感・生命の息・転生——G・アダムスキー

No.121 平成5年1月25日発行 900

パロマー山にUFO出現——久保田八郎
 宇宙ポータルはUFO
 アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる！——
 江戸川堤防の怪光体——鈴木 武
 不思議な筒状の雲——沼倉孝彦
 人間・イメージ・波動——佐々木八郎
 驚異の超小型円盤と宇宙の永遠の活動——G・アダムスキー

No.120 平成5年1月25日発行 900

宇宙的な信念と勇気を起こす方法——久保田八郎
 二人の異星人からの忠告——辻 俊昭
 テレパシーで植物を動かす方法——遠藤昭則
 人間は生来テレパシー能力を持つ——堀江健一
 夜空の不思議な“映像”——田辺優子
 重力と宇宙の自然のパワー——G・アダムスキー
 モアイとUFOの島へ——伊東芳和

貴重な苦しい人生体験

彼が地球での生涯を終える数日前、私は彼と二人でポストンの空港にいました。聖金曜日の朝のことです。私が彼とはじめて会った感激を胸に帰途につき、車を走らせていたのは、そのちょうど一年前の聖木曜日のことでした。私はあの一年間に永遠に感謝し続けるつもりです。私にとっては、まさにもつたいないほどの一年でした。

アダムスキーを知ってから現在に至るまでの、長年に渡る学習人生の中で、私はとても多くの苦しい体験をしました。そしてもちろん、多くの幸せな体験もありました。どれもが忘れがたい体験です。すべてが貴重な体験です。これまでに私は、苦悩のどん底から歓喜の頂点に到るあらゆる種類の体験を経てきました。でも、私が多くを学んだのは、いつもつらい体験からでした。私は今後も、苦悩し、また喜びながら生きていくことになるでしょう。それを通じて、今後もまた、少しでも多くのことを学べればと考えています。同時に、これからも、他の人々を少しでも援助できるような、精一杯の努力を続けるつもりです。それが結局は、私たちが今ここにいる、真の目的なのです。

他人を援助することの難しさ

あるときアダムスキーは、私に、「もし我々が、自分以外の人間の進歩を真の意味で援助できたとしたら、たとえ一生でたった一人の人間しか援助できなかったとしても、それだけで我々は、十分に良い人生を生きただことになる」と説明してくれました。そして彼は、「それが、どんなに難しいことか!」と強調したものです。彼の言った進歩とは、もちろん、表面的な知識を得ることではなく、真実を心の奥底で理解し、それを実践することを意味しています。そのとき、彼はさらに、「人間は、一つの小さな進歩を果たした後で、千年もの(転生の)間全く進歩しないこともある」とも語っていました。彼のその指摘は、もちろん、進歩を果たそうとして真摯な努力を続けている人々ではなく、そんなことなど全く意に介さない、他の大多数の人々を念頭に置いたものです。

人々の進歩を援助することに捧げつくされたアダムスキーの人生は、彼を落胆させてしかるべき状況で満ちあふれたものでした。それに思いを馳せると、私は今でも、とてもやり切れない思いになってきます。でも彼は報われることは少なかつたかもしれませんが、地球での自分の人生に大きな価値を見いだしていたに違いありません。

ポストンの空港で、私たちは飛行機を待っていました。アダムスキーをワシントンに連れて行く最後の飛行機です。搭乗待合室の椅子に座っていた私たちの前を、多くの人々がざわざわと行き来していました。と、そのとき、私の脳裏にある質問が浮かびました。

私はそれを大声で口にしました。「人々を援助しようとして、こんなに頑張っているのに、ほとんどの人々が全く関心を示さないのを見て、あなたがあがっかりしないのですか?」

彼は、「いや、ときにはね」と答えた後で、強い口調で続けました。

「でも、そんなふうに考えてはだめなんだ」

「じゃあ、どんなふうに考えればいいのですか?」

私がそうたずねると、彼は確信に満ちて答えたものです。

「常に希望をもつことだ。未来を見るんだよ。未来の達成と成就に常に目を向け続けるんだ。そして、若者たちに大いに期待するんだ」

彼はいつも、若者たちのことを、とても気づかっています。

「我々は若者たちを援助し、導き、勇気づけねばならない。彼らは我々の未来なんだ」

アダムスキーは、いつもそう言っていました。イエスは、この世が続くかぎり常に私たちとともにいると約束しました。

★★久保田会長英語講演ビデオ★★

●1995年9月9日、米ワシントン市で開催されたアダムスキー大会で、日本GAP久保田八郎会長は約2時間にわたって「アダムスキー問題と日本GAP」と題する講演とスライド映写を、日本人離れした流暢な英語で行なった。このビデオはその前半の講演部分。英文の原文付き。日本語訳は本誌131号に掲載。ご注文は下記へ郵便振替か現金書留でどうぞ(前金払い)。

1本¥3000 送料¥390 2本以上3本まで¥700

〒162 東京都新宿区富久町36-18
富久マンション103 伊東芳和
振替00140-8-13811 ☎03-3351-9526

アダムスキーも私たちの進歩を永遠に援助し続けると約束しました。彼は言いました。

「私はいつでもあなたらと一緒にいるよ。私は、自分の意識の中からあなたらを絶対に追い出さない。ブラザーズもきつとそうしてくれる!」

アダムスキーはいつも、「それでは、ありがとう。時間がきました」と言って講演を終えていました。私もこの講演を同じようにして終わらせていたのだと思います。

それでは、ありがとうございました。時間が参りました。



▶上は講演中の久保田会長。最下段は古川弘明氏(左)と会長。撮影/林 国宣

昨年一月二三日、名古屋市のホテルアソシアの大ホールで九五年度社団法人日本薬局協会愛知合同支部大会が開催され、この席で私(久保田)は特別招待を受けて、「太陽系文明と宇宙哲学」と題するスライド映写を行なった。

この大会は薬局経営者である薬剤師の方々の集まりで、いわば理系の集団であるから哲学的な話はどうかと危惧したが、さすがは実業家の集まりで、最後まで非常に静粛であった。

講演を午後二時より三時半まで行ない、続いてスライド六〇点を映写し、その後質疑応答を行なって、計二時間半、約二〇〇名の参会者に熱弁をふるって多大の感銘を与えた、と思っていたが、終了後のアンケートによると、短時間の講演にもかかわらず、ちよ

ど半数の人がアダムスキー問題の真実性を確信。残る半数の人は信じられず、中間はなかったと大会の実行委員長の古川弘明氏が言っておられた。しかし二人に一人は信じたという結果であるからかなりの好成績であったと思う。また中間の半信半疑の人がゼロというのは理系の方々の特徴をあらわしているようだ。マルカバツのどちらかという戦後教育の影響なのかもしれない。

私としては確信をいだけさせる切り札を出したかったのだが、喉まで出かかっていたのをグイとこらえた。

主催者側から出席者全員に新アダムスキー全集第一〇巻『超人・ジョージ・アダムスキー』が贈られた。

また当日は日本GAP名古屋支部代表・林国宣氏その他の支部会員約一〇名が特別の許可のもとに出席して講演

を聴き、終了後はレストランで歓談して旧交をあたためた。

大会実行委員長の古川弘明氏は日本GAP会員で、その関係で氏が私を特別講師として委員会に推薦し、全員一致で可決したと聞いている。氏に深謝したい。氏は名古屋市北区東味鏡二七〇一でタカラ薬局を経営。GAP名古屋支部の有力メンバーで、非常に明朗な生きかたの方。名古屋支部一回でUFO観測会を実施したときに本物のUFOが出現したのを目撃して大感動し、以来、GAP活動に熱意をもって参加しておられるという。

私の印象では、この種の大会では絶対的な確証になるものをスライドで示すのがよいと思う。アダムスキーの宇宙船の写真類はあまりにもシャープに写っているために、かえって信憑性

が希薄になるようだ。それよりも高度な社会的地位にある人かまたは科学者がUFOを目撃して写真に撮り、それを提示すれば最高だが、このような事件の発生はまず望み得ない。

名古屋は五〇年昔、大戦争が終わった直後、私が長野県の松本航空隊から復員する途中に下車した記憶がある。空襲で焼け野原になっていたが、現在ゴバン目の整然とした大都市に発展している姿に感嘆のほかほかはない。戦後にある英邁な市長が生命を賭して雄大な都市計画を実施したと聞いている。偉大な政治家が出るか出ないかで環境に大差が生じることを痛感する次第。この旅行にはGAPの黎明会より加藤純一、津田篤孝の両君が助手として同行してくれた。名古屋支部の林代表からもご援助を頂いた。(久保田)

昨年二月一日、私（久保田）は東京造形大学より招待を受けて「UFOと宇宙哲学」と題する講演を行なった。一昨年にもここで同様の講演を行なったので今回で二度目である。これは同校教授の佐藤彰先生が日本GAP会員であるため、その引きによって実現したものである。先生はご自分の授業時間によくUFOや宇宙哲学の話をお話されるという。

この大学はデザイン研究所の大御所であった故・桑沢女史が創立された学校で、横浜線の相原駅から徒歩一〇分の小高い森の中に、いかにもデザインや美術の学び舎にふさわしい築後数年の美しいモダンな校舎が清楚な姿を見せている。芸術家を目ざす学生の集団だから、きわめて個性的な人が多く、しかも自由な雰囲気満ちている。

佐藤先生は一般教養の体育を専門とされる方で、ドイツ留学の経験をもたれるが、現在はスポーツ全体も手がけて多くの病人の治療もされる。宇宙哲学の実践家でもあり、先生の研究室のドアには「太陽になろう」というポスターには「太陽になるのが貼りつけてあり室内には新アダムスキー全集をはじめとして各種の精神世界探究の書物が沢山書棚に収まっている。脇机の上には「愛されることは滅びるが、愛することは滅びない」という素晴らしい文章が書かれた紙片が透明板にはさんであつた。愛の精神の実践家であるから、

学生さん方の敬愛の的になつていらっしゃる。

今回の講演は、もう一人の女性の体育の先生である荒井和子女史が、佐藤先生の「聴きたい講義」の項目表を用いて学生からアンケートをとつたところ、「UFO問題」が最多であつたために私に声がかつたのだという。

講演は午後一時二〇分から一時間半となつていたので、一時間を講演、三〇分をスライド映写に割り振りした。GAPの黎明会から西川太、岡田茂の両君が助手として同行してくれた。階

段教室に出席した学生は約一五〇名。女子学生が多いようだ。

講演は名古屋で行なつた内容と大体同じだが、なるべく学生に興味を起さるように配慮して話す。すごく珍しい話だと思ふのか、好奇心に満ちて聴いている人が多く、今回はかなり静かに聴講してくれた。

スライド映写がまだ数点残つていたときに時間切れとなつたので終了したが、一応拍手喝采裏に壇上を降りた。ご配慮頂いた佐藤、荒井の両先生に衷心より感謝致したい。

以前にここで講演を行なつた経過をアメリカのUFO研究者ウイリアム・シャーウッドに知らせたところ、大学でUFOやアダムスキー問題を講演するとはアメリカでは考えられないことだと感嘆の書簡をよこしたことがある。アイビリーグあたりの大学が聞いたら仰天するだろう。日本でも超進歩的な学風の大学であることは間違いない。学長先生にもお会いしたが非常におおらかな温和な方であつた。今春も講演を依頼されている。喜んで参上したい。

（久保田）

▲上より講演中の久保田会長、熱心に聴講する学生さん達、佐藤彰教授。

撮影／西川太



Letters

ユーコン広場



昨年度総会の大成功を讃える

広島県 栗田雅則

昨年九月の日本GAP総会の大成功、おめでとうございます。出席者は二七〇名に達して大盛況でした。毎年、素晴らしい総会をありがとうございます。

秋山眞人先生のご講演は、体験に裏づけられた力強く自信に満ちたお話で、我々を未来に向けて前向きに導く重要な内容が豊富に含まれていました。まさにGAP会員必聴の講演で、我々がお聞きしたかった金星人の社会、哲学、またこれから我々が二一世紀に向けてどのように歩んで行かなければならないかのアドバイス等、多くの重要な情報を提示して下さいました。その中で特に「悪い習慣を打ち破るためには、目標を設定し、イメージの中に常時描き続ける事が重要である。そうすることによってより心の力が働き、宇宙的な方向に改善されてゆく」といわれていたことが心に残っています。これはGAPのミラクルイメージと同じであり、これからの社会に最も重要な指針になると思います。このノウハウを少しでも生かせるように努力する所存です。

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

思議な事がありました(以下略)。

素晴らしかった総会

岐阜県 蒲 史雄

月日のたつのは早いものでございます。GAPの総会では初めて会長にお会いできて本当に嬉しく感じています。

つねづね名古屋支部の代表・林氏より久保田会長のことをお聞きしておりました。会長が数十年にわたってユーコン誌を発行し続けてこられた話を林氏から聞いたとき、深く感動しました。その信念にあやかりたいという気持ちも含めて、お話し出来て有難く感じています。

初めてGAP総会でしたが、色々な意味でも刺激となりました。アダムスキー哲学を私は私の仕事を通じて少しでもよいか関わることの重要性や、本質を見極めることの重要性、そして私達が本来なきなければならぬ事を伝えるように頑張ることに精進したいと強く感じています。今後ともよろしく御指導をお願い申し上げます。

総会のパワーに驚く

北海道 林寺正俊

澄み渡る秋、ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。さて、今

回の総会の大成功を心よりお祝い申し上げます。おめでとうございます。私は今回初めて総会に参加させて頂いたのですが、総会のパワーのすごさに驚いて、その感動が未だ覚めやらない状態です。肌で感じる事ができた総会の雰囲気は、どうやら忘れられそうにありません。当日出席していた方々の真摯な姿に接して、

自分も頑張らなければ、と大変よい刺激を受けました。素晴らしい総会を開催して下さいました先生にお礼申し上げます。ありがとうございます。

夕食会でも楽しく過ごさせて頂き、さらに先生とも少しお話しさせて頂きました。北大ではクラーク博士とBoys be ambitious. という言葉が大学の象徴のように扱われておりますが、先生がクラーク博士の本当の言葉を教えて下さいましたので、私もそれを機会ある毎に友人たちに話しております。誤った情報が広く世間

に知れ渡ってしまったよい例なのでしょう。巷間に氾濫するUFO情報についても、クラーク博士の言葉と同様のことが言えるのかもしれない。

(久保田注) ウィリアム・S・クラーク博士はアメリカのマサチューセツツ農科大学学長であったとき、一年の休暇を得て来日し、北大前身の札幌農学校で二年間教えた。一八七七年(明治十年) 学校を去るにあたって、内村鑑三、宮部金吾らを含む

学生達に、「Boys be ambitious!」(少年達よ、大志を抱け) と叫んだといわれているが、実際には、篤信のクリスチャンであったクラーク博士が叫んだ言葉は Boys be ambitious of the things of Christ (少年達よ、キリストの事についてうんと勉強せよ) であった。このことを総会後の大夕食会で林寺君に話したのも、ついでながら同君は北大でサン

スクリットを学んでいてと言っていたように思う。そうすると古代インド哲学を専攻しているのだろうか) 来年も是非総会に参加したいと思っておりますが、まだ学生ですので、経済的にそれほど簡単に東京へ行くことができないわけはありません。つい東京近辺にお住まいの方々のことが羨ましくなっております。しかし順縁、逆縁という言葉があります。まさに、地方にいるという逆縁も何らかの意味で順縁になると考えて何事もプラス思考でやってゆきたいと思っております。今後とも御指導を宜しくお願い致します。

感動のユーコン誌二三号
愛知県 宮崎雅子

ユーコン誌一三二号をお送りいただき、ありがとうございます。またワシントン市のアダムスキー大会での素晴らしい英語のスピーチは、さすがに久保田先生の本領を發揮されたのではないのでしょうか。一三二号は大変興味深い内容でした。植木淳一氏の記事やアダムスキー講演連戦一二の内容など、やはり感動を覚えずにはいられません。

ユーコン誌の会員の方々の記事などを読んでみると、確実に意識の変化を実感します。社会全体にそういう人たちが増えていっているのでしょうか(いろいろな人口から扉を開いてゆく)、ユーコン誌が会員以外の人たちの目にとまり、人々の意識にとつ

て何らかの影響なども大きいのではないかと思います。本当にすべてがひとつなのだということが体感できれば、すべてがわかるのではないのでしょうか。

また九月二三日のGAP総会も大成功に終了されまして、おめでとうございます。次号の秋山氏の講演記事など楽しみにさせていただきます。毎日お忙しい日々をお過ごしのことと思いますが、どうかますますお元気に、よろしくお祈り申し上げます。

素晴らしい東京月例セミナー
東京 早川真智子

あのうだるような暑さが嘘のように涼しくなってきた今日の頃です。突然ですが初めてお便りさせていただきます。

アダムスキーの本と出会ったのは今年のお正月。何か本を読みたいなあとは図書館へ行き、五冊借りてきたうちの一冊が「テレパシー開発法」(文久書林出版のものでした) だったのです。(編注) これは現在、中央アト出版社より新アダムスキー全集第二巻「超能力開発法」という題で出ている。「私が求めていたものが書いてある。嬉しい!」それから他の全集もすべて借りてきて読破。大事な部分はすべてノートに書き写し、その部分を今度はワトプに打って親しい友達に送る毎日が続きました(今でも続きますが)。

たぶん書店に行けば売っているかもしれないと、新宿の紀伊国屋へ行きましたら、やはり新アダムスキー全集というかたちで売っていました。

それをすべて買い込み、毎日毎日、読む、書く、実践する（これがなかなかできないのですが）の繰り返しですが、今も続いているという次第です。

先月の東京月例セミナーには初めて出席させて頂きました。私がその会場で味わった思いというのは、「やすらぎ、暖かさ」、これにつきまます。普通、初めての会などに出席しますと緊張したりドキドキしたりするものですが、それが全くなく、私はちょうどお腹の中にいる赤ちゃんのように、ゆったり、のんびりすることができて、自分自身でも驚いたぐらいです。

そのとき、どこがこれまでの勉強会と違うのだろうか、自分なりに考えてみたのですが、一つわかったことは、会員の方々に意識の高い方が多く、人に比べるといったものがないということ。よく宗教の勉強会などに行きますと、表面はとも素晴らしいことを述べているのですが、腹の中ではそれは裏腹ということが多く感じられ、嫌な気分になって帰ってきたことを覚えていまふ今思うとまだエゴが取れていなかった人が多かったせいだろうなあと思うのですが、その違いに驚かされたという次第です。

ただ逆に考えますと、私が以前に行っていた宗教団体のレベルは、当時の私と同じだったというところで、私の方が意識が低かったまので、アダムスキーの宇宙哲学を学び、実践してゆくなかで少しずつ変わっていったのかも知れません。

GAPにいて良かった

東京 岸本 悟

久保田先生におかれましては、ますます御健勝の事と存じます。私も振り返ってみますと人生の半分をGAPで過ごさせて頂きまして、年月の経過の早い事を感じます。

考えてみますと、GAPに出会わなかったら、変な宗教に走っていたかも知れず、その事を考えると、宗教ではないGAPに出会えて良かったと思います。先生やGAPの方々に多大の恩恵を感じており、感謝しております。

来年はその恩に報いる為にも、新世紀を創る若い人達の為にかできる事を行なってゆきたいと思っております。

超常現象を科学する

東京 浜田敏博

1 無限を数える驚き

数を数えるということはどういうことでしょうか。私達は通常、自然数を1、2、3と数えるのですが、ドイツの数学者カントールは、この数えるという行為の本質を見抜き、その仕組みを無限を数えることに適用しました。

基本的に立ち返ってみると、数えるということとは、自然数を数える対象となる集合の要素に1対1の対応をさせることです。

自然数全体の集合は無限集合ですが、別の無限集合について1対1の対応を調べると、互いに無限である集合の大小を比べることが出来ます。1対1の対応がつく二つの集合は互いに同等なのですが、数学ではこれを「濃度」が等しいと言います。そしてカントールは自然数の集合の濃度を基準として、さまざまな無限

集合を数え始めました。たとえば、自然数全体の集合の濃度は、整数全体の集合の濃度に等しく、また有理数全体の集合の濃度も等しいことを示しました。

また彼は、直線上の点全体の濃度と平面上の点全体の濃度、さらには空間に含まれる点全体の濃度が互いに等しいことを証明しました。直線は一次元、平面は二次元、空間は三次元と、互いに次元が異なるにもかかわらずです。

カントールはこの発見の驚きを、「見れども、信じるあたわず」という言葉で表現しています。視点を転じてUFO問題を考えますと、現在、多くの物理学者の方々はUFOの存在を否定していますが、もし、彼らの目の前にUFOが現れたならば、カントールの場合と同様の感嘆の驚きを表わすことになるのでしょうか。

2 気功のパワー

一般に二つの物体が互いに力を受け合えば、外からの力を受けなければ、この二つの物体の運動量の総和は変わりません。たとえば、二つの物体が静止していたとして、一方の物体はいつまでも静止しているのに、他方の物体だけが動き始めるというような奇妙なことは起こり得ないと考えられます。これを運動量保存の法則、または作用・反作用の法則と言います。

この法則はニュートンの時代からのもので、アインシュタインの相対性理論が発見されて、ニュートン力学が古典物理学として相対論の中に取り込まれた現代においても、厳然と物理学の基本原理として存立

しています。

この基本原理に一見反すると思われる超常現象が、たとえば気功師による気功パワーです。気功師はたった一人で気合を入れ、手をふりかざして、目前の人間を数メートルも吹き飛ばします。

この場合、その気功師は手からそれだけのパワーを出しているのですから、基本原理からすれば、気功師の手は人間を吹き飛ばした分だけの反作用を受けて吹き飛ばされることになりません。

ところが当の気功師自体は、微動だにせずに静止しているのです。したがって、この現象は、一見、運動量保存の法則、または作用・反作用の法則に反するようには見えませんが、気功パワーを事実として認めて、このパワーは三次元的でないエネルギーだという視点で見ると、あり得ない現象ではないと思われまふ。

3 常識から極限状態の科学へ

私達は常識で直線や平面を考えると、場合、直線上の点は互いに連続的に隣接してつながっているとみえます。平面上の点はあらゆる方向への広がりの中で、四方八方へ互いに連続的に隣接してつながっているとみなしています。

ところがイタリヤの数学者ベアノは、ベアノ曲線と呼ばれる連続写像を考えました。それは「直線上の0以上1以下の区間から平面上の一边の長さが1の正方形への連続写像で、この写像による像が正方形全体となるものがある」というものです。

この結論が私達の常識では考えられないことは、例えば1メートルの伸び縮みする細いヒモをもつてきて、

一辺の長さが1メートルの正方形の中に入れるとき、どんなに複雑にからめても決して正方形全体を覆うことができないことからわかります。しかしベアノ曲線の考え方によれば、常識に反すると思われるこの正方形を埋め尽くすことが可能になるのです。その理由は、私達の考える常識とは有限の行為の範囲内に限られるのですが、実際は直線は無数の点から成っていて、有限の果ての極限状態をベアノ曲線では考えることができるからです。

現代科学の先端を担う一分野として位置づけられる量子論の世界においても、奇妙なものとしてワームホールの存在が考えられましたが、それは大変微小なものだとされました。ここでは時間間隔がプランク時間(10⁻³⁵秒)より短くなるとエネルギーのゆらぎが生じ、それが時空の構造を変化させる要因になると考えられましたが、このレベルでのワームホールは、このレベルでのワームホール(10⁻³⁵秒)の長さを持ち、プランク時間のスケールで瞬時に生まれては消えていくことになりまふ。

ここまででもプランク長、プランク時間の世界では同じ時空の別の地点へテレポーテーションするかのような事が可能になると考えられますが、さらにベアノ曲線の数学を用いれば、実物大の大きさのUFOが通れるような実用的なワームホールの存在も考えられるようになり、UFOの瞬間移動なども現実的な科学の問題として扱われるようになると思われます。

George Adamski

新アダムスキー全集

ジョージ・アダムスキー＝著／久保田八郎＝訳
全面改訂・改訳／全10巻／各 四六判



超絶した文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！UFOや惑星群の驚異的な実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

1 第2惑星からの地球訪問者 ●352頁●定価＝1,980円

UFO研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者自ら円盤や母船に乗り込み、他の惑星の超絶的な大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

2 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) ●192頁●定価＝1,300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感受し、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

3 21世紀/生命の科学 ●208頁●定価＝1,300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び宇宙通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

4 UFO問答 100 ●216頁●定価＝1,300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混乱した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

5 金星・土星探訪記 ●380頁●定価＝2,400円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれ変わった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

6 UFOの謎 ●262頁●定価＝1,980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

7 21世紀の宇宙哲学 ●148頁●定価＝1,030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

8 UFO・人間・宇宙 ●370頁●定価＝2,400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

9 UFOの真相 ●320頁●定価＝1,980円

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙の実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。アダムスキー氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ピーターセン、金星文字を解読して画期的な永久モーターを開発したバジル・パン・デン、パーグラの証言が白眉。「サンピエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

10 超人ジョージ・アダムスキー ●232頁●定価＝1,300円

歴大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの巨人の人間像を克明に描写。これ一冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究者・久保田八郎が書き下ろし執筆。

別巻 UFO-宇宙からの完全な証拠 ●480頁●定価＝2,800円

ダニエル・ロス＝著／久保田八郎＝訳

アメリカの気鋭UFO研究者ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。



中央アート出版社
〒104 東京都中央区京橋3-7-13
TEL＝03-3561-7017 / 郵便振替＝00180-5-66324

*新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き＋送料がサービスとなります。
*定価は、全て税込みです。

UFOと宇宙哲学の行方(ゆくえ)

●久保田八郎著 定価1650円 送料310円 四六判・288頁

本書はわが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が「UFO contactee」に長年にわたって掲載してきた記事や講演から選りすぐって編集したもので、UFO問題とアダムスキー哲学に関する著者の研究の集大成ともいえる内容になっています。2部構成になっている本書は、まず第1部でUFOと異星人に関する様々な問題について著者の見解を示し、続いて第2部では、アダムスキー哲学を人生に生かしたり、難病の治療に应用する実践法を明らかにしていきます。UFOを研究する人のガイドブックとしても最適の書です。



UFOと異星人の真相

●久保田八郎著 定価1650円 送料310円

四六判・256頁



UFO研究の第一人者・久保田八郎が書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとにUFOの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を明らかにしていきます。加えて超能力等の問題や、氾濫するUFO関連情報の真偽にも迫るUFOを研究する人の必携の書です。

UFO・遭遇と真実—日本編—

●久保田八郎著 定価1500円 送料310円

四六判・264頁



日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編集した本書は、実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。

※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。
ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。



中央アート出版社
〒104 東京都中央区京橋3-7-13
TEL=03-3561-7017 郵便振替=00180-5-66324

英文版「UFO contactee」No.11

日本GAP発行英文版「UFO contactee」誌は、たんなる興味本位や猟奇趣味を排した理想主義的なUFO専門誌として、世界のUFO研究団体や個人研究者から絶賛をあげています。多数のUFO専門誌はオバケ宇宙、誘拐事件、その他恐怖心をあおるような記事に終始していますが、日本GAPは日本語版、英文版とも地球世界の未来に大いなる希望をもち、人間の無限の可能性を引き出すための指針に満ちた記事を掲載しています。英文版第11号には1994年度総会におけるミシェル・ジルガー氏の英語講演の全文を主体に、きわめて有益な記事と写真とを流麗な英文で掲載。ご注文は代金後払いで結構です。



編集集後記

SSS

●本号は長文の記事を二本、重点的に掲載しました。いずれも重要な内容を含む極めて興味深い佳篇で意義深いものです。

秋山氏の講演をあらためて文章で読んでみますと、氏の高度な知識と迫力に驚嘆のほかにありません。反復熟読するたびに人間の宇宙的な生き方に目覚めさせられて、大いなる希望と勇気が湧いてきます。

●「イエスの時代を透視する」も興味満点。それにしても遠藤氏の凄い超能力には魅せられます。本来はオラ透視の大家ですが、過去生透視もたいしたものですね。日本GAP会員には超能力者が多いのですが、アダムスキーも大変な超能力者であった事実を考えますと、この能力は宇宙的な人間に昇華するための必須条件であるようにも思われます。

●アリス・ポマロイ女史はアダムスキーの晩年に最後まで師事した貴重な証人です。この方の記事「アダムスキーの思い出と彼の宇宙哲学」ですが、一時間の講演では彼女の思いのたけの百分の一も吐露してはいないと思われ、その迫真の証言です。いずれ女史史を取材して決定的なアダムスキー像を伝えるつもりです。

●UFOの目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。ふるってご応募下さい。掲載分には薄謝を呈します。

●本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に直販で卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP専門誌・季刊 春季号
UFO contactee 132号

編集発行人 久保田八郎

発行所 日本GAP

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

TEL 03-3651-1095

振替 00140-2-35912

一九九六年一月二五日発行

定価九二七円(本体九〇〇円)・送料240円

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※今年5月のみは第2日曜日の12日に変更。 会場も6階67号室に臨時変更。 ※日本GAP会員でなくても入場可能。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研究室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側の入口から入る。	会 場 費 ¥1000 セ ミ ナ ー 受 講 料 ¥1500 計 ¥2500	1:00→1:30 会員による講演。 1:30→3:00 久保田会長による講義。 テキスト=「生命の科学」 3:10→5:00 超能力開発練習/近況報告/質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-411-2367	¥500	東京月例セミナーにおける久保田会長の講義のビデオまたは録音テープを公開。テキストは上記と同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141(代) JR東海・名鉄・地下鉄の金山駅より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※当分の間、セミナーは中止。	連絡先=笠原弘可 ☎022-284-2910	¥300	同上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時に変更があるため、毎月事前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシ-4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥500	同上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時と会場は不定につき、事前に高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎166-61-0044	¥500	同上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	宜野湾市嘉数1-6-5早川宅 ☎098-890-1324 連絡先=里 孝人 ☎098-869-9964	¥500	同上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377 連絡先=伊藤正治 ☎0188-52-2831	¥500	同上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」 ☎045-681-6511。JR 関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5951-3518	¥500	同上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番地「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253 連絡先=博田文喜 ☎0264-24-3012	¥500	同上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時については事前に松口に問い合わせること。	和歌山県新宮市春日1番35号 「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー ☎0735-23-0005 JR 新宮駅下車、徒歩5分、新宮市役所隣。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0384	¥300	同上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR 鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km、市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2-3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先=曾我部勇人 ☎0992-53-2315	¥500	同上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:30 ※日時は変更があるため事前に電話。	香川県坂出市寿町1-3-5「坂出勤労福祉センター」 ☎0877-46-2463。JR 坂出駅より徒歩10分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥500	同上
伊豆支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時に変更があるため事前に高梨宛電話。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同上
福山支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:00 ※日時は変更があるため事前に電話。	広島県福山市丸の内1-3「びんご荘」 ☎0849-25-3977。福山駅から徒歩3分。 連絡先=齋田(なつめだ) 雅則 ☎0847-52-6306	¥500	同上



オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーが米カリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウェルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベツツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130

金星のシンボルマーク



中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと感知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。

¥500 送料¥80



ESPカード〈超能力開発用〉

テレビシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥1,500 送料¥130 (2~5個)¥190



テレフォンカード

日本GAP特製テレフォンカードの第7弾。1951年3月15日、午前10時30分、アダムスキーがパロマー山で6インチ反射望遠鏡を使用して連続4枚撮影した金星の母船の4枚目です。母船から6機のスカウトシップ(円盤)が発射されているのが見えます。

¥1,500 送料10枚まで¥80



GAPキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の英文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900 送料130



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いづれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000 送料4個まで130



ブックカバー

主として新アダムスキー全集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優美なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270

GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80



新アダムスキー全集 訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けいたします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文されたら代金後払いでお届け致します。

上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替が現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておりますから、現品到着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511
日本GAP 振替 00140-2-35912
☎03-3651-0958

申込先

日本GAP能力開発カセットテープ

★日本GAP東京本部月例セミナー

毎月開催される日本GAP東京本部月例セミナーから、久保田会長の「超能力開発法」解説講義と質疑応答その他を録音したテープ。これを聴けば絶大な信念と勇気がわきあがり、あらゆる障害を超えて成功に到達できます。

- テープ① ¥1500
(内容) 久保田会長による新アダムスキー全集第2巻「超能力開発法」の講義。近況報告。
- テープ② ¥1200
(内容) 会員による講義、超能力開発練習、質疑応答。
- 1995年度日本GAP総会 2巻セット ¥2700
(内容) 超能力者・秋山真人博士の「別な惑星の文明と創造性」と題する講演と質疑応答。総会テープのバックナンバーあり。往復ハガキでお願いいたします。送料=テープ1本 ¥190、2~3本 ¥270、4~6本 ¥390

品名、〇年〇月分、個数、氏名、住所、電話番号をご明記の上、郵便振替でご注文下さい。(テープの代金後払いは不可)
〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202
松村芳之 振替 00100-2-162644 ☎03-3653-9387

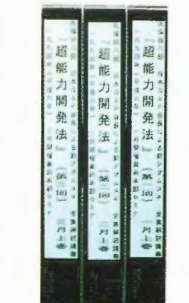
申込先

日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

- 東京本部月例セミナー 全1巻 ¥3000
(内容) 久保田会長の解説講義、他、約120分。
- 日本GAP総会 全2巻各¥3000
(内容) 毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分から在庫あり)
- 日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000
(内容) 旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分から在庫あり)

●米ワシントン市のアダムスキー大会における久保田会長の講演(英語)。全1巻 ¥3000
(内容) 1985年9月8日、久保田会長が長時間講演しためずらしいビデオ。英文テキスト付き。日本語訳文は本誌131号に掲載。送料はビデオ1本¥390、2本以上3本まで¥700。



ご注文の際は品名、〇年〇月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金後払いは不可)
〒162 東京都新宿区富久町36-18 電久マンション103
伊東芳和 振替 00140-8-13811 ☎03-3351-9526

申込先

UFO contactee
132号

一九九六年一月二十五日発行

発行所

日本GAP

〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-511 電話00140-2-35912

定価九二七円(本体九〇〇円)

送料一四〇円